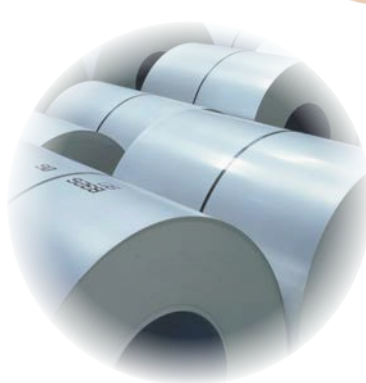




神戸製鋼グループ 環境・社会報告書

KOBELCO SUSTAINABILITY REPORT

2016



KOBELCO

時代と共に進化する神戸製鋼グループの 環境・社会貢献活動を、3つの視点で報告します。

最新のガバナンス・コードへの対応、輸送機軽量化や水素社会実現への貢献…。神戸製鋼グループの環境・社会貢献活動は、時代のニーズと共に進化しています。本報告書では、その最先端の活動と成果を、3つの視点でご報告します。

2016年度版の編集方針

本報告書は、CSR委員会下部組織の報告書作成部会が、各部門との議論を通じて、ステークホルダーの皆様にとって関心の高い事項や、事業活動としての重要性(マテリアリティ)を考慮し、3つの編集の視点から報告内容を選択して企画・構成しました。

コンプライアンスは、神戸製鋼グループが企業としての社会的責任を果たすための出発点です。コンプライアンスに基づく、公正で健全な企業活動について報告します。



▲ セミナーを通じたコンプライアンスの徹底

コンプライアンスの 徹底



事業活動を通じた 環境への貢献

生産工程における環境配慮、製品・技術・サービスを通じたCO₂排出量の削減など、地球環境への貢献という社会との“共通価値”を創造する多彩な活動について報告します。



▲ 自動車の燃費を改善する高張力鋼板やアルミニウム合金の提供

ステークホルダーとの つながりづくり

株主・投資家様、お客様・お取引先様、地域社会の皆様、社員、海外の現地社会など、多様なステークホルダーとのつながりを深めるための活動を報告します。



▲ ノエビアスタジアム神戸で開催した「小学生ラグビー教室」

本報告書は、「GRIガイドライン第4版(G4)」「ISO26000 社会的責任に対する手引」を参考にすると共に、環境報告については「環境報告ガイドライン2012年版」を、また防災については2005年8月1日に公表された防災に関するPR文書(中央防災会議企業評価・業務継続ワーキンググループ)を参考に作成しました。

ガイドライン対照表

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2016/

報告対象期間

本報告書は、2016年度版として2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)の、神戸製鋼グループの環境および社会に対する活動実績に基づいて作成しました(一部、対象期間外の内容を含みます)。環境への取り組みや社会貢献に関しての基本姿勢と、これまでの、そして現在、さらに将来の活動についても述べています。

報告対象組織

原則として、(株)神戸製鋼所および国内外グループ会社の活動を報告対象としています。

*環境データの集計対象会社は、当社ホームページに掲載しています。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2016/

主要な環境パフォーマンス一覧

神戸製鋼グループの主要な環境パフォーマンス一覧は、当社ホームページに掲載しています。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2016/



ECOWAY

神戸製鋼グループは、「環境」イメージの浸透と従業員の「環境」マインドの醸成を狙いとして、環境シンボルマークを設定しています。

フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECOWAY」という言葉を組み合わせ、「環境先進企業グループへの道を一歩ずつ確実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

CONTENTS

神戸製鋼グループ 環境・社会報告書2016

編集方針/目次 1

**〈特集1〉川崎博也会長兼社長が語る
2020年への挑戦** 3

神戸製鋼グループの概要 7

中期経営計画の概要 8

〈特集2〉スポーツを通じた社会貢献 9
いつも、ラグビーと走ってきた

コンプライアンスに対する「感覚」が高い
組織文化を持った企業グループを目指します。

神戸製鋼グループのCSRの考え方 13

コーポレートガバナンス 15

コンプライアンスの強化・徹底 17

環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、
「環境先進企業グループ」を目指します。

環境経営基本方針と6つの実施事項 19

2015年度の活動ハイライト 20

環境マネジメント

環境中長期目標とその取り組み 21

機械のバリューチェーン 23

マテリアルバランス 25

あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底

地球温暖化対策 27

資源循環の促進 30

化学物質の適正管理 32

環境負荷の低減 33

製品・技術・サービスでの環境への貢献

製品・技術を通じたCO₂排出量削減 34

素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献 35

社外からの表彰 37

研究開発での環境への貢献 38

環境関連情報の開示 39

環境会計 40

全員参加による取り組みの展開 40

リスク管理の徹底 41

海外事業所におけるリスク管理活動 42

社会性報告

ステークホルダーとのつながりづくりを通じて、
企業としての社会的責任を果たします。

ステークホルダーとの関わり 43

2015年度の活動ハイライト 44

優れた製品・サービスの提供 45

株主・投資家の皆様との関わり 47

社会との共生 49

海外での社会貢献活動 52

KOBELCO GREEN PROJECT (環境活動を通じた社会貢献) 53

社員が働きやすい職場環境 55

防災の取り組み 59

各事業所の環境保全への取り組み 61

読者の皆様からの評価 65

第三者コメント 66



株式会社 神戸製鋼所
代表取締役会長兼社長

川崎博也

「素材」「機械」「電力」の3本柱で、 中長期的な成長分野である 「輸送機の軽量化」「エネルギー・インフラ」に注力します。

神戸製鋼グループは、さまざまな分野のものづくりを通じて社会に貢献しています。当社グループには鉄鋼、溶接、アルミ・銅などの素材系事業、産業・建設機械、エンジニアリング、環境ソリューションなどの機械系事業と電力事業という幅広い事業分野があります。こうした事業から生まれる**独自の付加価値**を、社会のニーズに合わせて提供しています。

今回の中期経営計画を策定するにあたり、当社グループが持つ製品・技術・サービスの競争優位性を最大限生かして対応すべき社会ニーズを検討し、3つの社会ニーズと2つの成長分野を導き出しました。社会ニーズの1つ目と2つ目は「世界的な環境規制」と「新興国における産業基盤への発展」へのニーズ。3つ目は、エネルギー資源を輸入に頼らざるを得ない国内で、将来のエネルギーを確保するための「電源構成の多様化」です。これらに対して、「輸送機の軽量化」と「エネルギー・インフラ」の2つを当社グループの成長分野として設定しました。「素材」「機械」「電力」という3本柱の事業でこの成長分野に注力していきます。

独自の付加価値

神戸製鋼グループでしか創出できない独自の製品や技術、サービスを指します。新しい中期経営計画では、「素材」「機械」「電力」の3本柱で従来の事業戦略をさらに深化させ、神戸製鋼グループ独自の付加価値をさらに高めていきます。

「素材」「機械」「電力」の 3本柱の盤石な事業体を確立し、 持続的成長を遂げると共に、 環境・社会に貢献していきます。

2016年4月、2020年度を達成年度とする

神戸製鋼グループの新しい中期経営計画がスタートしました。

2016年度からの5年間を見通す新たな成長戦略で、

神戸製鋼グループはどのように事業や環境・社会貢献活動を進めていくのか。

キーワードの解説を交えながら、(株)神戸製鋼所会長兼社長・川崎博也がお話します。

「KOBELCO VISION “G+”」への 取り組みを開始します。

2010年に掲げた中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」の基本方針は今後も変わりませんが、“G+”の「+（プラス）」には、素材事業や機械事業での当社グループの強みを深化させ、そして電力事業が本格的に立ち上がるという2つの意味を込めました。つまり、成長分野での事業拡大と経営基盤の強化を図り、盤石な事業体を確立し、2020年度以降も持続的成長を遂げていくというのが、「**KOBELCO VISION “G+”**」の根幹となる考え方です。

マルチマテリアル化を実現するソリューション技術により、 自動車や航空機の軽量化に貢献します。

3本柱の事業成長戦略の1つ目は、素材系事業における「輸送機軽量化への取り組み」です。

当社グループの自動車素材における競争優位性として、**超ハイテン**や

KOBELCO VISION “G+”

KOBELCO VISION “G”とは、「新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して」をサブタイトルとする、神戸製鋼グループの「中長期経営ビジョン」です。今回策定した2020年度までの中期経営計画と「素材・機械・電力の3本柱の事業体確立」を、新規電力事業が全て立ち上がる予定の2023年度近傍で達成することを目指した、新たなビジョンを「KOBELCO VISION “G+”」と位置付けました。

超ハイテン

ハイテンとは高張力鋼板のこと。一般的な鋼板より軽くて強く、主に自動車の車体骨格部材に使用され、車体の軽量化に貢献します。神戸製鋼グループは、より強度の高い「超ハイテン」の開発・製造で世界をリードしています。

アルミ製品

神戸製鋼はグローバル化する自動車軽量化のニーズにいち早く対応し、中国と米国で生産体制を強化しています。

チタン

軽くて強く、耐食性に優れるなどの特性により、航空機の軽量化に活用されます。神戸製鋼は、チタンの溶解から最終製品までを手がけるわが国唯一のチタン総合一貫メーカーです。

アルミニウム・マグネシウム

完成加工部品メニューの対象拡大に向け、機械加工/表面処理の研究開発を推進しています。

水素ステーション向けユニット

神戸製鋼は、水素ステーションに必要とされる主要機器の一部を集約したパッケージ型水素ステーションユニット「HyAC mini」を開発・商品化しました。大幅なコストダウンとコンパクト化を実現し、ガソリンスタンドなどへの併設という省スペース化のニーズにも対応します。

水素ステーション総合テストセンター

2016年3月に新設。水素ステーションの実運用に近い形で、さまざまな運転パターンや充填シミュレーションの検証が可能です。

→35ページ参照

アルミ製品など、軽量化と強度を両立する最先端の素材を生み出す「ものづくり力」があります。さらに、異種素材同士をつなぐ高度な接合技術を保有しており、顧客にマルチマテリアル化を実現する独自のトータルソリューション提案ができることが、他社には模倣できない強みです。

航空機分野では、アジアを中心に運行機数の大幅な増加が見込まれ、また自動車同様に環境規制による軽量化が求められている背景があります。この分野では、当社グループの**チタン**、**アルミニウム**、**マグネシウム**素材が貢献します。チタンでは、最新型溶解炉導入を決定し、世界最大級の5万トンプレスを最大活用することで、溶解から casting・鍛造までの上工程を着実に強化します。将来的には、機械加工、表面処理の下工程までを当社グループが一貫して担うことで、輸送コスト削減や納期短縮が図れ、航空機の需要増に対応できるしきみを整えることを目指しています。

来たるべき水素社会の実現に向けて、 グループで連携した水素関連ビジネスに取り組みます。

3本柱の事業成長戦略の2つ目は、機械系事業における「エネルギー・インフラ分野への取り組み」です。水素関連ビジネスでは、水素社会の実現に向けて、経済産業省は2030年の水素ステーション整備目標を示しています。このような社会ニーズを踏まえ、コンパクト化とコストダウンを達成する新しい**水素ステーション向けユニット**を開発しており、これを拡販することでシェア拡大を目指します。

われわれが水素ステーションを手掛けるということは、国策や社会のニーズに応えるということです。コストが安く性能が良い製品を提供していかなければなりません。そのため、さまざまな条件でテストが可能な**水素ステーション総合テストセンター**を兵庫県高砂市の高砂製作所内に設置し、グループ連携で研究開発を推進していきます。

電力供給事業を通じて、地域社会に貢献します。

3本目の柱である電力事業では、「電力供給事業の安定収益化への取り組み」を成長戦略に掲げました。電力は生活に欠かせないものであり、当社グループは2002年から本格的にIPP事業に参入し、発電事業で社会に貢献してきました。

さらに、栃木県真岡市に、125万kWのガス火力発電所を建設し、2019年から2020年にかけて完成予定です。兵庫県神戸市の神戸製鉄

所高炉跡地での130万kWの発電所建設については地域の皆様の理解を得ながら進めています。順調に計画が進んだ場合、2022年度には既存IPP事業と合わせた発電能力が合計395万kWになります。なお、栃木県真岡市の発電所は、津波被害の危険のない日本初の内陸型発電所として**国土強靱化 民間の取組事例集**に選定されています。これらの事業をスケジュール通りに進めていくことが最大のミッションです。

平成27年度「なでしこ銘柄」に選定。 人材育成は、経営基盤強化の重要な柱です。

こうした事業戦略の推進力となるのは、技術開発力・ものづくり力の向上です。そのために、技術開発本部の活動強化や、輸送機軽量化に関するアンテナと情報発信機能を持つ「輸送機材事業企画室」を新設するなど、経営基盤の強化を進めています。

また、人材の確保・育成も大きな課題です。当社では2014年、多様な人材の活用を目的とする**ダイバーシティ推進室**を設立し、女性採用の拡大や育児休業からの早期復帰支援制度などの施策を進めてきました。特に女性の活躍推進の取り組みが評価され、平成27年度の「**なでしこ銘柄**」に選定されました。これは一業種一社の選定であり、たいへん名誉なことと思っています。これからも、女性が働き続けられる会社を目指すと共に、ワークスタイルの変革やグローバル人材の育成、安全衛生管理などに取り組んでいきます。

従業員一人ひとりを主役に、 地域社会に貢献する活動を推進します。

日本や世界の各地に展開する当社グループの各事業所は、地域社会の一員として、生活環境の整備や地域の発展に貢献しています。道路の清掃や工場を舞台にしたイベントの開催、緑地やビオトープの設置など、幅広い活動を行っています。

2013年度からは、「KOBELCO GREEN PROJECT」として、グループ従業員による森林整備活動などの環境貢献活動を推進しており、次代を担う子どもたちに自然を大切にする心を育んでもらう「**KOBELCO森の童話大賞**」をスタートしました。全国の小中高生より寄せられた作品から選ばれた受賞作が、兵庫県ほか後援自治体の教育機関や図書館に寄贈されています。当社グループは、こうした環境・社会貢献活動を、より一層推進していきます。

国土強靱化 民間の取組事例集

大地震や津波などの巨大災害からの防災・減災を図るため、「強さとしなやかさ」を備えた国土や経済社会システムを構築する国土強靱化計画。その民間における優良取組事例の一つとして、真岡市に建設予定の発電所が選定されました。

ダイバーシティ推進室

多様な背景や価値観を持つ人たちの活躍を支援し、組織全体の成長力を高め、活力ある事業展開につなげるために、2014年10月1日に設立されました。

→55ページ参照

なでしこ銘柄

経済産業省が東京証券取引所と共同で、女性が働き続けるための環境整備を含め、女性の登用など活躍推進を積極的に進めている企業を紹介するもの。平成24年度を初回に、平成27年度は約3,500社から45社が選定されました。

→55ページ参照



KOBELCO 森の童話大賞

「KOBELCO GREEN PROJECT」の一環として2013年度にスタートしました。小学生・中学生・高校生を対象に、森や森と関わる自然をテーマにした童話を募集し、金賞受賞作品はプロの絵本作家により絵本化され、学校や図書館などに寄贈されます。

→53ページ参照



KOBELCO CUP

ラグビー競技の裾野拡大を目的に、2005年度から神戸製鋼グループが特別協賛する、全国合同チームラグビーフットボール大会。全国から選抜された高校生ラグビーたちが競い合い、技能向上を図ります。

→10ページ参照

行動

川崎会長兼社長の座右の銘。「行って相手を動かせ、行けば相手は動いてくれる」という意味が込められています。組織やグループの総合力で成果を出すためには、仕事で行き詰った時など決して一人で悩み込まず、解らないことがあればすぐに先輩に聞きにいくといった「行動」が大切になります。

ラグビーを始めとするスポーツを通じた社会貢献活動をさらに進めます。

2015年のワールドカップでの活躍などを契機に、日本でもラグビーの人氣が高まってきました。当社グループはラグビーの裾野拡大と高校生ラグビーの育成・強化を目的として高校ラグビーを支援しています。夏の大会「**KOBELCO CUP**」の開催や、リオデジャネイロ・オリンピックの正式種目となった女子7人制ラグビーの支援など、日本のラグビー振興に尽力してきました。また、東日本大震災への復興支援活動など、当社ラグビー部はさまざまな活動に取り組んでいます。こうしたラグビーを通じた社会貢献を、今後も続けていきます。

新たな基準に対応する、ガバナンス・コンプライアンスへの取り組み。

今回の中期経営計画や環境・社会貢献活動の基盤となるのは、しっかりとしたコーポレートガバナンスであり、コンプライアンスです。当社グループでは、新たなガバナンス・コードへの対応を進め、コーポレートガバナンス体制の強化に努めていきます。また、従業員一人ひとりの「**行動**」を大切に、新たな事業戦略やCSR活動を進めていきます。

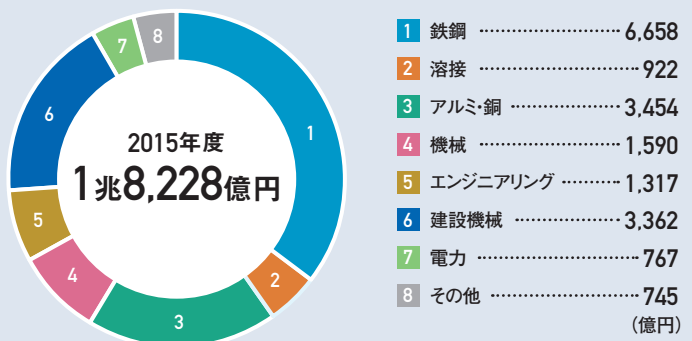
2020年、そしてその先に向け前進する神戸製鋼グループに、どうぞご期待ください。



神戸製鋼グループの概要 [2016年3月31日現在]

会社名	株式会社神戸製鋼所
英文社名	Kobe Steel, Ltd.
グループブランド	KOBELCO
創立	1905年9月1日
設立	1911年6月28日
社長	川崎 博也
資本金	2,509億3,003万3,900円
売上高	連結：1兆8,228億円
従業員数	連結 36,338人 単体 10,833人(出向者を除く)
連結子会社および持分法適用関連会社	213社

グループ事業別売上高(連結)

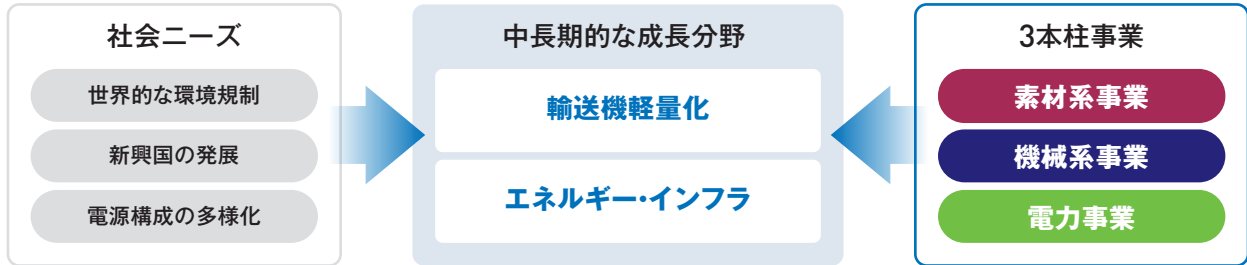


(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高などの消去額589億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,228億円となります。

中期経営計画の概要

神戸製鋼グループの成長分野

グループの事業の3本柱と、社会のニーズから、これからの成長分野を設定。神戸製鋼グループ独自の付加価値の最大化を図ります。



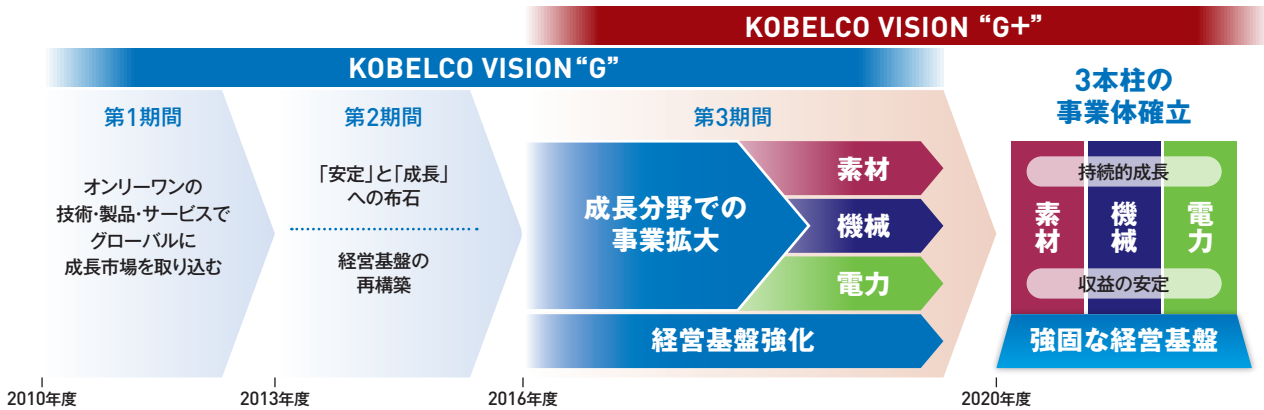
「輸送機軽量化」「エネルギー・インフラ」の成長分野に **素材** **機械** **電力** の3本柱でアプローチ

従来の成長戦略をさらに深化させ、神戸製鋼グループ独自の付加価値を高めることで、
圧倒的な競争優位性を発揮し、事業を拡大/社会に貢献

2016~2020年度中期経営計画 位置付け

素材 **機械** **電力** の3本柱の盤石な事業体確立へ

今中期経営計画と、新たな3本柱の事業体確立のビジョンを持ち合わせた**KOBELCO VISION "G+"**を2016年度からスタート。

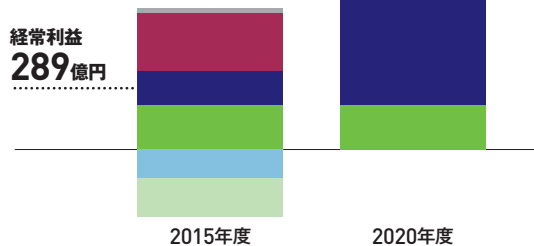


業績イメージ

電力を安定収益基盤に
ROA (経常損益/総資産) 5%以上の成長を目指します。

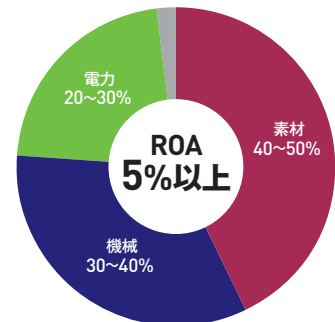
- 素材 (2015年度は鉄鋼除く)
- 機械 (2015年度はコベルコ建機除く)
- 電力
- その他
- 鉄鋼 (2015年度)
- コベルコ建機 (2015年度)

経常利益
289億円



目指すべき事業ポートフォリオ像
(事業別利益構成)

電力を安定収益基盤に
素材、機械で成長



3本柱の事業体確立時
(進捗中の新規電力プロジェクト稼動以降)

日本のラグビーとともに。
神戸製鋼ラグビー部、
88年の軌跡。

いつも、ラグビーと 走ってきた。

ワールドカップでの活躍や男女7人制ラグビーの
リオデジャネイロ・オリンピック出場などで、注目を集める日本のラグビー界。
神戸製鋼ラグビー部は、88年にわたり、日本ラグビーの最前線を走り続けてきました。
その活動は、トップリーグでの活躍にとどまらず、
高校ラグビーの支援によるラグビーの裾野の拡大や、
女子7人制ラグビーの普及支援、東日本大震災の復興支援など、
ラグビーを振興し、社会に貢献する幅広い分野に広がっています。
日本のラグビーと共に走り、支えてきた神戸製鋼グループとラグビー部。
その活動の軌跡と、スポーツを通じた社会貢献活動をご報告します。

- 1928 (昭和3) 神戸製鋼ラグビー部創部。
- 1935 (昭和10) 第5回神戸実業団ラグビー連盟大会優勝。翌年も連続優勝を遂げる。
- 1944 (昭和19) 戦争激化のため実質的な休部状態に。
- 1950 (昭和25) 第2回全国実業団ラグビー大会に初出場。
- 1952 (昭和27) 柴垣がラグビー部で初の日本代表に選出。
- 1973 (昭和48) 関西社会人Bリーグ優勝。
- 1989 (平成1) 第26回日本選手権で、初の日本一に。以降、1995年まで7連覇を達成。
- 1991 (平成3) 第2回ワールドカップに、林、大八木、平尾、細川、堀越が日本代表に選出。
- 1995 (平成7) 第32回日本選手権でV7を達成した翌々日、阪神・淡路大震災が発生。野球部、バレー部などと合同で巡回バトロールを実施。
- 1996 (平成8) 阪神・淡路大震災チャリティ国際試合を開催。
- 1997 (平成9) 平尾が日本代表監督に就任。
- 2003 (平成15) 社会人トップ12チームによるリーグ戦「ジャパンラグビートップリーグ」で初代王者に輝く。
- 2006 (平成18) 北海道・夕張市で、KOBELCO CUPの前身となる「KOBELCO ジャパンユースラグビードリームトーナメント2006第2回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会」を開催。
- 2007 (平成19) 北海道・夕張市で「KOBELCO カップ2007 第3回全国高校合同ラグビー大会」と改称し、大会を開催。
- 2008 (平成20) 北海道夕張市から長野県上田市菅平高原に場所を移し、「KOBELCOカップ2008第4回全国高校合同チームラグビー大会」を開催。以降、毎年開催。
- 2011 (平成23) チャリティイベントなど東日本大震災の復興支援活動。「第1回全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会」を開催。
- 2012 (平成24) 6月に釜山市で被災地支援活動。9月には新日鉄釜山OBチームと「V7チャリティマッチ」を開催。
- 2015 (平成27) ラグビーワールドカップ日本代表に木津、山下、伊藤、ウイングの4人が選出。
- 2016 (平成28) スーパーラグビー2016、日本代表チームに木津、山中が選出。山下がチーフス(ニュージーランドカンファレンス)から出場。

神戸製鋼ラグビー部は、
未来へと走り続けます。





1928年10月21日、神戸製鋼ラグビー部発足
同年11月17日には、旧関西学院グラウンド(現・
神戸市王子公園)で、初の紅白試合を行った

トップリーグ最古の歴史を持つ、 神戸製鋼ラグビー部。

神戸製鋼ラグビー部が産声をあげたのは、1928年のことでした。当時の神戸製鋼機械部長徳田治三郎は、「若い社員を育成するために、体と心を強靱にする何か良い鍛錬法はないか」と考え、ラグビーに注目。若手社員15名が選手として参加し、10月に社員食堂で「神戸製鋼ラグビー部」が発足しました。社会人チームリーグ戦「ジャパンラグビートップリーグ」の参加チームの中で、最古の歴史を持つチームとなります。

1931年、会社に正式に公認された神戸製鋼ラグビー部は、従業員の一体感の醸成や士気を高めることなどを目的に活動し、強化に努めました。1935年の第5回神戸実業団ラグビー連盟大会で初優勝を飾り、その翌年も連続優勝。それ以来、第二次世界大戦による休止期間を挟みながら、神戸製鋼ラグビー部は日本のラグビーの最前線で闘い続けています。

日本選手権7連覇、 そしてトップリーグ初代王者へ。

88年の軌跡の中で、神戸製鋼ラグビー部がもっとも輝いたのは、1989年から始まるV7です。1989年の第26回日本選手権の初優勝から、1995年の第32回日本選手権まで、幾多の強豪チームを破り7連覇を達成。この間、1991年に開催された第2回ラグビーワールドカップには5名が日本代表選手として選出されるなど、神戸製鋼ラグビー部は黄金期を迎えます。

公式チーム名が「KOBELCO Steelers(コベルコ・スティールーズ)」となったのも、この頃でした。これは、1989年のV1達成後に、当時の大八木バイスカップテンが考えたもの。「Body of Steel, Heart of Gold. We Call Them Steelers(強靱な肉体を持った、心優しき男たち。それが『スティールーズ』である)」との気持ち



写真左／1989年1月15日、第26回日本選手権で悲願のV1

写真右／1991年1月8日、第29回日本選手権でV3につながった同点トライ



が込められています。

2003年には、「ジャパンラグビートップリーグ」で初代王者に輝きます。この頃から、神戸製鋼ラグビー部は、社会貢献活動にも力を入れ、特に日本ラグビーの振興と裾野の拡大に努めるようになりました。



1995年1月8日、V7を達成した表彰式後の記念撮影

KOBELCO CUP— 幾多の日本代表を育んだ、夏の全国大会。

神戸製鋼グループは、高校ラグビーを支援するために「KOBELCO CUP」(全国高等学校ラグビーフットボール大会)に特別協賛しています。これは、全国から選抜された選手たちが競い合い、レベルの高い試合を通じて技能向上を図るものです。大会のサポート役として、神戸製鋼ラグビー部の現役選手や、OB「クラシックスティールーズ」も参加し、次代を担う高校ラグビー選手を指導しています。

「KOBELCO CUP」は、2005年に北海道夕張市で第1回を行い、2008年の第4回から開催地を長野県の菅平へ移しました。試合形式は全国を9ブロックに分けたブロック対抗戦。未来の日本代表を目指す強豪校から選抜される「17歳以下(U17)の部」と、部員不足により単独では「花園」に出場できない選手たちで編成される「18歳以下(U18)の部」があり、2015年に11周年を迎えました。

「KOBELCO CUP」U18の部に参加した選手の中から選抜したラガーメンを2チームに分け、冬の花園大会決勝戦の前に「もう一つの花園」として東西対抗戦を行っています。2016年1月7日の試合が8回目の開催となりました。



2015年に開催した「KOBELCO CUP」

リオデジャネイロ・オリンピック正式種目 女子7人制ラグビーを応援しています。

「KOBELCO CUP」には、2011年から「女子の部」も加わりました。男女7人制ラグビーが正式種目となる2016年のリオデジャネイロ・オリンピック、2020年の東京オリンピックに向け、さらなるレベルアップを支援していきます。

また、2015年度には、12月27日の花園大会開会式後に、2017年開催の女子ラグビーワールドカップ大会に向け、「U18花園女子15人制」の試合を行い、大会を盛り上げました。

10年以上にわたって「KOBELCO CUP」に特別協賛してきた神戸製鋼グループと神戸製鋼ラグビー部は、男女の高校生ラグビーを支援していくことで、ラグビーの裾野開拓と、世界で活躍する選手の育成を図っていきます。



女子ラグビーの試合風景

2015から2020へ。 世界への熱い挑戦。

2015年にイングランドで開催された第8回ラグビーワールドカップに続き、2020年の東京オリンピックまで、毎年のようにラグビーの国際大会が行われます。2019年の日本初開催となるラグビーワールドカップでは、開催都市の一つに神戸市も選ばれました。神戸製鋼グループと神戸製鋼ラグビー部は、日本ラグビーの普及と強化によりいっそう貢献していきます。

「ラグビーワールドカップ2015」において、日本は惜しくも決勝トーナメント進出を逃しましたが、強豪の南アフリカに勝つなど善戦しました。神戸製鋼ラグビー部からは、山下裕史、木津武士、伊藤鐘司、クレイグ・ウイングの4選手が日本代表として選出され、予選プールを闘いました。

世界への挑戦はいままも続いています。2月から8月にかけて開催されるラグビー世界最強クラブチーム決定戦「スーパーラグビー」に、日本代表チーム「サンウルブズ」が参戦。神戸製鋼ラグビー部

から木津武士、山中亮平の2選手が出場しています。また、山下裕史、アンドリュウ・エリスの各選手はそれぞれがニュージーランドなどの出場チームに所属し、世界最強を目指して熱戦を繰り広げています。

ワールドカップに続き、世界最高峰の舞台で闘うこの経験は、これからの日本ラグビーの大きな力となることでしょう。

成長した姿で帰ってきます。

この度はスーパーラグビーに挑戦できることを大変嬉しく思うと同時に、快く送り出してくれた会社、オファーをいただいたチーフスの関係者の皆様に感謝申し上げます。自分にとって新たなチャレンジですので、精一杯努力し、持っている力を思う存分発揮したいと思います。そして多くのことを吸収し、成長した姿で神戸に帰ってきます。



山下裕史選手
(チーフス所属)

神戸から釜石へ。 東日本大震災での被災地支援活動。

神戸製鋼ラグビー部が日本選手権7連覇を達成した直後の1995年1月15日、阪神・淡路大震災が発生し、甚大な被害をもたらしました。神戸製鋼ラグビー部の部員たちは、他のスポーツ部の部員たちと合同で自警団を結成。「くろがね応援隊」と称して、被害がひどい寮や社宅の周辺を中心に24時間体制の巡回パトロールを



津波の跡が残る、釜石市根浜海岸周辺の清掃活動

2016年2月20日、ノエビアスタジアム神戸で開催した「小学生ラグビー教室」に、7選手が参加



行いました。この活動は、不安と闘っていた地域の皆様から大変喜んでいただきました。

そして2011年の東日本大震災。阪神・淡路大震災で支援を受けた東北の皆様にも、神戸製鋼ラグビー部はさまざまな活動で恩返しをしています。2012年6月には、岩手県釜石市を訪問し、釜石市のラグビーチーム「釜石シーウェイブスRFC」と合同で被災地支援活動を実施しました。釜石市の根浜海岸周辺の清掃活動では、約80名の選手とスタッフが、約3時間にわたりガレキや流木、溝にたまった泥を取り除く作業などを行いました。また、地域の方々との交流会や、釜石市陸上競技場では小中高生約100名を対象としたラグビー教室を開催しました。小学生に両チームの選手が加わった混合チームで試合も行われ、楽しいラグビー教室となりました。この訪問は、大震災を経験したチーム同士が、合同で復興のお手伝いをしたいという想いから実現したものです。

また、2012年9月に開催した神戸製鋼ラグビー部OBと新日鐵釜石ラグビー部OBによる「V7チャリティマッチ」、試合会場で実施している義援金の募金活動、福島県や宮城県でのラグビー交流会の開催など、神戸製鋼グループと神戸製鋼ラグビー部は、東日本大震災への支援活動を続けていきます。

“ONE FOR ALL, ALL FOR ONE” 地域と、社会とともに。

“ONE FOR ALL, ALL FOR ONE” 一人はみんなのために、みんなは一人のために。ラグビーのチームプレーの精神を表すこの言葉のままに、神戸製鋼ラグビー部は地域社会に密着したチームとして、さまざまな活動を行っています。たとえば、毎年初夏に灘浜グラウンドで開催されるファンと選手のふれあいイベント「コベルコラグビーフェスティバル」では、ファンと一緒に競う「大運動会」や、一般の参加者によるタッチフットボール大会、日本代表選手によるトークショーなど、さまざまな催しで地域を盛り上げています。その他にも、地元や日本各地で開催されるスポーツ関連のイベントに選手たちが参加しています。

“ONE FOR ALL, ALL FOR ONE”—— 神戸製鋼グループと神戸製鋼ラグビー部は、地域と、社会と共生しながら、スポーツを通じた社会貢献活動を続けていきます。

COLUMN

神戸製鋼グループは、多彩なスポーツ支援活動を続けています。

スポーツを通じた社会貢献活動は、ラグビーにとどまりません。

神戸製鋼グループと神戸製鋼ラグビー部が行っている、多彩なスポーツ支援活動の一部をご紹介します。

スポーツを通じた地域交流を促進

神戸製鋼ラグビー部の拠点に併設された「灘浜スポーツゾーン」では、人工芝グラウンドとテニスコートを地域の皆様へ一般開放しています。

人工芝グラウンドは、ラグビーやサッカー、アメリカンフットボールの他、グラウンドゴルフにも利用できるよう用具の一部を貸し出しており、近隣の学校やラグビー・サッカーのクラブチームなど、スポーツを愛する人々の交流の場として役立っています。



女子ラグビーの練習風景

新スポーツ「スペースボール」の普及

「スペースボール」は、神戸製鋼が支援するスポーツNPO法人「SCIX」が考案したもので、ラグビーやサッカーのように「スペース（空間）」を活かしてボールをつないでいくことで、子どもたちの身体能力や状況判断力などを養うことのできる新しいスポーツです。

当社グループならではの財産であるラグビーに関わる人材や設備を活用し、近隣の小学生を「灘浜スポーツゾーン」に招いて、「スペースボール」を指導しています。



スペースボールを体験する子どもたち

「日本せきずい基金」への寄付活動

神戸製鋼ラグビー部は、2015年11月2日、NPO法人「日本せきずい基金」に対し、昨シーズンの試合会場で実施した募金活動および、2015年5月31日に実施した「コベルコラグビーフェスティバル2015」における収益金の一部の合計226,502円を寄付しました。

せきずい損傷はラグビー選手にとっておこりやすいケガであり、神戸製鋼ラグビー部は13年前から同基金への寄付を行っています。これからも引き続き、募金活動を継続していきます。



「日本せきずい基金」の皆様と

神戸製鋼グループの CSRの考え方

神戸製鋼グループは、企業としての社会的責任(CSR)を果たすことをグループ経営の重要な施策と位置付け、グループ企業理念に基づく「企業倫理綱領」を制定しています。

「企業倫理綱領」は、具体的な行動指針である「企業倫理規範」「企業行動基準」および「実施要領」により構成されており、環境への貢献やステークホルダーとのつながりづくり、地域社会との共生など、企業としての社会的責任を果たすための基盤となる規範を示しています。

神戸製鋼グループは、全ての企業活動を「企業倫理規範」「企業行動基準」に則って行うことで、ものづくりを担うメーカーとして環境と社会に貢献していきます。



全従業員が共有する
神戸製鋼グループの約束

神戸製鋼グループ 企業理念

- 1 信頼される技術、製品、
サービスを提供します
- 2 社員一人ひとりを活かし、
グループの和を尊びます
- 3 たゆまぬ変革により、
新たな価値を創造します

企業としての社会的責任(CSR)を
果たすための行動指針

お客様と社会に信頼される企業へ

コンプライアンスの強化・徹底

法令その他の社会的規範を遵守し、
公正で健全な企業活動を行う。

優れた製品・サービスの提供

安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分に配慮し、
優れた製品・サービスの提供を通じて社会に貢献する。

社員が働きやすい職場環境

社員の人格・個性・多様性を尊重し、
ゆとりのある豊かな職場環境を実現する。

ステークホルダーとの関係強化

ステークホルダーの立場を尊重する。
顧客、取引先、社員、株主等を含む
幅広い社会との健全で良好な関係維持に努める。

企業行動 基準

企業倫理規範を実践するために、
とりわけ重要な行動の基準

社会的課題を解決する
共通価値の創造へ

ものづくりを通じた 環境・社会貢献

事業を通じた
環境への貢献

各拠点や
スポーツを通じた
社会への貢献

地域社会との共生

地域社会に貢献する良き「企業市民」たることを目指す。

環境への貢献

地球環境の保全と
豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

海外の現地社会への貢献

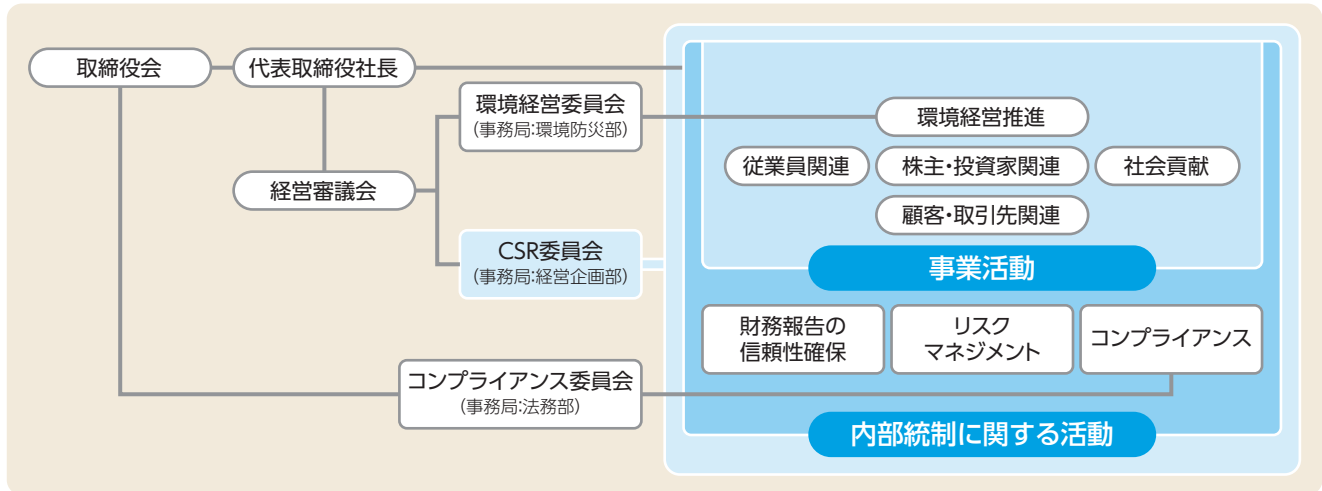
海外においては、その文化や慣習を尊重し、
現地の発展に寄与する。

コーポレートガバナンス

CSR推進体制

企業としての社会的責任(CSR)を果たすため、神戸製鋼グループでは「CSR委員会」を中心に以下の推進体制をとっています。

推進体制図



神戸製鋼グループのCSRに関する基本方針の決定およびその活動を集約する機関として、2006年より「CSR委員会」を設置しています。

また、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」

を設置しており、重要事項に関する審議・提言・進捗確認を行っています。

「CSR委員会」は、これらのCSRに関する活動を取りまとめ、「神戸製鋼グループ環境・社会報告書」として発行しています。

コーポレートガバナンスの強化と充実

神戸製鋼グループは、監査等委員会設置会社への移行や、独立社外取締役会議の設置など、コーポレートガバナンスのさらなる強化と充実を図っています。

1. 経営機構の考え方(経営機構、経営の委任範囲)

需要分野、事業環境、商流、規模などが異なる広範囲なセグメントによる複合経営を進め、そのシナジー効果を発揮させることが神戸製鋼の企業価値の源泉であり、持続的成長の礎となる技術開発やイノベーションの追求は、現場と一体となった議論無くしては達成できないと考えます。

さらに、複合経営の推進には、多岐にわたる事業に対するリスク管理や経営資源の分配などにつき、活発な議論や適切な意思決定と同時に、機動的な業務執行の監督を取締役会が行

うことが必要であり、そのためには、監督と執行を完全には分離せず、業務執行側に対する正しい理解を持ったメンバーが取締役に参画することが望ましいと考えています。

こうした考えのもと、神戸製鋼はこれまで、幅広い事業に対する充実した監査を行うために、監査役がそれぞれ調査権限を持つ監査役設置会社を選択してきましたが、監督機能のさらなる強化、経営に関する意思決定の迅速化を図るため、監査等委員会設置会社に2016年6月に移行しました。

2. 取締役、取締役会の体制

① 取締役(監査等委員である取締役を除く。)

取締役(監査等委員である取締役を除く。)は、定款上の員数である15名以内とし、取締役会における実質的な議論を確保しつつ、取締役の多様性にも配慮した適切な人数で構成しています。

会長、社長の他、本社部門、事業セグメントおよび技術開発部門を統べる業務執行取締役などをメンバーとします。

ただし、活発な議論や適切な意思決定と監督をより高めるためには、社外の公正中立な視点や少数株主をはじめとするステークホルダーの視点を反映することが不可欠であるため、社外取締役を複数名招聘することを基本としており、現在、監査等委員でない社外取締役を2名招聘しています(この2

名以外に監査等委員として3名の社外取締役を招聘しています。)

この社外取締役は、毎月開催される取締役会へ出席し、会社の持続的な成長のために必要な社外の公正中立な意見や少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を踏まえた適切な助言と、こうした観点に基づいた議決権の行使、取締役会の監督、会社と経営陣の間の利益相反監督の役割を担います。この他、当社の「当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針」に基づき設置されている独立委員会の委員メンバーとなっています。

独立委員会は、神戸製鋼に対し大規模買付者による提案が行われた際に招集される他、半期に1回、定時委員会を開催します。

定時委員会は、当社の各事業を取り巻く環境、事業の概況、近時における会社法制の変化や資本市場の状況など外部環境についての情報収集、認識の共有化、議論を行う場です。独立委員に選任された社外取締役は、その一員として、有事において公正中立かつ適切な意見を取締役会に提言できるように備えます。

②監査等委員である取締役、監査等委員会の体制

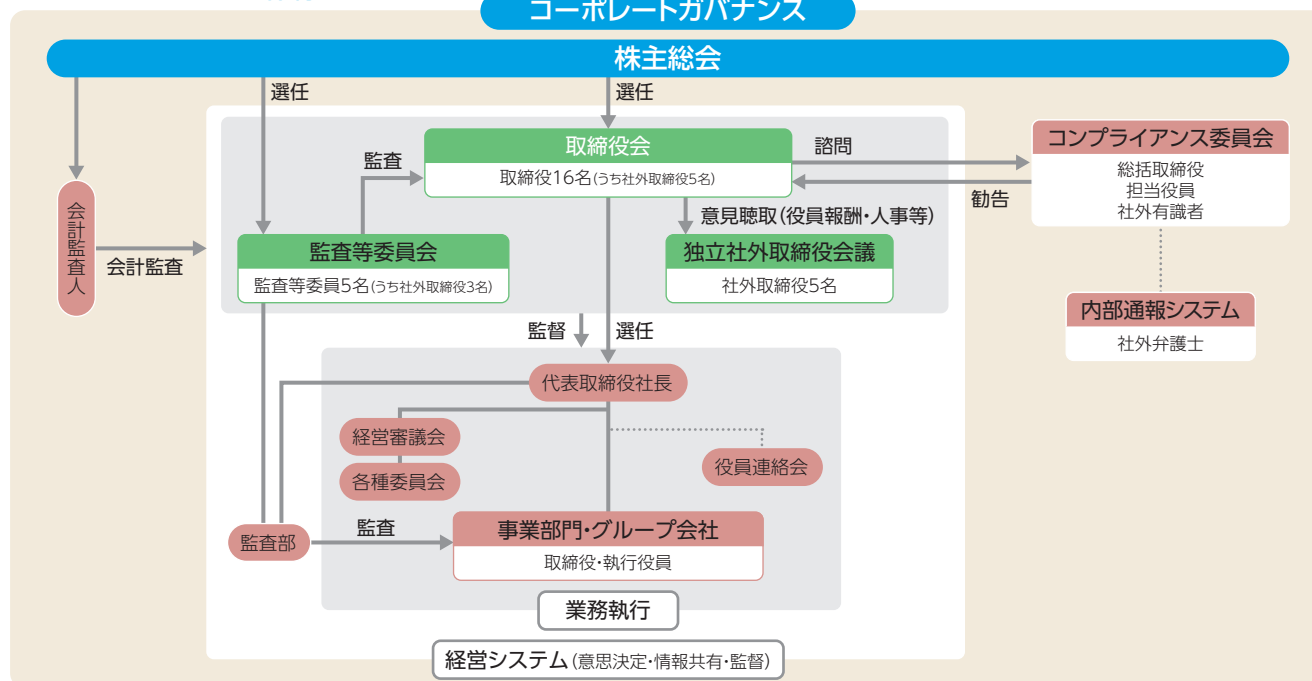
監査等委員会設置会社である神戸製鋼は、会社法上の監査等委員会に関する規定(非業務執行取締役3名以上、そのうち過半数を社外取締役とする)に対し、透明性・公正性が担保され、広範囲な事業セグメントを持つ複合経営に対し十分な監査機能が果たされるよう、監査等委員会を社内委員2名、社外委員3名の5名で構成することを基本としています。

また、会社法上、常勤の監査等委員の設置義務はありませんが、監査等委員会の決議により社内の監査等委員を常勤に指名することで、充実した監査が行えるようにしています。

また、社内の監査等委員は経営陣と監査等委員会との連絡、内部監査部門に対する指示・統制を担い、社外の監査等委員は、監査に対する専門的な知見の提供および公正性を担保する機能を担います。こうした機能を果たすため、社外の監査等委員は、監査に必要な知見を提供できる法曹界、金融界、産業界等幅広い分野から招聘します。

加えて、監査等委員には、常に財務および会計に関する相当程度の知見を有するものを配し、監査の実効性向上に配慮しています。

コーポレートガバナンス体制



3. 取締役候補者の選定の考え方、役員報酬の考え方

神戸製鋼は、取締役が株主から付託を受けた役割を果たすために必要な資質の考え方および社外取締役の独立役員の基準を定めており、取締役候補者は、この考え方に沿って指名しています。

また、役員報酬については、中長期的な企業価値向上を図る上で、各々の役員が果たすべき役割を最大限発揮するため

③取締役会と執行機能

取締役会は、重要な業務執行その他法定の事項につき審議・決議と業務執行の監督を担います。

ただし、取締役会が迅速な判断を阻害しないよう取締役会での審議基準を定め、一定の範囲で社長以下の業務執行の責任者に権限を委譲します。

加えて、業務を執行する取締役を補佐する者として執行役員をおき、経営の委任と迅速な経営判断の実施ができる体制とします。

取締役および執行役員の任期は、変化の激しい経営環境に機敏に対応するため、1年とします。

④独立社外取締役会議

神戸製鋼は、独立社外取締役の機能を最大限に活用すべく、経営陣の指名や報酬に対する客観的な意見の聴取、その他業務執行に関する情報の提供の場として独立社外取締役会議を設置しています。

独立社外取締役会議は独立社外取締役のみで構成され、定例会議を四半期に1度、その他必要に応じ臨時会議を開催します。

独立社外取締役会議には、適宜、業務執行取締役等が出席し、情報提供・意見交換を行います。

なお、監査等委員会、内部監査部門、内部統制部門との情報共有などを図るため、独立社外取締役会議の事務局を経営企画部が担い、これを監査部、人事労政部がサポートすることとしています。

のインセンティブとして機能するよう、基本報酬と、単年度の業績目標達成度に連動する業績連動報酬、および企業価値向上に対する価値観を株主と共有することを目的とした株式報酬で構成しています。

※これらのコーポレートガバナンスに関する考え方、取組みの詳細については、「神戸製鋼所のコーポレートガバナンスに対する基本的な考え方、取組み」として当社ホームページ(<http://www.kobelco.co.jp>)企業情報欄の「コーポレート・ガバナンス」に掲載しています。

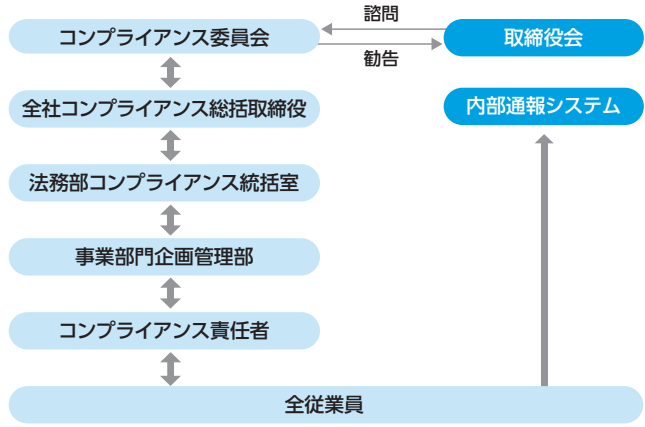
コンプライアンスの強化・徹底

神戸製鋼は、コンプライアンスを企業存立の大前提であると考えます。これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの定着のための諸施策を推進していくことにより、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

コンプライアンス体制

神戸製鋼は、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しています。社内委員2名に対し、公正中立な立場の社外委員が5名と過半数を占める同委員会では、コンプライアンス活動計画の立案および進捗状況の確認、「内部通報システム」への通報事案に関する審議などを行っています。

また、「全社コンプライアンス総括取締役」「全社コンプライアンス担当役員」、専門部署としての「法務部コンプライアンス統括室」を設置し、事業部門の企画管理担当部署や各部署に設置する「コンプライアンス責任者」と連携しながら取り組みを行っています。



コンプライアンス教育

神戸製鋼は、役員およびグループ会社の経営幹部を対象とした「コンプライアンストップセミナー」をはじめ、各階層別研修にコンプライアンスに関する内容を織り込み、社員がキャリアの節目ごとに幅広く研修を受ける機会を設けています。特にコンプライアンス責任者に対しては、毎年研修を受講することを要請しています。また、法令教育e-ラーニングを毎年実施し、全社員がコンプライアンスへの理解度を確認する機会としています。



▲ コンプライアンストップセミナー

コンプライアンス・マニュアルの整備

神戸製鋼は、「企業倫理綱領」の「企業行動基準」に記載された各項目について、より詳しく説明した「社員のための行動手引き」を作成し、全社的なコンプライアンス・マニュアルとして社員に配布しています。このマニュアルは、後述のリスク管理活動で全社が共有する「共通リスク」の項目と連動しており、リスク管理活動の基本マニュアルにもなるものです。



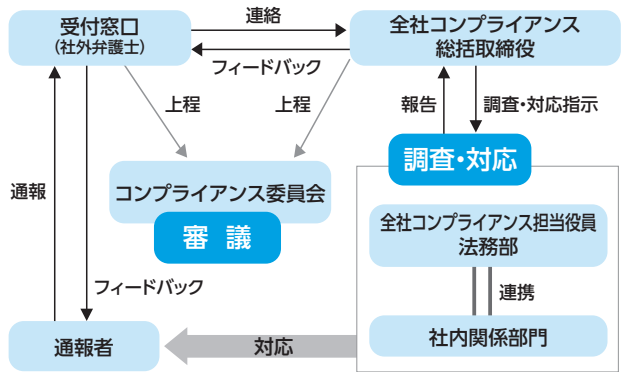
さらに、独占禁止法、下請法、個人情報保護法、安全保障貿易管理などの個別の法令マニュアルも整備し、社員が業務の中で疑問に思ったことを参照しやすい形で整理しています。

各種詳細マニュアル

- 独占禁止法遵守マニュアル
- 安全保障貿易管理イントラネット
- 下請法遵守マニュアル
- 企業対象暴力対策マニュアル
- 知的財産情報イントラネット
- 公務員との付き合い方マニュアル
- 個人情報管理マニュアル
- セクシュアルハラスメント防止マニュアル
- 企業秘密管理マニュアル

内部通報システム

法令・倫理などのコンプライアンス違反によるリスクの顕在化・拡大を未然に防止し、また早期に問題を把握し、対策を講じるためのしくみとして、「内部通報システム」を設置しています。これは、社内において法令に違反するような不正行為を発見した場合、中立的な立場にある弁護士会推薦の弁護士(社外弁護士)を受付窓口として通報できるようにしたものです。通報内容はコンプライアンス委員会で審議され、適切な対応につなげるしくみとしています。また、グループ各社にも展開し、有効に活用していきます。

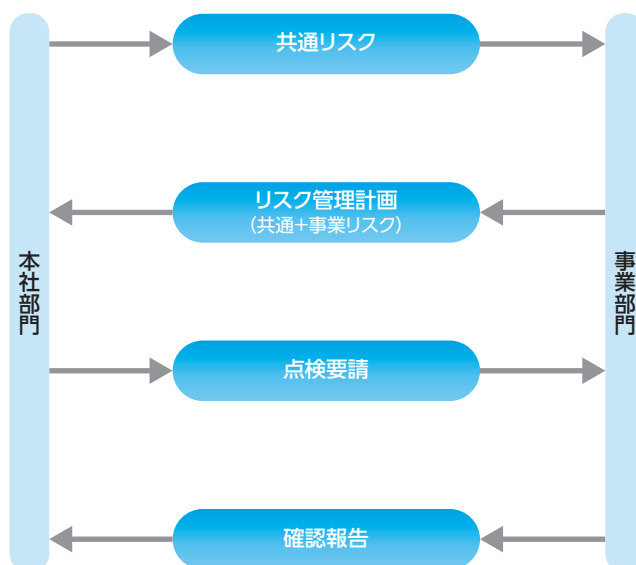


リスク管理活動

神戸製鋼グループは、自らの部署のリスクを、自らが点検し、改善につなげていくという「リスク管理活動」に取り組んでいます。

この活動は、本社部門が、法令や社会の変化を踏まえた上で発信した全社の「共通リスク」に基づいて、各部署が独自の「事業リスク」も加えて、「リスク管理計画」を策定し、事業の中で実行していくというものです。また、年度末には、一年間の活動結果を経営トップも含めた事業部門、部署の責任者が点検・確認して、次年度以降の取り組みにつなげています。

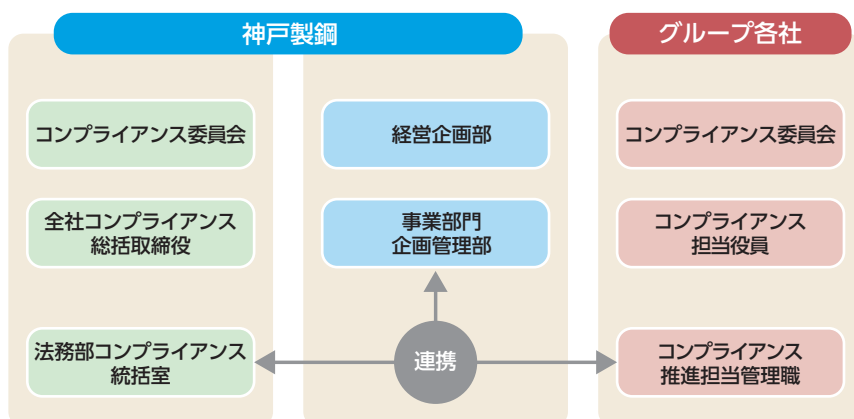
すなわち、各事業部門の中で、コンプライアンスも含めたリスク管理のPDCA(Plan, Do, Check, Action)のサイクルが回るしくみとし、この取り組みを継続することで、それぞれの事業の中に、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化が定着することを目指しています。



グループでの取り組み

神戸製鋼グループは、グループ各社において、コンプライアンス委員会などの設置、「企業倫理綱領」の制定に加え、内部通報システムを導入しています。各社には「コンプライアンス担当役員」と「コンプライアンス推進担当管理職」を設置し、神戸製鋼と連携しながら各社での取り組みを進めています。

また、グループ会社においても、神戸製鋼と同様に、リスク管理活動に取り組んでいます。



コンプライアンスに対する高い「感度」を持った企業グループを目指します。

全社コンプライアンスの総括 代表取締役副社長執行役員 梅原 尚人

神戸製鋼グループでは、法令や社会規範の遵守なくして企業の存立はあり得ないとの認識の下、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと位置付け、その徹底に取り組んでおります。

従来から取り組んできた活動に加え、グループ全体でのコンプライアンス意識のさらなる向上を目指し、国内のみならず、海外現地法人におけるコンプライアンス教育を中心とした活動を積極的に進めております。

こうした取り組みをこれからも継続し、コンプライアンスに対する「感度」の高い組織文化の醸成を図り、ステークホルダーの皆様の期待にこたえていける企業グループを目指してまいります。



環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針と、6つの実施事項を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

6つの実施事項を検討・提言する機関として「環境経営委員会」を設置し、グループの全従業員が参画する環境経営で「環境先進企業グループ」を目指します。

■ 環境経営基本方針

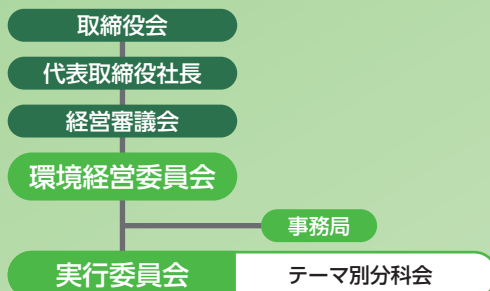
神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

VISION. 1	環境に配慮した生産活動
VISION. 2	製品・技術・サービスでの環境への貢献
VISION. 3	社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

グループ環境経営の実践による
さらなる企業価値向上
(グループの環境力向上)

■ グループ環境経営推進体制



■ 6つの実施事項

- 1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底
 - 地球温暖化対策…………… P27～29
 - 資源循環の促進…………… P30～31
 - 化学物質の適正管理…………… P32
 - 環境負荷の低減…………… P33
- 2 製品・技術・サービスでの環境への貢献…………… P34～38
- 3 環境関連情報の開示…………… P39
- 4 社会との共生・協調…………… P53～54
- 5 全員参加による取り組みの展開…………… P40
- 6 リスク管理の徹底…………… P41～42

神戸製鋼グループは、環境経営を着実かつ地道に推進します。

環境経営委員会委員長(常務執行役員) 山本 浩司

神戸製鋼グループは、「環境に配慮した生産活動」、「製品・技術・サービスでの環境への貢献」、「社会との共生・協調」を三本柱とした環境経営基本方針を定め、グループ環境経営を実践しています。

環境管理の徹底により国内外のそれぞれの地域社会やお客様から信頼を得つつ、低炭素社会の実現に向けて、「輸送機の軽量化」や「水素インフラ」などで社会に貢献する企業グループとして、環境経営を推進してまいります。



ECO HIGHLIGHTS

2015年度の活動ハイライト

1 あらゆる面で環境に配慮した
ものづくりの徹底 **P.29** >>

全社横断的省エネルギー支援活動の
取り組み



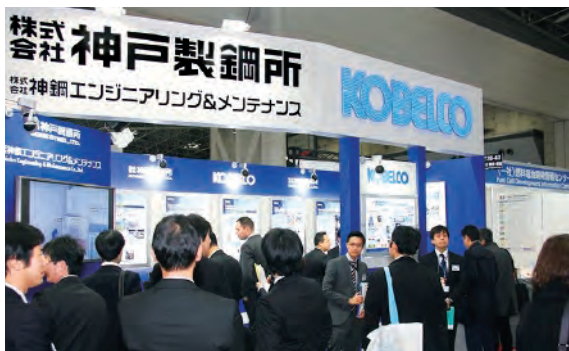
2 製品・技術・サービスでの
環境への貢献 **P.37** >>

長府製造所が「省エネ大賞
省エネルギーセンター会長賞」を受賞



3 環境関連情報の開示 **P.39** >>

第12回国際水素・燃料電池展
(FC EXPO 2016)に出展



4 社会との共生・協調 **P.53** >>

第3回 KOBELCO森の童話大賞



5 全員参加による
取り組みの展開 **P.40** >>

神戸製鋼グループ環境会議を開催



6 リスク管理の徹底 **P.42** >>

海外拠点との情報共有・連携



環境中長期目標とその取り組み

神戸製鋼グループは、環境経営基本方針に基づいた「6つの実施事項」について、2013-2015年度「中期環境経営計画」を策定し、環境に配慮した事業活動を推進してきました。今後は、新しく作成した2016-2020年度「中期環境経営計画」に基づいて取り組んでいきます。

実施項目	長期方針	2013-2015年度の中期目標	
1 あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底	地球温暖化対策	あらゆる事業活動において省エネルギー、CO ₂ 削減を推進し、地球温暖化防止に貢献する。	■徹底した省エネルギー活動に取り組み、業界ごとの自主行動計画を達成する。
	資源循環の促進	埋立処分量ゼロを目指した活動を継続する。	■原料・副原料の使用量適正化、再資源化・新規リサイクル技術および用途の開発などを進め、業界ごとの自主行動計画を達成する。
	化学物質の適正管理	「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」に基づき有害物質削減に取り組む。	■グループ全体で継続して化学物質を適正管理する。将来リスクの可能性のある化学物質（ジクロロメタン、鉛など）の削減・代替活動に取り組む。
	環境負荷の低減	自主管理の徹底を図り、環境負荷低減に継続的に取り組む。	■きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。
2 製品・技術・サービスでの環境への貢献	全ての製品開発・技術開発において、環境に配慮し、環境調和型製品や新たなビジネスを創出する。	■環境に資する高機能製品の拡販に努めると共に、バイナリー発電などによる再生可能エネルギー機器や水素社会に対応する機器などの開発・販売を推進し、低炭素社会への取り組みを強化する。	
3 環境関連情報の開示	環境関連情報を積極的に開示し、利害関係者とのコミュニケーションを図る。	■情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。	
4 社会との共生・協調	環境の側面から社会との共生・協調を図る。	■森林整備活動、子どもたちへの環境教育を進めると共に、新たな貢献活動として「KOBELCO森の童話大賞」などを含むKOBELCO GREEN PROJECTに取り組む。	
5 全員参加による取り組みの展開	神戸製鋼グループの全社員が、継続して環境マインドの向上に努める。	■環境教育（階層別教育、eラーニング）による全従業員の意識・知識・気付き能力の向上を図る。また、コベルコ エコライフ ノートの普及参加を継続して促進する。	
6 リスク管理の徹底	リスク低減に向け、常に組織的、計画的に取り組む。	■グループ全体でマネジメントシステムを維持整備すると共に、環境監査、環境確認調査等を実施するなど、事業所における法令遵守のためのしくみを確立していく。 ■海外においても、現地環境調査を継続し、海外グループ会社の環境管理レベルの向上を図っていく。	

自己評価		○:計画通りに進捗 △:課題あり ×:計画未達	
2013-2015年度の実績		2016-2020年度の取り組み	
		掲載ページ	
<ul style="list-style-type: none"> ■各業界の「低炭素社会実行計画」の取り組みを開始した。また、鉄鋼業界では低炭素社会実行計画フェーズⅡとして2030年目標を策定した。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■各業界策定の「低炭素社会実行計画」達成に向け、引き続き省エネルギー活動に取り組んでいく。 	27
<ul style="list-style-type: none"> ■廃棄物削減に向けた取り組みを進めた結果、各事業部門で2015年自主行動計画目標を2014年度に前倒しで達成した。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■継続して廃棄物処分量の削減を図り、新たに制定される業界の自主行動計画目標を達成する。 ■鉄鋼スラグについては、「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」に従い適切な処理を行う。 	30
<ul style="list-style-type: none"> ■指定化学物質管理シートなどにより化学物質の適正管理を徹底すると共に、ジクロロメタン、鉛などの削減の取り組みを行った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■化学物質の適正管理、削減・代替活動に取り組むと共に、PCB特別措置法やフロン排出抑制法へ適切に対応する。 	32
<ul style="list-style-type: none"> ■ばい煙や排水の管理を徹底し、排出量の抑制を継続して実施した。 ■加古川製鉄所では、降下ばいじんの製鉄所影響の自主管理目標を達成すべく、対策の徹底を図った。 	評価 △	<ul style="list-style-type: none"> ■きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。 	33
<ul style="list-style-type: none"> ■水素関連市場の拡大を見据え、2013年度にグループ横断的なH2プロジェクトを発足した。 ■自治体の水素関連協議会のメンバーとして、当社製品のPRと情報の収集に努めた。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■輸送機の軽量化、水素社会の実現、電源の多様化など環境・エネルギー分野の課題に関して、神戸製鋼グループ全体で取り組み、低炭素社会の実現に貢献する。 	34
<ul style="list-style-type: none"> ■環境・社会報告書、ホームページ、環境モニターなどにより環境情報を公開した。また、各種展示会に出展し、当社グループの環境関連製品・技術の紹介を行った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。 	39
<ul style="list-style-type: none"> ■2015年度「KOBELCO森の童話大賞」は3年目を迎え、全国的な広がりを見せた。 ■「児童館出前エコ教室」、「森林整備活動」は、関係する自治体などからも高い評価を得た。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■「KOBELCO森の童話大賞」、「森林整備活動」、「児童館出前エコ教室」を3本柱とするKOBELCO GREEN PROJECTを推進し、地域社会などとの共生・協調を図る。 	53
<ul style="list-style-type: none"> ■階層別教育、eラーニングなどにより、従業員の環境意識、知識の向上を図った。 ■コベルコ エコライフ ノートの普及を目的としてWeb化を行い、家庭における環境意識啓発を図った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■階層別教育、eラーニング、グループ会社への環境教育などを継続し、環境意識の啓発を行う。またコベルコ エコライフ ノートへの参加を奨励し、環境意識啓発を図る。 	40
<ul style="list-style-type: none"> ■社内事業所、グループ会社事業所において環境マネジメントシステムの整備・充実を図ったが、一部不適合が生じ、対策を講じるなど、取り組みの途上である。 ■中国においては環境担当者の常駐化など環境管理レベルの向上を図った。 	評価 △	<ul style="list-style-type: none"> ■本社による現地環境監査を継続しつつ、対象のグループ会社、関連会社を拡げ、自立した環境管理体制の充実を図っていく。 ■海外のグループ会社に日本同様の環境経営の浸透を図りつつ、環境確認調査などによりリスク管理の向上を図る。 	41

機械のバリューチェーン

優れた性能/機能に、
“環境負荷の低減”という価値を加えます。

汎用圧縮機などの産業機械から、蒸気・地熱などを活かした発電システムまで…。
神戸製鋼グループは、独自の技術を駆使して、さまざまな機械製品をお客様に提供しています。
機械分野では、開発・設計から廃棄物削減・リサイクルまでの過程の中で、環境負荷低減に貢献しています。

開発・設計



製品の開発・設計段階から、省エネルギーやリサイクルなどを組み込んだ製品評価や設計プロセスを採用しています。

取り組み事例

製品アセスメントによる省エネルギー、省資源に取り組んでいます。

対象製品の設計プロセスにおいて、従来の相当製品と比較した省資源、省エネルギー、リサイクル化、分別化、廃棄物などの評価を行い、製品設計に反映しています。

製造



資源やエネルギーの使用削減などに取り組み、省エネルギー性の高い製品を製造しています。

取り組み事例

工場のあらゆるところで、省エネルギー化を徹底します。

物流センター・工場棟の照明の高効率化、空気圧縮機の合理化、インバータ導入などによる工場の省エネルギーを実施しています。

製品



圧縮機メーカーのパイオニアとして、使用エネルギーを最小限に抑えるために、さまざまな技術を確立してきました。省エネルギー性能世界トップレベルの圧縮機、エネルギー関連製品を世界に送り出しています。

取り組み事例

環境配慮型製品の提供を通して、お客様の環境負荷低減に貢献しています。

廃棄物削減・リサイクル



最終埋立処分量ゼロを目指し、廃棄物の削減・リサイクルを徹底しています。

取り組み事例

再資源化による最終埋立処分量ゼロを達成しています。

木屑、廃油、廃塗料などの廃棄物の削減・再資源化を徹底し、最終埋立処分量ゼロを達成しています。

お客様による使用



温水や地熱を使った発電システム、捨てられていた蒸気を有効活用するコンプレッサなど、多様な製品でお客様に合わせた省エネルギー提案を行っています。

取り組み事例

省エネルギー提案を行っています。

コンプレッサを使用するお客様の省エネルギー対策として、省エネセミナー、省エネ診断、最新の省エネ機器の導入などをご提案しています。現状の把握から具体的なソリューションまで、お客様のニーズに合わせてトータルサポートします。

物流



トラックから船舶・鉄道などに製品の輸送手段を切り替えるモーダルシフトを最大限に活用し、物流チェーン全体で環境負荷を低減しています。

取り組み事例

省エネルギーに配慮し、製品を出荷しています。

出荷ルートの見直しなどの決め細やかな配慮により、省エネルギーに配慮した製品出荷を実施。また、中国工場との物流を効率化するため、部品などの運搬の効率化および「通い箱※」の利用による梱包の簡素化を図っています。

※製品を運ぶための輸送箱。何度でも使えるため、梱包の削減に役立ちます。

マイクロバイナリー

温水や蒸気、地熱を熱源にした発電が可能であり、省エネルギーや電力ピークカットの節電対策として、また小規模グリーン電力発電の構築が可能です。



スチームスター

工場のボイラから排出される蒸気を使った発電システムです。余剰蒸気を利用して最大で160kWを発電する、小型かつ高性能の発電機を提供しています。(ラジアルタービン型発電機を使用した場合は2,000kW)



コベライオン-SD

蒸気モータで駆動し圧縮空気を生み出すエアコンプレッサと、大気に排出されていた圧縮熱を活用する圧縮熱回収ユニットを組み合わせた世界初の「圧縮熱回収型蒸気駆動式エアコンプレッサ」。従来の電気駆動式と比べ、エネルギー使用量は約85%、CO₂排出量は約90%を削減します。



マテリアルバランス

神戸製鋼グループは、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営を展開しています。その一環として、エネルギー効率の向上と、副生ガスや排熱、水、資源などの有効利用、副産物の再資源化に継続的に取り組んでいます。

神戸製鋼における資源・エネルギーの利用状況

鉄鋼事業部門

神戸製鋼のエネルギー使用総量の94%を占める鉄鋼事業部門は、2015年度に1,153万トンの鉄鉱石と613万トンの原料炭・コークス、9PJ^{*1}の石炭、石油、都市ガスなどの燃料および73万MWhの購入電力を使用しました。生産工程で生成するコークス炉ガス、高炉ガス、転炉ガスなどの副生ガスを鋼材加熱用の燃料や自家発電所の燃料などとして、ほぼ全量を有効に活用しています。さらに、排熱を利用した発電を積極的に実施しており、副生ガスによる発電と合わせて、生産工程で使用する電気の60%以上をエネルギー回収による発電でまかなっています。

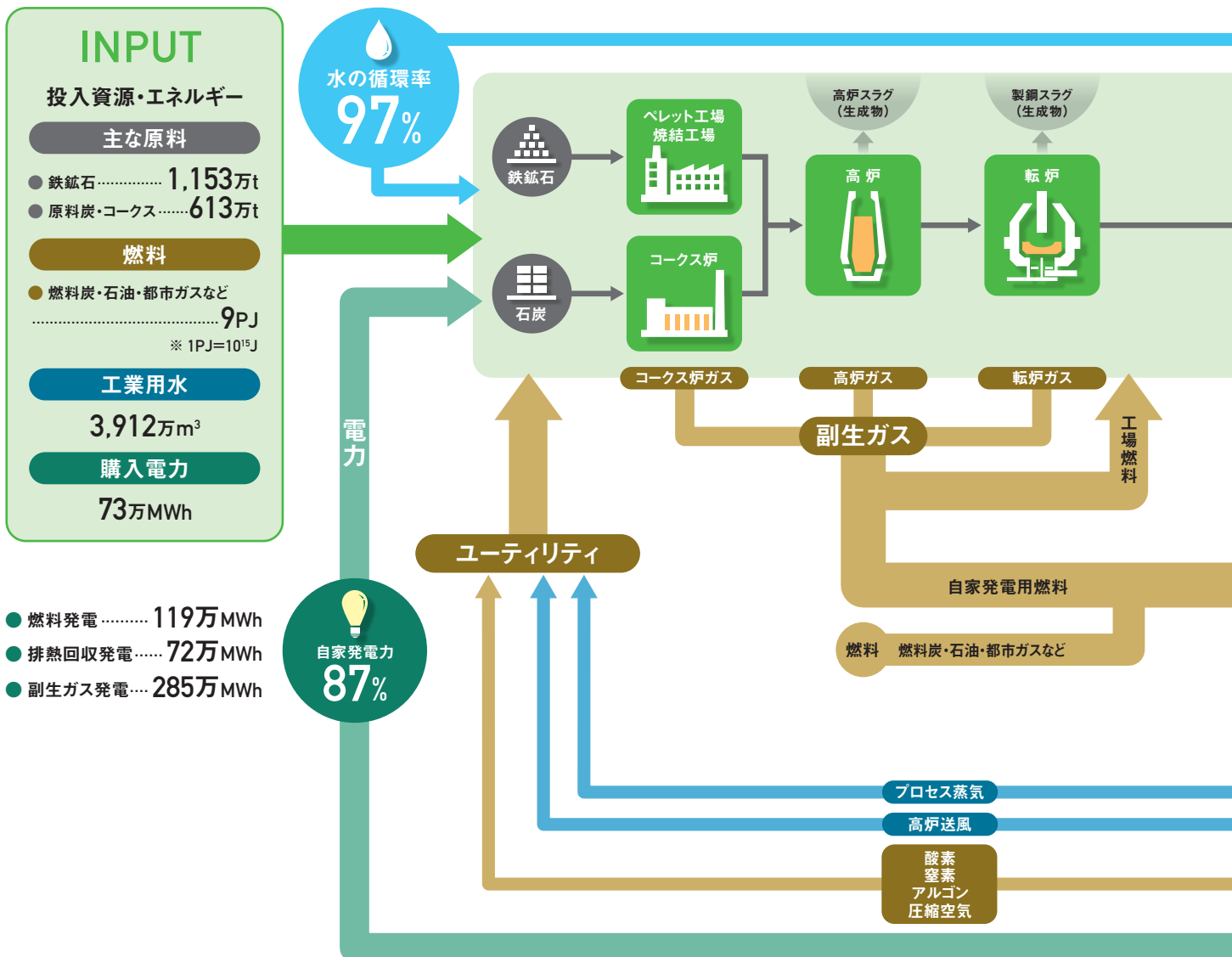
また、生産工程から生成する鉄鋼スラグ^{*2}と、ダスト、スラッジなどの副産物については、社内で原料として再利用する他、セメント用資材や路盤材にするなど有効活用を図っており、副産物の98%をリサイクルしています。

今後も、資源やエネルギーの効率的な利用およびその技術開発を進めるなど、あらゆる面で環境に配慮したものづくりに取り組んでいきます。

^{*1} 1PJ=10¹⁵J

^{*2} 鉄鋼スラグ・鉄鋼精錬の際に熔融した鉄鉄などから分離・回収する生成物。高炉スラグや製鋼スラグなど。

鉄鋼事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2015年度)



溶接事業部門

溶接事業部門は、金属製の線材やフープと、溶剤、水ガラスなどを原料として、溶接に使用する溶接棒や溶接ワイヤを生産しています。2015年度は、藤沢、茨木、西条、福知山の各工場合計で、17万トンの原料と、エネルギーとして6.2万MWhの電力や0.2PJの都市ガスなどの燃料を使用して、16万トンの製品を生産しました。結果として、1.5万トンの副産物が発生しましたが、そのうち98%をリサイクルしています。

●溶接事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2015年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
線材、フープ、溶剤、水ガラスなど	17万t	溶接棒、溶接ワイヤなど	16万t
エネルギー		副産物	
購入電力	6.2万MWh	発生量	1.5万t
都市ガスなど	0.2PJ	リサイクル率	98%

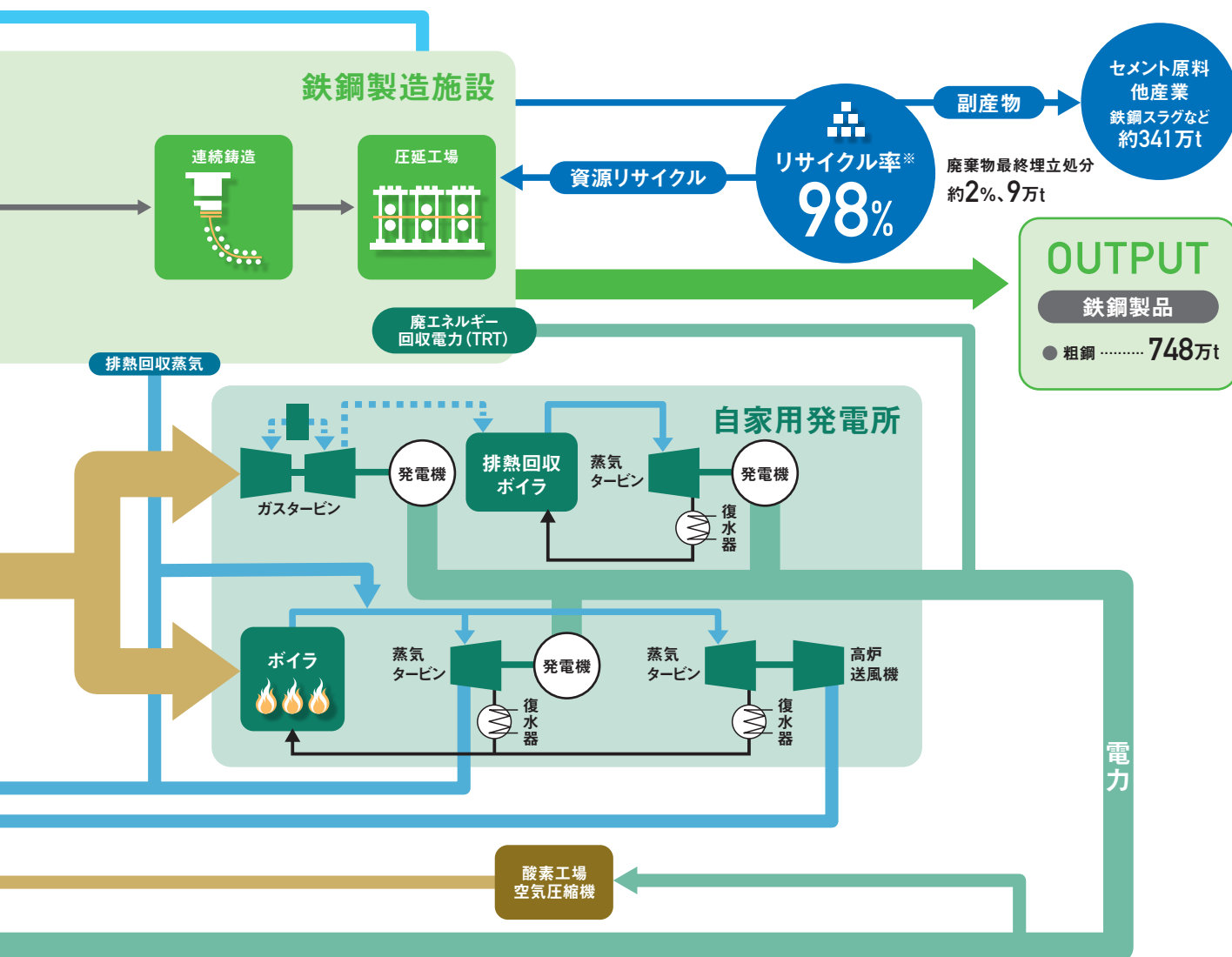
アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門は、アルミ、銅の地金やスクラップなどを原料として、各種アルミ製品および銅製品を生産しています。2015年度は、47万トンの原料と、エネルギーとして50万MWhの電力や4.4PJの都市ガスなどの燃料を使用して、43万トンの製品を生産しました。溶解・鑄造に伴う鉱さいや集じんダスト、排水スラッジなど、3.1万トンの副産物が発生しましたが、96%をリサイクルしています。

●アルミ・銅事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2015年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
アルミ地金、銅地金など	47万t	アルミ製品、銅製品	43万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	50万MWh	発生量	3.1万t
都市ガスなど	4.4PJ	リサイクル率	96%

※ リサイクル率:発生量のうち、最終埋立処分以外の処理を行った量の比率



地球温暖化対策

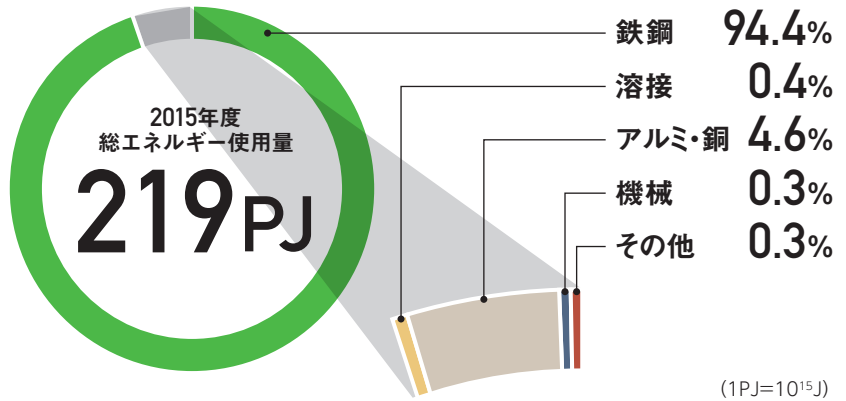
神戸製鋼グループは、地球温暖化問題に対応して、事業活動のあらゆる面で省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

生産工程における省エネルギー

神戸製鋼グループは、2015年度、グループ全体で219PJのエネルギーを使用しました(原油換算565万kl)。

そのうち、約94%が鉄鋼関連事業、約5%がアルミ・銅関連事業で使用されています。

事業部門別エネルギー使用量(グループ会社含む)



CO₂排出量実績と排出量削減の取り組み

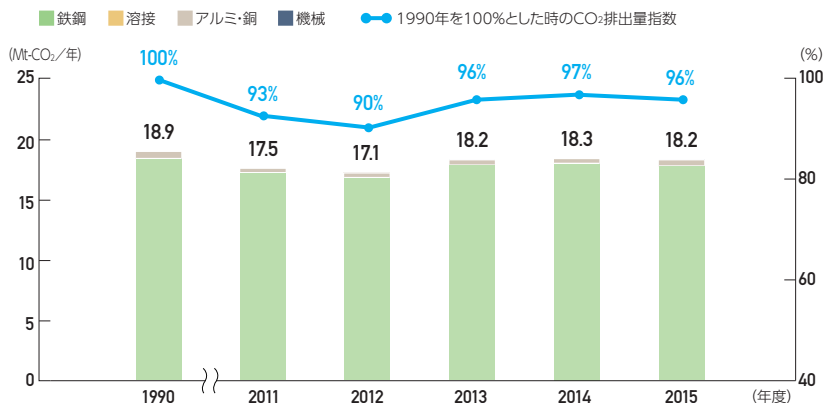
神戸製鋼事業部門排出量合計

神戸製鋼は、2015年度、各事業部門合計で18.2MtのCO₂を排出しました。そのうち、約96%が鉄鋼事業部門、約3%がアルミ・銅事業部門で排出されています。

2015年度実績は、前年度比で1%減少、1990年度比では4%減少しています。

生産性改善、設備の高効率化やエネルギーロス低減などによる省エネルギー活動に継続的に取り組んでいきます。

神戸製鋼合計 CO₂排出量の推移(試算値)



※アルミ銅事業部門は1995年度の排出量を、機械事業部門は1997年度の排出量を基準値として、1990年度の排出量に算入。
 ※2015年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2014年度実績を使用しています。
 ※電力などの係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

鉄鋼事業部門(神戸製鋼)

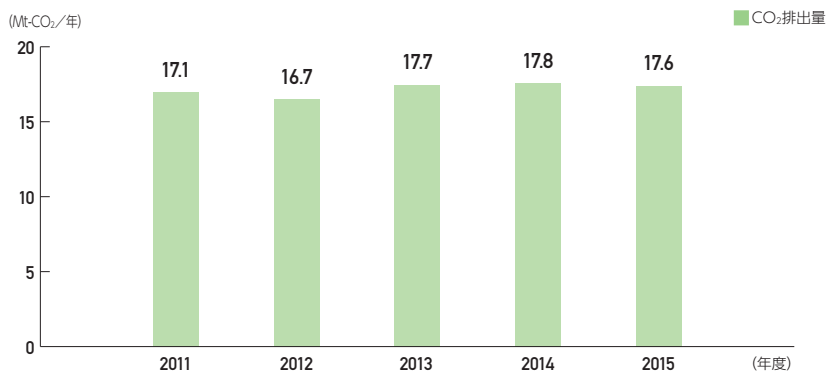
鉄鋼事業部門では、設備改善や操業改善などを図っています。

2015年度は各事業所において、ファンのインバータ化などを実施しています。

2015年度実績は前年度比で1%減少しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

鉄鋼事業部門(神戸製鋼) CO₂排出量の推移(試算値)



※コークス製造を含めた鉄鋼事業部門合計での試算値。
 ※2015年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2014年度実績を使用しています。
 ※電力などの係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

溶接事業部門(神戸製鋼)

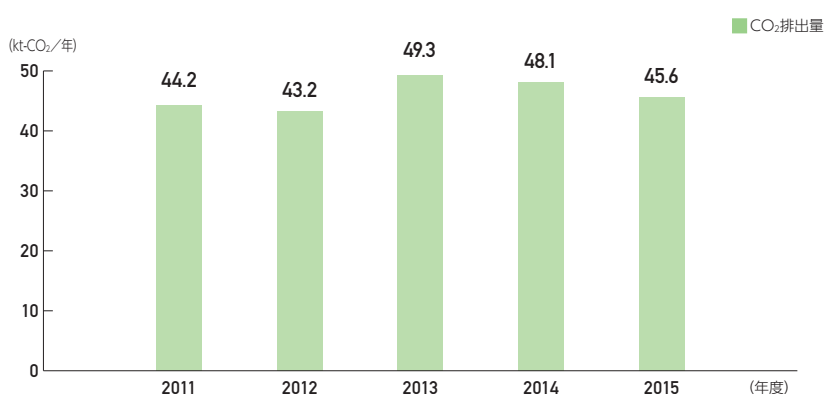
溶接事業部門では、生産性改善、設備の高効率化やエネルギーロス低減を図っています。

2015年度は各事業所で照明のLED化や設備のインバータ化工事を計画的に実施しています。

2015年度実績は前年度比で5%減少しています。

今後も、さらなる省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

溶接事業部門(神戸製鋼) CO₂排出量の推移(試算値)



※電力などの係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

アルミ・銅事業部門(神戸製鋼)

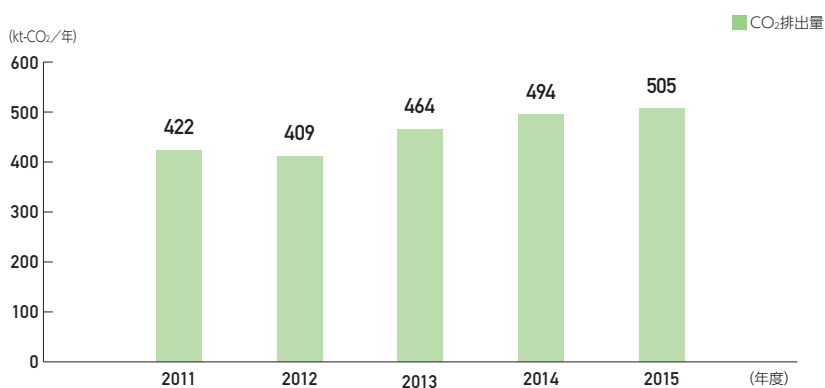
アルミ・銅事業部門では、石油系燃料から天然ガスへの燃料転換を順次実施し、合わせて設備集約、効率化を図っています。

2015年度は各事業所において、蒸気コンプレッサーの導入、排熱回収設備の更新、熱処理炉の断熱強化などを実施しています。

2015年度実績は前年度比2%増加しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

アルミ・銅事業部門(神戸製鋼) CO₂排出量の推移(試算値)



※電力などの係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

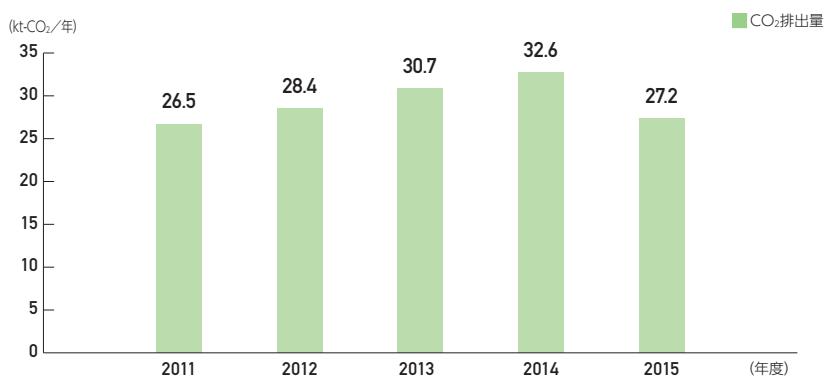
機械事業部門(神戸製鋼)

機械事業部門では、省エネルギー型圧縮機やヒートポンプ、石油精製向け压力容器などの需要が拡大する中、設備の高効率化、生産性改善によるエネルギー効率の改善を図っています。

2015年度実績は前年度比17%減少しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

機械事業部門(神戸製鋼) CO₂排出量の推移(試算値)



※電力などの係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

全社横断的省エネルギー支援活動の取り組み

事業所への省エネルギー技術支援と人材育成活動の推進

神戸製鋼の事業所では地球温暖化防止、エネルギーコスト削減を目的に省エネルギー活動に取り組んできました。

2012年度には事業所の省エネルギー活動の支援を目的にものづくり推進部が進める生産技術交流会活動の一貫として省エネルギー技術分科会を発足させ、2015年度には支援活動の加速と充実を図るために、ものづくり推進部内に省エネルギー推進グループを設置しました。専門家による事業所への省エネルギー技術支援、省エネ交流会(省エネルギー活動事例や省エネルギー技術情報の共有化など)の開催、省エネルギー教育を実施し、省エネルギー活動のさらなる活性化や現場技術者のレベルアップに貢献しています。

省エネルギー技術支援活動では社内事業所に設置された大小さまざまな燃焼設備に対して、従来よりも詳細な測定に基づいた熱診断を行い、さまざまな切り口からさらなる省エネルギー提案を行うと共に、実施段階において技術指導を行っています。

2015年度末時点で6事業所6設備に対して、各々の設備で

10%を上回る省エネルギー、CO₂排出量に換算して計4,400トン/年の削減提案を終え、事業所にて実行しています。

その他に4事業所の燃焼設備について同活動を展開中であり、さらに中期計画では活動の対象をグループ会社まで拡大する予定です。



▲ 熱診断による省エネルギー活動中の高砂製作所・鑄鍛鋼工場鍛圧加熱炉

事業部門	事業所	設備	進捗
鉄鋼	神戸製鉄所	鋼材連続加熱炉	済み
	高砂製作所	鍛圧加熱炉	済み
		鍛圧加熱炉	推進中
溶接	福知山工場	焼鈍炉	済み
	茨木工場	乾燥炉	推進中
アルミ・銅	真岡製造所	均熱炉	済み
		アルミ溶解炉	推進中
	長府製造所	銅板連続加熱炉	済み
		ピレットヒーター	推進中
大安工場	溶解炉	済み	

物流分野における省エネルギーの取り組み

神戸製鋼グループでは、原料から製品納入に至るまで、最適で迅速な物流による省エネルギーを目指しています。トラックから鉄道、船舶を利用した輸送へのモーダルシフトの拡大、輸送時の積載効率改善、車両大型化による輸送効率改善や、回航時の利用拡大などを進めています。

また、最新の技術を採用した鋼材輸送船の導入、輸送車両の軽量化など燃費改善にも取り組んでいます。

グループ会社の取り組み

神戸製鋼グループ各社においても、生産工程、物流における省エネルギーを推進しています。記載事項の他にも、不要時の消灯、空調設備の温度管理など、幅広い取り組みを実施しています。

● 取り組み事例

会社名	事業所所在地	主な取り組み事例
神戸鋼線工業(株)	兵庫県加古川市	生産設備の照明をLEDに更新、巻線型モーターをインバータ化
(株)セラテクノ	岡山県備前市	150tプレス本体をインバータ化、管圧プレス超省エネ油圧ユニット導入、エア配管洩れの低減
日本高周波鋼業(株)	富山県射水市	LS-2・3・5号ラジアントチューブ高輻射材設置
日本エアロフォーム(株)	岡山県倉敷市	熱間鍛造ロットの集約化(量産化移行)
阪神溶接機材(株)	岡山県岡山市	RD集塵機7745kWのインバータ化・回転数変更、天井照明のLED化
神戸アルミ線材(株)	大阪府堺市	75kWコンプレッサーのインバータ化、圧延加熱炉のインバータ回路変更
神戸造機(株)	岐阜県大垣市	水銀灯をLED化
(株)神戸環境ソリューション	兵庫県加古郡	焼成炉燃焼改善(2、3、5号炉)
神戸鋼板加工(株)	千葉県市川市	レーザー切断機にインバータチャージャーを導入
PRO-TEC Coating Company	アメリカ オハイオ州	施設内照明を人感センサー付省エネ型照明に更新工場休止時は設備の重要部分以外電源オフ
神戸線材加工(佛山)有限公司	中国広東省佛山市	バッテリー式フォークリフトの使用、LPG原単位低減活動の推進(排熱回収による使用量減)
Kobelco Welding of Europe B.V.	オランダ リンブルフ州	熱回収装置を導入し電気使用量削減に貢献、新しい省エネタイプの空調システムを導入
Kobe Precision Technology Sdn. Bhd.	マレーシア ペナン州	照明の一部をLEDに更新、空調用クーリングタワーを高効率タイプに更新、タイマーによる照明制御
Kobelco Compressors Manufacturing Indiana, Inc.	アメリカ インディアナ州	冬季に工場内熱回収プロセスを使用、試運転装置を最適なパフォーマンスで使用
Kobelco Stewart Bolling, Inc.	アメリカ オハイオ州	空気圧縮機用循環型冷却システムを導入、事務所空調用高効率ボイラを2機導入

その他の取り組みは、ホームページをご覧ください。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2016/

資源循環の促進

神戸製鋼グループは、限りある資源を有効に活用するために、生産工程・オフィスにおいて廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。生産工程から得られる副産物などの付加価値を高めたり、新規利用用途の開発により、積極的にリサイクルを進めています。また、出荷する製品の梱包仕様の見直し(簡素化)、梱包材料の軽量化をグループ全体で進めることにより、製品輸送工程からの廃棄物発生量を抑制しています。

オフィス業務では、会議資料の電子化・IT化などをグループ全体で積極的に進めることにより、紙資源使用量の低減を進めています。

廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

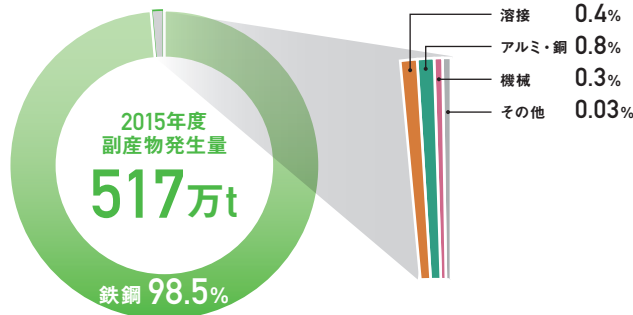
神戸製鋼グループでは、海外グループ会社を含め2015年度に総計517万トンの副産物が発生し、そのうち98.5%が鉄鋼関連事業によるものでした。製鉄所では、製鉄工程から副次的に得られる鉄鋼スラグ[※]やダストの再資源化・高付加価値化を進めてきました。2015年度は、神戸製鋼全体で97.1%、神戸製鋼グループ全体(含海外グループ会社)で97.5%をリサイクル活用しています。

また、原料・副原料の使用量の適正化(生産効率向上)を図ることにより、発生量そのものを低減する根本的な対策を積極的に進めています。この結果、各業界で定める2015年度自主行動計画目標(最終埋立処分量あるいは再資源化に関する数値目標)を達成しています。

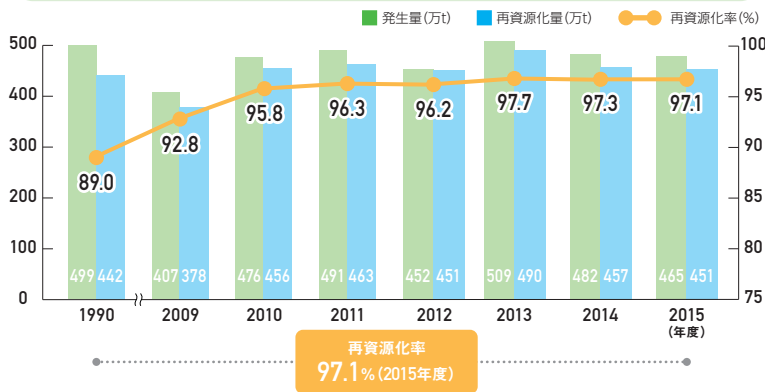
神戸製鋼グループ(含海外グループ会社)では、13万トンを最終埋立処分しました。今後も引き続き、廃棄物発生量の抑制、再資源化や新規リサイクル技術の開発および高付加価値化を通じて、最終埋立処分量の低減を進め、目標達成を目指します。

[※]鉄鋼スラグ:鉄鋼精錬の際に溶融した鉄鉄などから分離回収する生成物

事業部門別発生量(国内・海外グループ会社含む)



発生量および再資源化量と再資源化率の推移(神戸製鋼)



[※]再資源化率=再資源化量/処理対象量

リサイクル活動の取り組み

事業部門・事業所ごとに、廃棄物の最終埋立処分量の低減を目的としたアクションプログラムを策定し、発生量低減・再利用やリサイクル技術開発・新規利用用途開発などを通じたさらなる高付加価値化を目指しています。

鉄鋼事業部門(国内、海外グループ会社含む)

加古川製鉄所、神戸製鉄所、高砂製作所では、鉄鋼スラグおよびダスト類のリサイクル技術の開発、新規リサイクル用途の開発を継続的に進めており、その結果、2015年度の最終埋立処分量は、約9万トンになりました。

加古川製鉄所では、新溶銑予備処理設備稼働の効果を安定的に得られるようになり、その結果、製鋼スラグ[※]の発生原単位の改善に結び付けました。

2015年度、加古川製鉄所・神戸製鉄所から、高炉スラグ[※]が238万トン、製鋼スラグが103万トン副次的に生成され、鉄鋼スラグ協会が定める「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」に基づき、適切に運用・管理しています。

鉄鋼スラグの新規リサイクル用途開発の一環として兵庫県淡路島岩屋港などで行ってきた実証試験で、藻場育成促進な

どの環境優位性が認められました。この結果、神戸市が実施する公共工事において、スラグ石材が港湾資材として活用されることとなりました。

[※]高炉スラグ、製鋼スラグ:鉄鋼スラグに分類される生成物で、それぞれ高炉、製鋼工程から生成する。



▲スラグ潜堤に繁茂する海藻と回遊する魚類(兵庫県淡路島岩屋港)

溶接事業部門(国内、海外グループ会社含む)

溶接事業部門では、事業所ごとに資源循環に関する活動計画を策定し、各種の対策を推進しています。そのノウハウについては、定期的を開催する会議体を通じて、事業部門での情報共有を進めています。

茨木工場では、塗油装置の改善により、廃油発生量の低減を図っています。藤沢工場、西条工場では、廃フラックスの発生量

の低減を図ると共に、藤沢工場では、廃フラックスのリサイクルを推進しています。

Kobelco Welding of Europe B.V.(オランダ)、Kobe Welding of Korea Co.,LTD(韓国)では、潤滑剤の再利用を進めることにより、廃棄物発生量の低減を図っています。

アルミ・銅事業部門(国内、海外グループ会社含む)

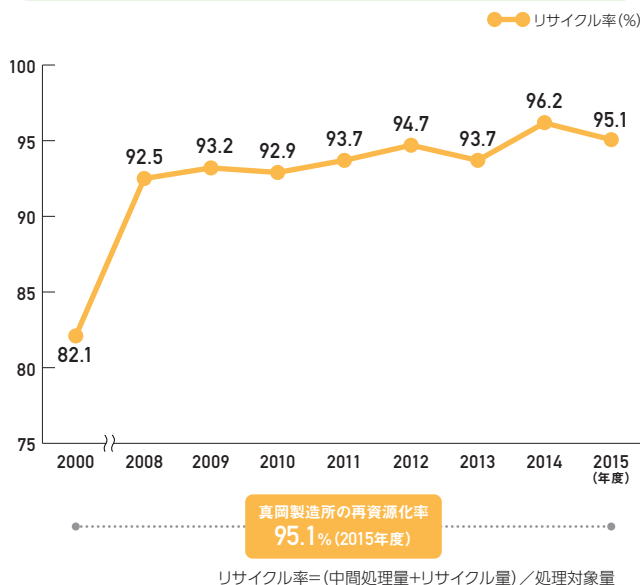
アルミ・銅事業部門では、各事業所における先進的な廃棄物抑制対策の取り組みを抽出し、事業所間で水平展開を図ることによって事業部門全体の資源循環率改善を目的とした活動を進めています。

国内3事業所では、埋立処分量低減・リサイクル率向上を目的とした活動を継続的に展開しており、その結果、いずれも高いリサイクル率を実現しています。特に、長府製造所では、

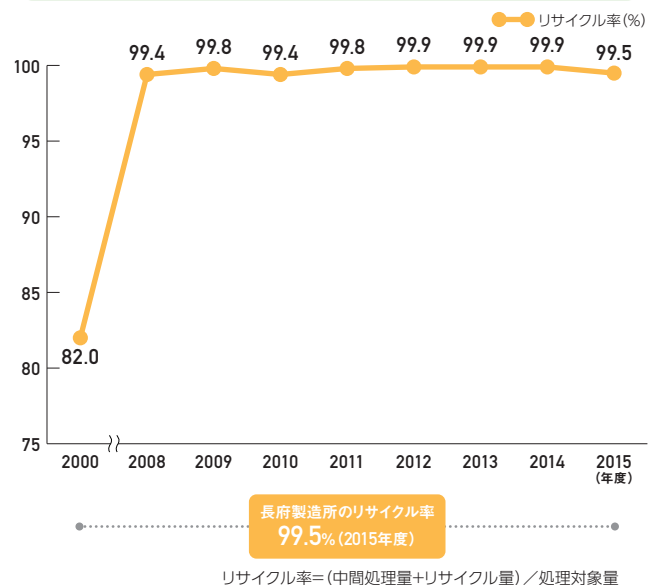
積極的な対策継続の結果、99.5%のリサイクル率を達成しています。

神鋼リードミック(株)では、生産工程改善などにより、廃アルカリの発生量低減を図っています。

真岡製造所のリサイクル率推移



長府製造所のリサイクル率推移



機械事業部門(国内、海外グループ会社含む)

機械事業部門では、これまで実施してきた各種の対策を確実に定着させることにより、再資源化率を高いレベルで安定的に維持しています。

非汎用圧縮機や産業機械を生産する高砂機械工場では、廃棄物発生量低減(発生源対策)、リサイクル対策の導入などを積極的に進めています。また、汎用圧縮機を生産する播磨

工場では、部品梱包材の通い箱化などのリサイクル対策の定着により、最終埋立処分量ゼロを維持しています。

TOPICS

梱包資材についての取り組み(梱包性と環境性を両立させた簡易梱包の導入、梱包資材のリサイクル活用)

各種LOユニットなどの製造、販売、アフターサービス、メンテナンスを手がけるKobelco Advanced Lube System Asia Co.,Ltd(韓国)では、簡易梱包への移行を積極的に進めると共に、高級ばね用鋼線を製造・販売する神鋼新確弾簧鋼線(佛山)有限公司(中国)では、客先で不

要となった緩衝材・梱包資材を再利用するなどの改善を図っています。また、これ以外の事業所においても、木製パレットの再利用促進、包装紙・フィルムの再利用促進を図っており、廃棄物発生量の低減を進めています。

化学物質の適正管理

神戸製鋼グループは、国内外の基準に合わせた化学物質の適正管理の徹底、有害化学物質使用量の削減、安全性の高い物質への切り替えなどに取り組んでいます。

化学物質管理の徹底

「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」を定め、化学物質管理の徹底を図っています。

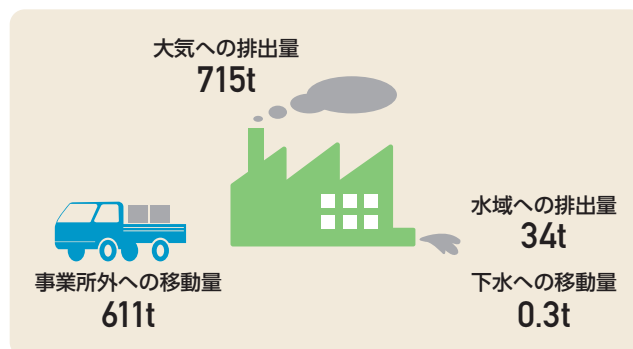
「指定化学物質に係る管理シート」により、化学物質ごとに使用方法、管理方法を明確にして、PRTR法^{※1}に関する移動・排出量の集計に活用すると共に、使用量の削減、排出量の抑制に向けた活動に取り組んでいます。

PRTR法に基づく、神戸製鋼グループ各事業所(国内)の届出予定値の合計は、取り扱い物質52種類、排出量^{※2}749トン、移動量^{※3}611トンでした。詳細は、ホームページに掲載しています。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2016/

●神戸製鋼グループでの排出量/移動量



- ※1 PRTR法(Pollutant Release and Transfer Register)
[特定化学物質の環境への排出量等および管理の改善の促進に関する法律]
※2 排出量は、大気・水域への排出量の合計
※3 移動量は、事業所外・下水への移動量の合計

化学物質規制への対応

化学物質規制については、規制強化の動きが日本国内はもとより世界的に進められています。神戸製鋼グループは、これらの規制について適切な対応を実施しています。

2015年度は4月に施行されたフロン排出抑制法について

情報共有や意見交換などを行い、環境監査などでその管理状況を確認しました。また、下記の表に示すように、化学物質排出削減活動をグループ内で継続的に実施しています。

●化学物質の排出削減活動の一例

会社名	事業所所在地	トピックス
神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市	伸線潤滑剤を再利用
大安工場	三重県いなべ市	鋳造品の洗浄に使用している薬品をより環境負荷の小さい薬品に代替
神鋼アルミ線材(株)	大阪府堺市	洗浄方法を見直し、洗浄油の使用量を削減
神鋼ノース(株)	茨城県かすみがうら市	腐食防止剤をより環境負荷の小さい物質に変更
コベルコ建機(株)	岐阜県大垣市	塗装用専用器具を導入し、塗装時の溶剤使用量を削減
ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)	福岡県北九州市	洗浄剤をより環境負荷の小さい物質に変更

廃PCB電気機器の管理

PCB(ポリ塩化ビフェニル)が含まれる使用済みのトランス、コンデンサなどについては、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、厳重に保管・管理・届出を行っています。

廃PCB電気機器を処理委託する際に立会いするルールを徹底することやその管理状況については内部監査などにより確認しています。また、法に定められた期限内での適正処理に向け取り組みを実施しています。

環境負荷の低減

神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」を環境経営基本方針の一つとして位置付け、継続的な生産工程の改善、設備更新や効率の良い最新設備の導入、環境負荷物質の除害設備の導入など、あらゆる面で環境に配慮したもののづくりを徹底し、大気、水域などへの環境負荷の低減に努めてきました。引き続き、グループ会社も含めて、さらなる環境負荷の低減に取り組んでいきます。

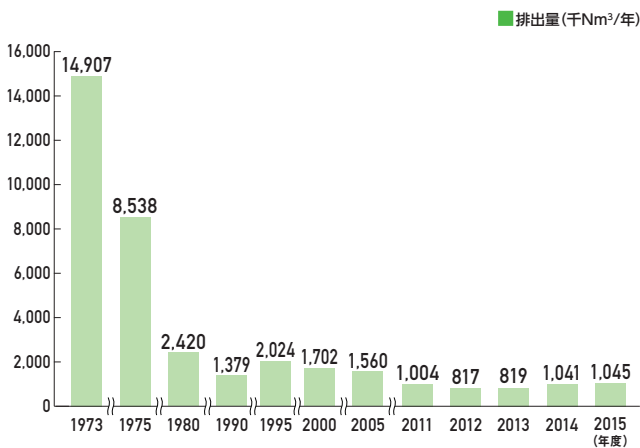
大気汚染対策

ばい煙の排出状況

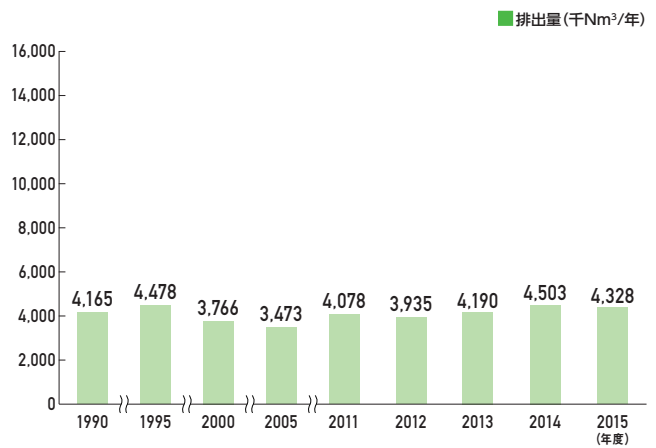
生産工程などで発生するSOx(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や低硫黄燃料の使用、都市ガスへの燃料転換などにより、発生を抑制すると共に、脱硫などの排ガス対策を行ってきました。

一方、NOx(窒素酸化物)については、低NOx燃焼技術の導入や省エネルギー対策により、排出量の低減を推進してきました。

SOx排出量の推移(神戸製鋼)



NOx排出量の推移(神戸製鋼)

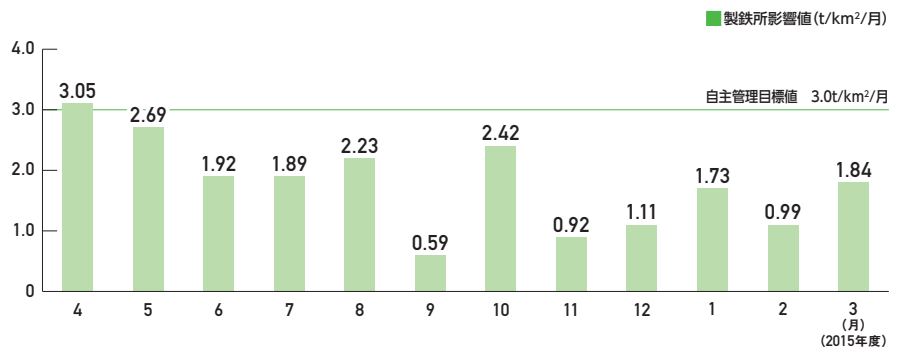


加古川製鉄所における粉じん対策

加古川製鉄所では、近隣3カ所の降下ばいじんに係る製鉄所影響値を3t/km²/月以下とする自主管理目標値を定め、種々の対策を講じてきました。

2015年度は、4月に1カ所で目標値未達成となりました。引き続き、これまで実施してきた種々の対策と合わせ、日々の散水などの発じん対策を確実にすることにより、飛散防止に努めていきます。

製鉄所影響値の推移(加古川神鋼ビル)



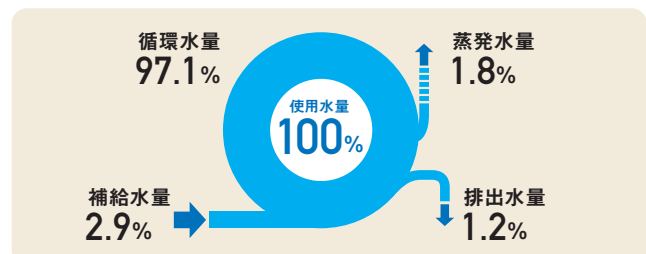
水質汚濁対策

神戸製鋼グループは、生産工程の改善や再生水の利用によって水使用量を削減しています。また、生産工程からの排水はその特性に適した処理システムで浄化し、公共用水域への水質汚濁物質の負荷量を低減しています。

製鉄所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂ろ過などにより浄化した後、再び所内で使用する“水のリサイクルシステム”を整えており、加古川製鉄所における水のリサイクル率は97.1%に達しています。

●水のリサイクル状況

排出量削減の取り組み(加古川製鉄所)



製品・技術・サービスでの環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミ・銅などの素材分野や機械、エンジニアリング分野など幅広い分野で、これまでに蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで、環境に貢献しています。

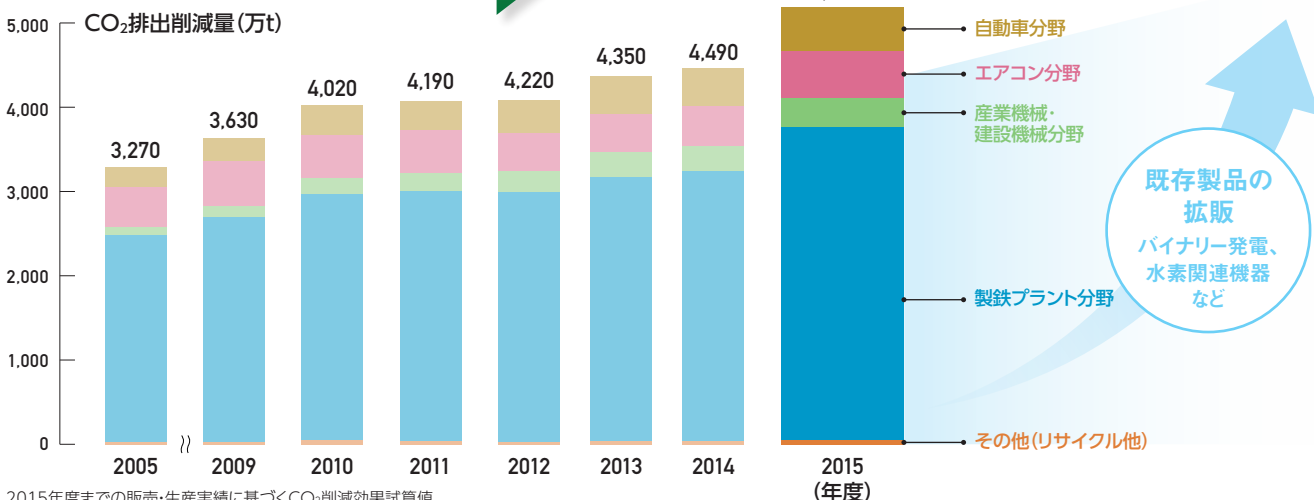
製品・技術を通じたCO₂排出量削減

神戸製鋼グループは、独自の技術や製品を通じて、社会のさまざまな分野でCO₂排出量削減に貢献しています。



2015年度における神戸製鋼グループ製品によるCO₂排出量削減効果(海外分含む)

約5,210万トン



素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミなどの素材分野や機械、エンジニアリング分野で、これまで蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで環境保全に貢献しています。

水素ステーションの実運用に近い形で検証が可能

● 水素ステーション総合テストセンターの設置

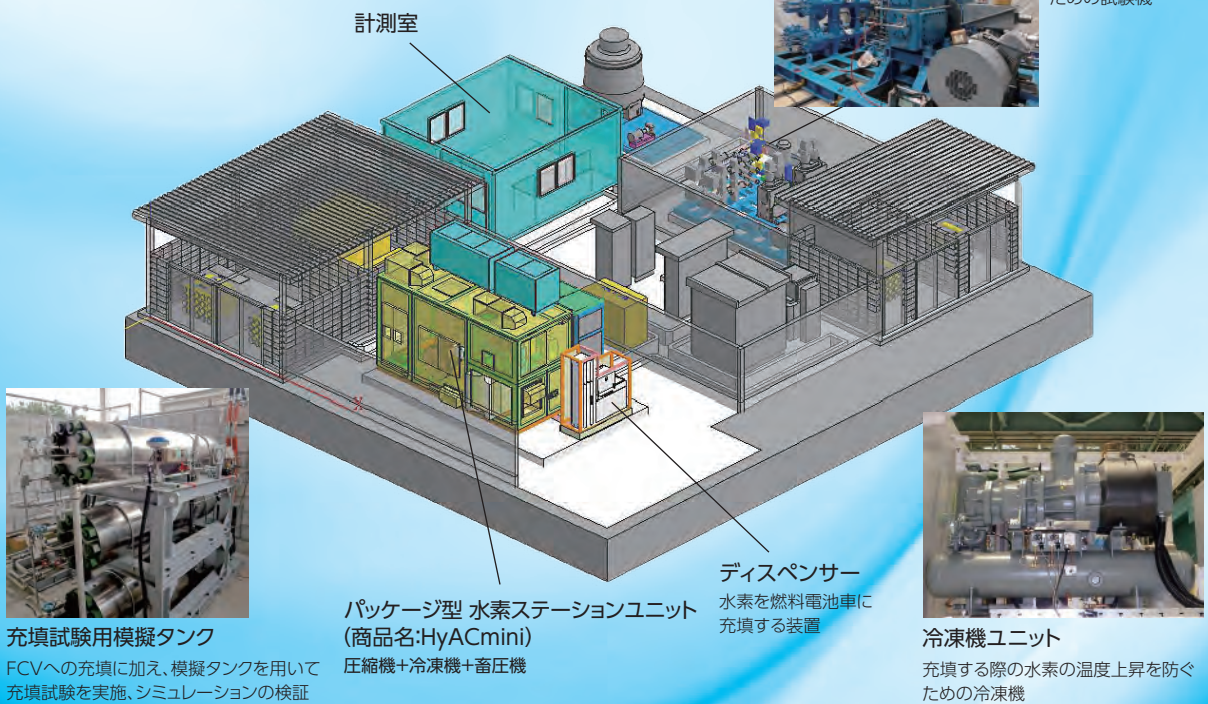
神戸製鋼は、水素ステーションの実運用に近い形でさまざまな運転パターンや充填シミュレーションの検証が可能な「水素ステーション総合テストセンター」を、機械事業部門の生産拠点である高砂製作所内に新設しました。今後、燃料電池車(FCV)の本格的な普及に伴い、走行距離拡大のために充填圧力の高圧化による充填量の最大化が必要と考えられており、さまざまな条件で機器の運転状態を検証できる本センターを活用し、市場ニーズに合った製品開発を進めていきます。

将来的には、システム全体の検証を実施するために、水素製造設備の設置も検討する方向です。

神戸製鋼は、水素ステーション用圧縮機において国内定置式水素ステーション向けに17件の納入実績があり、約30%のシェア(16年1月時点)を有するトップクラスのメーカーです。他にも一般的な熱交換器である多管式と比較し、約1/10程度にまでコンパクト化した熱交換器(商品名:DCHE)などをメニューに揃えています。また、グループ会社である(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンスでは、水素ステーションのトータルエンジニアリングも行うなど、さまざまな製品・技術を有しています。

今回の「水素ステーション総合テストセンター」の設置により製品開発をさらに進め、水素インフラ整備に貢献していきます。

水素ステーション総合テストセンター



充填試験用模擬タンク

FCVへの充填に加え、模擬タンクを用いて充填試験を実施、シミュレーションの検証

パッケージ型 水素ステーションユニット
(商品名:HyACmini)
圧縮機+冷凍機+蓄圧機

ディスペンサー
水素を燃料電池車に
充填する装置

冷凍機ユニット

充填する際の水素の温度上昇を防ぐための冷凍機

摩耗試験機

水素圧縮機の信頼性のさらなる向上を実現するための試験機

TOPICS

水電解式高純度水素酸素発生装置:HHOG

必要な時に、必要な量の高純度水素ガスを手軽に安全に得られる、オンサイト型水素発生装置

(株)神鋼環境ソリューションは、純水から高純度の水素ガスを発生させる装置(商品名:HHOG)を製造・販売しており、国内外で140基以上の納入実績があります。

今後は、再生可能エネルギーを利用したCO₂フリーな水素製造への取り組みや水素ステーションとの組み合わせで活用することで、水素社会の実現に貢献していきます。



水素ガス発生装置
(商品名:HHOG)

自動車分野の軽量化ニーズに貢献するアルミ材料

● 耐力力腐食割れ性に優れた高強度アルミ合金「7K55」の上市

神戸製鋼は、耐力力腐食割れ性(耐SCC性^{※1})と耐力400N/mm²級の高強度を両立させた7000系アルミ合金「7K55」を開発しました。7K55はすでに日系自動車メーカーでバンパービーム^{※2}用押出材として採用が決まっており、今後、さらなる採用拡大を目指していきます。

自動車分野では、近年の環境規制の強化により車体の軽量化ニーズが高まっており、軽量化の有効な手段として、バンパービーム、骨格材などでアルミ押出材の需要が拡大しています。

バンパービームは、衝突時にエネルギーを吸収し、搭乗者を衝撃から守る役割を担っており、高い強度が求められる部位です。今回開発した7K55をバンパーに適用すると、部品重量が6000系アルミ合金製比で約30%軽量化されます。

神戸製鋼は、約半世紀にわたる自動二輪、鉄道車両分野への取り組みを通じ、化学成分と熱処理条件を最適化し、適切な組織制御を行うことで、当社従来品に対して耐SCC性を維持しつつ、約30%高強度化した耐力400N/mm²級合金7K55の開発に成功しました。

自動車に関する環境規制は厳格化される傾向にあり、今後ますます軽量化ニーズは高まると想定されます。神戸製鋼は、優れた合金開発力と設計技術をベースに、軽量化提案を進め、自動車の燃費向上・CO₂排出削減に貢献していきます。

※1 耐SCC性:応力腐食割れ(Stress Corrosion Cracking:SCC)に対する耐性。応力腐食割れは、引張応力と腐食雰囲気存在下で発生する結晶粒界の脆性破壊のこと。応力腐食割れが発生すると、吸収可能なエネルギーが減少するため、衝突安全性の観点から問題となる。

※2 バンパービーム:衝突時に車体のダメージを低減するために、バンパーの内側に装着する補強材。



バンパー

▲ 車両骨格

製鉄工程でのCO₂排出量を抑制できるMIDREX[®]プロセス

● アルジェリアにおけるMIDREX[®]直接還元鉄プラントの新規受注について

神戸製鋼の米国子会社であるMidrex Technologies, Inc.(以下 ミドレックス社)と、ライセンス供与先であるルクセンブルグのエンジニアリング会社Paul Wurth S.A.のコンソーシアムはこのほど、トルコのTosyali Holdingがアルジェリアで建設中のTosyali Algeria製鉄所向けに、年産能力250万トンのMIDREX[®]直接還元鉄プラントを受注しました。アルジェリア初の直接還元鉄プラントであり、MIDREX[®]プラントとしては世界最大(従来は年産200万トン規模が最大)となります。今後、2017年の稼働開始を目指し、建設を進めていきます。

ミドレックス社は、今後も当社グループにおける還元鉄ビジネスの柱としてグローバル展開に貢献すると共に、これらの商機を確実に取り込み、受注量の確保とさらなる成長に向けて取り組んでいきます。



▲ 還元鉄製品

雪害、土砂崩れ災害でも走行が可能

● 災害対策の決め手となるクローラ型移動電源車を開発、市場投入

神鋼造機(株)は、移動電源車の製造を50年以上行っています。この度、災害対策の非常用電源として注目を浴びている移動電源車のラインナップに新たに「クローラ型移動電源車」(どこ電くん)を開発し、2016年より市場投入します。

ゲリラ豪雨や豪雪で被災した停電地域へ急行する際、土砂崩れ・倒木によりアクセス道路が走行困難となった場合でもクローラ型移動電源車により悪路の走行を可能とし、早期のライフライン確保の支援が可能です。

クローラ型移動電源車以外にも、すでに市場で活躍の場を広げているヘリコプターによる空輸型移動電源車など、移動電源車のパイオニアとしてのノウハウを活かし、さらなる拡販を図っていきます。



▲ 「クローラ型移動電源車」(どこ電くん)

社外からの表彰

神戸製鋼グループの環境に配慮した製品・技術・サービスなどは、社外からも高い評価を得ています。

長府製造所の省エネルギー活動が「省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞」を受賞

神戸製鋼は、(一財)省エネルギーセンター主催の「2015年度省エネ大賞 省エネ事例部門 省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。本賞は、省エネルギーに関する取り組みについて優れた成果を表彰するものです。

長府製造所では、実際に生産設備を操作するオペレーターの主体的な省エネ活動を行うことを目的に、生産設備のエネルギー使用量の見える化に取り組みました。これまでの「スタッフによる設備改造・更新を主としたハード面の改善」から、「現場オペレーターを巻き込んだ操業方法・製造条件などのソフト面の改善」へと活動内容をシフトさせると共に、所内で省エネ提案賞や省エネ標語ポスターの設置を行いました。その結果、2015年1～3月のエネルギー原単位を2013年度比9%削減できました。これら地道な活動が評価され、今回の受賞に至りました。詳細は下記をご参照ください。



▲ 省エネ大賞 表彰式



http://www.kobelco.co.jp/releases/1194426_15541.html

フレア護岸が「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2016 最優秀レジリエンス賞」を受賞

神戸製鋼は、(一社)レジリエンスジャパン推進協議会主催の「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2016 最優秀レジリエンス賞」を受賞しました。本賞は、強靱な国・地域・人・産業づくりに資する活動・技術開発・製品開発に取り組んでいる企業や団体を対象とし、その取り組みを発掘・評価・表彰するものです。

「フレア護岸」は、台風などで発生する高潮に対して、沿岸部への越波を抑え、被害を最小限にとどめる護岸設備です。

護岸前面を特殊な曲面形状として波を沖に返す構造のため、従来と比べて護岸の高さを低くでき、景観や環境に配慮した越波対策に適している点などが評価され、今回の受賞に至りました。詳細は下記をご参照ください。



▲ ジャパン・レジリエンス・アワード 表彰式



http://www.kobelco.co.jp/releases/1194481_15541.html

水素ステーション向け熱交換器が「ステンレス協会賞 最優秀賞」を受賞

神戸製鋼は、ステンレス協会主催の「第16回ステンレス協会賞 最優秀賞」を受賞しました。本賞は、各需要分野における優れたステンレス製品を表彰し、ステンレスの普及および需要開発の促進を図ると共に、社会環境との調和と文化の向上に寄与することを目的としています。

「水素ステーション向け拡散接合型コンパクト熱交換器(DCHE)」は、ステンレスのプレートに微細な流路を加工、積層し、拡散接合*することで、一般的な熱交換器である二重管式と比べ、伝熱面積が広く、コンパクトで高圧にも耐えられるものです。これらの技術が評価され、今回の受賞に至りました。詳細は下記をご参照ください。



▲ ステンレス協会賞 表彰式



http://www.kobelco.co.jp/releases/1194486_15541.html

*拡散接合:材料同士を密着させ、高温で加熱しながら加圧することで原子レベルで結びつける接合方法。一般的な溶接とは違い母材を溶かすことなく接合するため、微細な流路や複雑な三次元構造体の接合に適する

●その他の受賞実績

受賞対象	主催団体	表彰名
神戸製鋼 鋼製透過型えん堤の段階施工	(一社)レジリエンスジャパン 推進協議会	ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2016 優秀賞

研究開発での環境への貢献

長寿命で信頼性・環境性に優れる「断熱圧縮空気蓄電システム」の開発に着手

地球温暖化を抑制するため、再生可能エネルギーへの関心が高まっています。風力発電もこうした再生可能エネルギーのひとつですが、出力変動の抑制や電力需要のピークシフトなどの平滑化・平準化が課題となっていました。

神戸製鋼は、早稲田大学、(一財)エネルギー総合工学研究所と共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が進める「電力系統出力変動対応技術研究開発事業」に応募し、2015年6月に「断熱圧縮空気蓄電システム」が採用されました。2016年度にメガワット級の実証機の試運転を開始、2017年度以降の商品化を目指しています。

「断熱圧縮空気蓄電システム」は、電力を圧縮空気と熱の形で貯蔵し必要に応じて貯蔵された圧縮空気と熱を使って発電するシステムです。汎用機器で構成されているため、信頼性

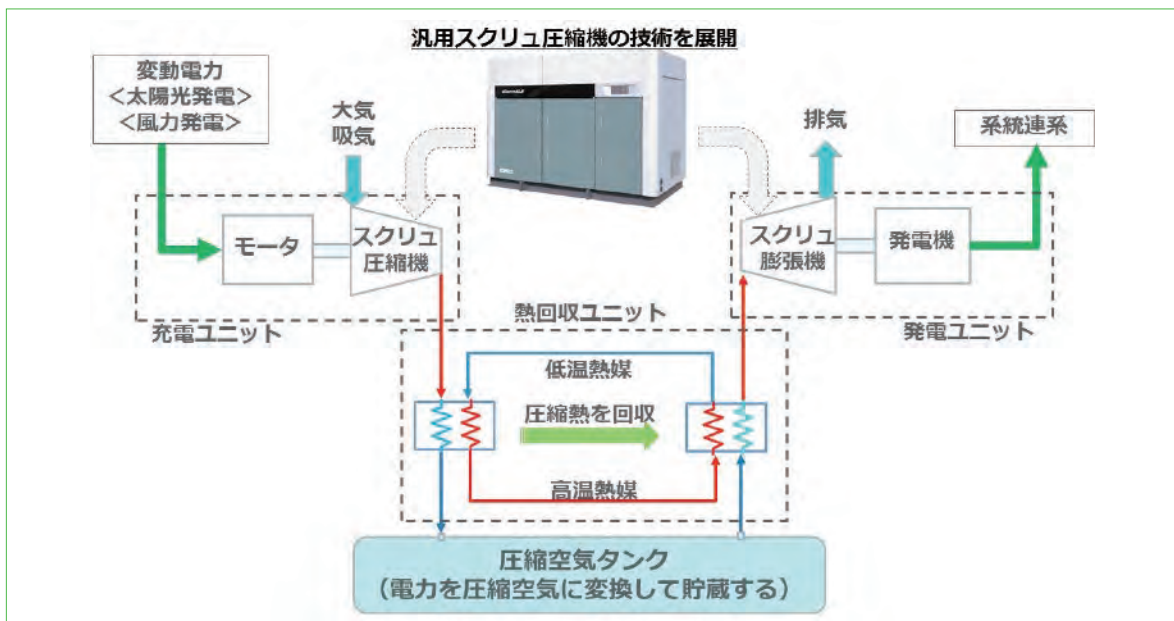
の高さ、耐久性の高さ、希少物質の未使用、出力とエネルギー貯蔵量の組み合わせが自由、などが魅力です。

神戸製鋼は、100年の歴史を有する圧縮機総合メーカーであり、今回の実証実験では、オイルフリータイプのスクリュウ圧縮機、スクリュウ発電機、熱貯蔵タンク、空気貯蔵タンクなどからなる機器製造を担当しています。また、早稲田大学は「断熱圧縮空気蓄電システム」を最適に制御するアルゴリズムと構成機器を制御するソフトウェアの開発を、(一財)エネルギー総合工学研究所は風力発電の出力変動緩和や計画発電化を実現するためのシステム設計、実証運転、評価を、それぞれ担当しています。

神戸製鋼は、このような地球環境に貢献する技術開発に、産官学の知恵を結集して積極的に取り組んでいます。



▲「断熱圧縮空気蓄電システム」イメージ



▲「断熱圧縮空気蓄電システム」プロセス

環境関連情報の開示

神戸製鋼グループは、環境経営に関わる活動をステークホルダーの皆様へ正しくお伝えするために、環境情報を積極的に公開しています。事業所においては、地域の皆様との対話を定期的にも実施するなど、環境コミュニケーションにも取り組んでいます。

環境・社会報告書の発行

神戸製鋼は、環境報告書の第1号を1999年に発行して以来、毎年環境への取り組みを紹介しています。2006年からは社会性の取り組み内容と共に「環境・社会報告書」として発行しています。今後も神戸製鋼グループの環境経営に関わる活動の成果を広くお伝えできるように努めていきます。より詳しい環境データや取り組み事例、過去の報告書は、ホームページをご覧ください。



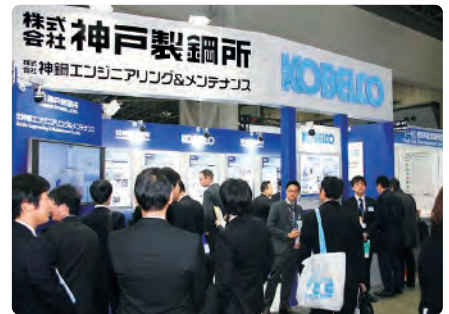
http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/

展示会への参加

神戸製鋼グループは、展示会への出展などを通じて環境に貢献する製品・技術・サービスを紹介しています。

2015年度は、「国際フロンティア産業メッセ2015」や「メッセナゴヤ2015」、「第12回国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2016)」などに出席しました。

「第12回国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2016)」は、東京ビッグサイトにて2016年3月2～4日に開催されました。水素ステーション用機器やステーションのエンジニアリングに加えて、総合テストセンター(高砂製作所内)、再生可能エネルギーを利用した水素ステーションの提案など、当社グループの水素関連ビジネスについて幅広く出展しました。



▲ 第12回国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2016)

公開モニターによる環境情報の開示

加古川製鉄所および神戸製鉄所では、製鉄所のばい煙排出量などの環境情報を、各地に設置したモニターを通じてリアルタイムで公開しています。

加古川製鉄所環境情報公開モニター設置場所	加古川市役所、播磨町役場 別府および尾上の地元町内会の公民館
神戸製鉄所環境情報公開モニター設置場所	灘浜サイエンススクエア 灘浜ガーデンバーデン

地域社会とのコミュニケーション

環境保全の取り組みをご理解いただくために、加古川製鉄所、神戸製鉄所にて地域の皆様への説明会を実施し、合計139名の方に参加いただきました。

また、環境に関するお問い合わせ窓口として、加古川製鉄所と神戸製鉄所に環境フリーダイヤルを開設しています。今後も皆様の一つひとつのご意見に耳を傾けていきます。

環境会計

神戸製鋼グループは、環境保全活動に継続的に取り組んでいます。環境保全活動に関わる費用と効果を把握し、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただくため、情報を開示しています。

環境関連投資と環境保全効果

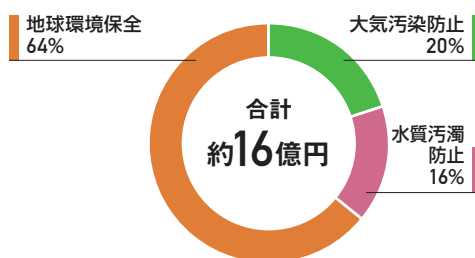
神戸製鋼では、環境負荷低減のために環境対策設備の新設や維持管理に継続して投資を行い、さまざまな面から環境対策を進めています。環境保全活動を進めるため、2015年度は加古川製鉄所において高炉熱風炉のレンガを更新するなど、約16億円を投資しました。

上記の投資は、主として機器の高効率化や熱効率の改善による省エネルギー、集じん機の設置・更新、燃料転換によるばい煙や粉じんの低減、配管などの更新による汚水の漏洩リスクの低減などであり、CO₂排出量の削減や大気環境負荷低減、水質汚濁防止に寄与しています。

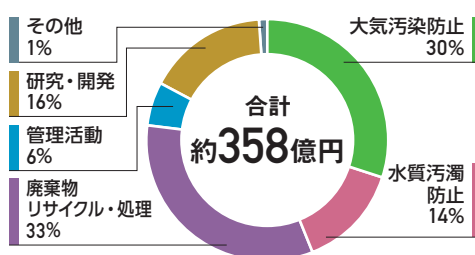
また、2015年度の費用額の合計は約358億円で、その内訳は大気汚染防止に約30%、水質汚濁防止に約14%、廃棄物リサイクル・処理に約33%となっています。さらに、製品・技術・サービスでの貢献として、水素ステーション向け装置機器類の開発、また車体軽量化に向けたマルチマテリアル化に関する開発（新構造材料技術研究組合が進める国家プロジェクト「革新的新構造材料等研究開発」への参画を含む）に取り組むなど、研究・開発に総費用額の約16%にあたる約57億円を投じています。

今後も、環境保全に関わる対策を継続的に実施していきます。

▼ 2015年度 投資額の内訳(神戸製鋼)



▼ 2015年度 費用額の内訳(神戸製鋼)



全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループの全従業員が、環境に関する意識を高め、常に環境に配慮した行動が行えるよう、環境教育・学習を継続して実施すると共に、環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)やエコオフィス活動などの取り組みを推進しています。

環境意識の向上

神戸製鋼グループ環境会議

神戸製鋼グループは、環境情報の共有化、環境への取り組みの横展開などを図ることを目的に、毎年「神戸製鋼グループ環境会議」を開催しています。2015年度はグループ会社32社を含め99名が参加し、各事業所での環境負荷低減などの有益な活動事例や失敗事例の発表、法令改正内容の確認などを行いました。

グループ全体で環境への取り組み強化を図ると共に、環境意識の向上に努めていきます。



▲ 神戸製鋼グループ環境会議

環境教育・学習

神戸製鋼は、2006年度から環境教育・学習を階層別(事業所の職制ごと)の教育に織り込み、継続的に実施しています。また、イントラネットを利用したe-ラーニングを定期的に行い、従業員の環境意識向上と環境法令の周知徹底を図っています。

環境関連資格取得の推進

環境管理の取り組み強化や環境意識の向上を図るべく、公害防止管理者やエネルギー管理士など事業所ごとに必要な資格取得を推進しています。

環境関連有資格者数(神戸製鋼)

資格	有資格者数	資格	有資格者数
公害防止管理者(大気関係)	246	公害防止管理者(ダイオキシン類関係)	56
公害防止管理者(水質関係)	182	公害防止主任管理者	6
公害防止管理者(騒音・振動関係)	198	エネルギー管理士	163
公害防止管理者(粉じん関係)	53	環境計量士	15

リスク管理の徹底

神戸製鋼グループは、事業活動に伴う環境リスクを把握し、リスク低減活動を実施すると共に、日常の管理手順を定め、適切な管理を実施しています。また、環境監査などの活動を通じて、法令遵守の徹底や環境管理の強化に継続して取り組んでいます。

環境管理の向上

神戸製鋼の事業所については、ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入し、事業所内で内部監査を実施すると共に、外部の認証機関による審査を受けています。また、社内規程に基づき、本社による書面および現地監査を実施することにより環境管理レベルの向上を図っています。現地監査では法令などの遵守状況を現地で確認しています。

グループ会社についても、書面による調査を実施しています。また、環境リスクの大きい事業所には環境マネジメントシステムを導入し、自主的な環境活動を実施すると共に、神戸製鋼による現地調査も実施しています。



▲ 環境監査にて、排水処理施設の管理状況を確認（茨木工場）

緊急事態対応訓練

各事業所にて、環境リスクを抽出し、リスク低減を図ると共に緊急事態対応の訓練を定期的に行っています。

訓練後は、反省会などで課題を抽出し、PDCAサイクルを回しています。



▲ 油水分離槽からの油漏洩を想定した訓練（神鋼造機（株））

2015年度の行政による指示・指導

神戸製鋼およびグループ会社において、環境法令について重大な違反はありませんでしたが、関係行政から指示や指導を受けました。指示・指導事項については適切に対応しました。

● 行政による指示・指導件数

	大気	水質	その他
神戸製鋼	5	5	1
グループ会社	1	4	2

● 行政による指示・指導の事例

- ・ 届出が必要な環境関連設備の届出漏れが判明したため、届出書を提出しました。また、届出漏れ再発防止のためのしくみを構築しました。
- ・ 排ガス洗浄用のスクラバー前処理設備を洗浄水未供給のまま稼働しました。稼働時確認を強化すると共に、警報設備を設けました。
- ・ 工場排水の油分濃度が下水排除基準を超過しました。原因となった排水処理設備の凝集剤供給量のチェックと供給ポンプの動作確認を強化しました。

海外事業所におけるリスク管理活動

神戸製鋼グループは、グループの環境経営基本方針に則り、世界各地に広がるグループ事業所での環境管理の徹底を図っています。

海外グループ会社の現地環境調査を実施

神戸製鋼グループでは、国内の事業所・グループ会社と同様に海外グループ会社においても、将来的には日本国内に準じた環境管理体制を整備していくこととしています。そのために、2009年度より世界各地の製造拠点を対象として神戸製鋼が主体となった「現地環境調査」などを行い、現地の環境管理状況を確認しています。

2015年度は中国において生産拠点となっているグループ会社10社について、環境管理状況の実態把握と問題点の抽出を現地調査で行い、その結果をもとに必要な是正措置を行っています。2016年度も引き続き、海外事業所の現地調査を継続して実施します。



▲ 海外グループ会社現地環境調査



海外拠点との情報共有・連携

世界中のグループ会社においても環境管理を推進するため、海外拠点に対してもさまざまな支援を行っています。近年生産拠点が増加した中国においては、グループ会社とより密接に連携し、きめ細かく支援を行うため、統括会社である神鋼投資有限公司(KCHD)に2015年4月から環境担当者を配置しています。KCHD環境担当者は、中国グループ会社の環境管理を支援するため、中国エリアでのセミナーなどにおいて環境関連法令情報に関する指導や発信などを行っています。

また、多くのグループ生産拠点を有するアメリカでは、統括会社であるKobe Steel USA Inc (KSU)の環境担当者が引き続きEHS(Environment, Health & Safety)ミーティングにより、生産拠点の環境担当者との情報共有などを行っています。その他地域においても環境情報共有体制のレベルアップや環境セミナーの開催などで、コミュニケーションを図っています。今後もこのような活動を継続し、環境リスクの低減に努めていきます。

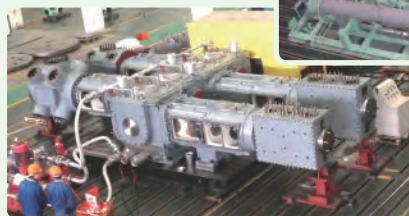


▲ 中国でのセミナー風景(KCHD)

TOPICS

● 企業環境行為情報公開で最高ランクに選ばれる(中国 江蘇省)

無錫圧縮機股份有限公司(以下、WCC)は、中国江蘇省で圧縮機などの製造・販売を目的として設立されました。2015年、WCCが所在する無錫市新区の環境保護局が行った企業環境行為情報公開(国家環境保護局による、企業の環境管理状況の格付け)において、WCCは段階評価の最高ランクである「綠色等級企業」に選ばれました。



▲ 無錫圧縮機股份有限公司(WCC)の代表的な製品

● 廃棄物・リサイクルに関する教育を実施(アメリカ オハイオ州)

タイヤ、ゴム機械の設計、製造、販売、現地工事を目的に設立されたKobelco Stewart Bolling, Inc.(以下、KSBI)では、全従業員に対し定期的に環境に関する教育を行っています。2015年度は廃棄物の適正な取り扱いをテーマとし、KSBIの工程で発生する廃塗料、廃油などの適切な処分方法についての教育を行っています。



▲ Kobelco Stewart Bolling, Inc.における教育風景

社会性報告

ステークホルダーとのつながりづくりを通じて、
企業としての社会的責任を果たします。

ステークホルダーとの関わり

ステークホルダーの皆様と、共に生き、共に発展するために。

神戸製鋼グループは、多様なステークホルダーと“信頼”というつながりを創ります。

お客様・お取引先様、株主・投資家様、地域社会の皆様、社員など、

それぞれの立場を尊重し、さまざまなご意見・ご指摘に応え、

社会に貢献する活動をステップアップすることで、

企業としての社会的責任を果たしていきます。

神戸製鋼グループと一人ひとりの“あなた”は、さまざまな接点でつながっています。

お客様・ お取引先様

P45~46

優れた製品・サービスの提供を通じて、お客様やお取引先様の期待と信頼にお応えします。

株主様・ 投資家様

P47~48

経営の透明性を高め、グループ全体での企業価値向上を図ることで、健全で良好な関係づくりに努めます。

地域社会の 皆様

P49~54

地域に息づく良き企業市民の一人として、各地の事業所を起点に、環境保全活動を支援し、地域社会とふれあい、貢献する活動を続けます。

KOBELCO

海外の 現地社会

P52

海外の文化や慣習を尊重し、その国の企業の一つとして現地社会の発展に貢献する活動を目指します。

社員

P55~58

社員の人格・個性や人権を尊重し、多様な人材がのびのびと活躍できる職場環境づくりを進めます。

HIGHLIGHTS ON SOCIETY

2015年度の活動ハイライト

お客様・お取引先様 P.45 >>

優れた製品・サービスの提供を支える
「ものづくり推進リーダ会議」

株主様・投資家様 P.47 >>

株主の皆様の事業所見学会に
累計4,835名をご招待



地域社会の皆様 P.49 >>

高砂製作所で「高砂ファミリーホリデー」を開催



小中学校の校外学習として「工場見学」を実施



海外の現地社会 P.52 >>

東南アジアで
子どもたちを
元気づける活動

社員 P.55 >>

女性の活躍推進に取り組む企業
「なでしこ銘柄」に選定



優れた製品・サービスの提供

神戸製鋼グループの企業理念の一つ「信頼される技術、製品、サービスの提供」を実践するため、「ものづくり力」強化のためのさまざまな取り組みを通して、国内外のお客様・お取引先様に信頼され、満足される「優れた製品・サービス」を提供していきます。

ものづくり推進活動

神戸製鋼グループでは、ものづくり力強化に向け、「情報共有」「シナジー発揮」「人材育成」などに取り組んできました。これからも、「品質力の強化」「現場力の強化」「省エネ」など

の課題にも取り組み、神戸製鋼グループ全体のものづくり力の強化により、信頼される製品、サービスの提供に努めていきます。

神戸製鋼グループ内での連携強化

各工場の代表者が参加する「ものづくり推進リーダ会議」を通じて、全社施策に関わる意見交換や優れた事例の情報共有を図ると共に、個別の要素技術に関わる専門技術者同士の交

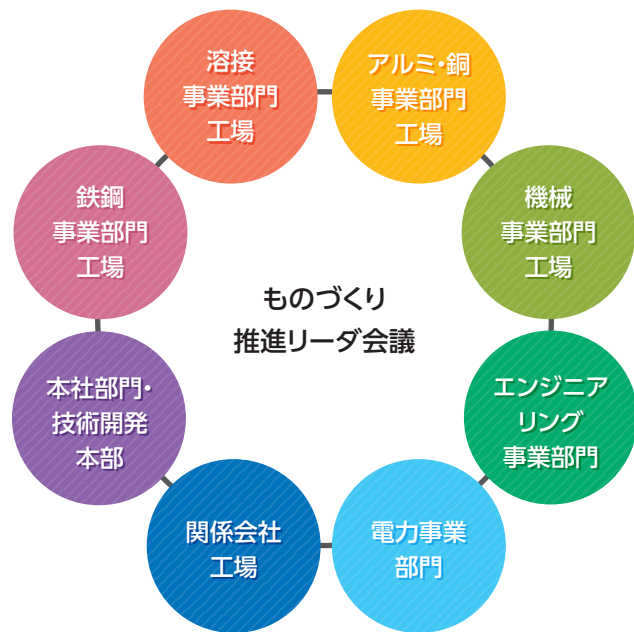
流の場である「生産技術交流会」を通じて、グループ全体での技術レベルの向上を図っています。

ものづくり推進リーダ会議

神戸製鋼グループでのものづくり推進活動の窓口として各工場に「ものづくり推進リーダ」(工場長、副工場長クラス)を設置し、「ものづくり推進リーダ」が集まる「ものづくり推進リーダ会議」を定期的開催しています。ここでは、社内外での先進事例の紹介、実施中の施策の推進状況の共有や新たな施策に

関する討議などを行っています。

紹介した事例をそれぞれの工場における改善活動の参考にしてもらい、要望があれば紹介事例の工場との交流会なども個別に企画しています。



▲ 優れた事例の共有



▲ 新たな施策に関する討議

生産技術交流会

グループ内で共通性の高い技術分野については、同じ技術分野の技術者同士の交流の場として「生産技術交流会」を設けています。

生産技術交流会の取り組み

狙い	→	活動
情報共有	→	講演会
人材育成	→	勉強会
事業貢献	→	プロジェクト活動

「生産技術交流会」は、現在、右表に示す7つの技術分野について分科会を設けて活動を行っています。

生産技術交流会の各分科会には事業部門や会社の枠を超えて、その分野の技術者が参加して、「情報共有」「人材育成」「事業貢献」の3つの課題に取り組んでいます。

情報共有は、講演会の開催を通じて行っています。講演会は分科会ごとに年に1~2回程度、関連事業所の持ち回りで開催しており、優れた取り組み事例を参加者が相互に紹介しています。



▲ 溶接技能の練習会

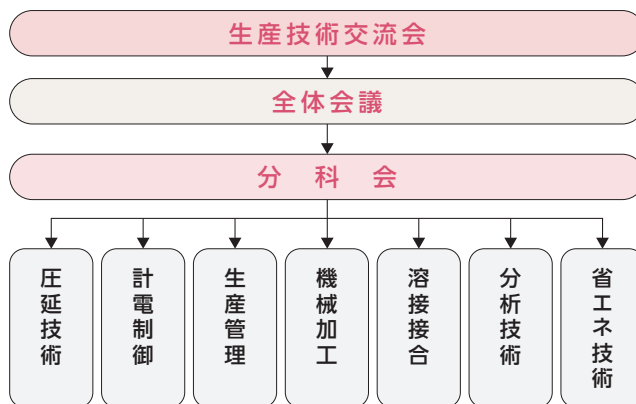
品質力強化の取り組み

神戸製鋼グループの各事業所はISO9001などの品質マネジメントシステムを採用し、顧客満足度調査を通じた品質向上に取り組んでいます。

顧客満足度調査でいただいたお客様からの貴重なご意見、ご要望は経営幹部、関係者で共有し、お客様に信頼され、満足される製品・サービスを提供できるよう、「ものづくり力」の強化に反映されています。

人材育成については、その技術分野で獲得しておくべき要素技術を分科会で整理し、基盤となる技術を習得するための勉強会を開催しています。

生産技術交流会



事業貢献については、技術分野の共通課題に取り組むプロジェクトチームを組み、活動しています。たとえば、機械加工分科会では、機械事業部門と技術開発本部が共同で開発した「最適加工条件システム」を活用し、機械加工に携わる事業所に対する改善指導を実施しています。従来、事業所単独で取り組んでいた改善活動に、新たな知見を加えることにより、さらに効果的な改善案を立案できるようになってきています。



▲ 機械加工分科会の講演会

改善観点の優先順位

1. Safety (安全)	安全第一
2. Quality (品質)	安全を確保し、品質改善
3. Delivery (納期)	安全と品質を確保し、生産性改善
4. Cost	安全、品質、生産性を確保し、コストダウン

株主・投資家の皆様との関わり

神戸製鋼グループは、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。その中で、株主の皆様への利益還元はもちろんのこと、株主・投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとのコミュニケーション、経営の透明性の向上を重要課題と認識し、適正かつ迅速な情報開示と、幅広い情報公開を進めていきます。

株主還元

神戸製鋼は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。

成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向などを勘案して決定していきます。

内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資などに充てることを通じて、収益力の向上に努めると共に、財務体質の改善・強化を進めていきます。

また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安としています。

剰余金の配当につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めています。

これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としています。それ以外を基準日とする配当を行う場合には、別途取締役会にて基準日を設定した上で行います。

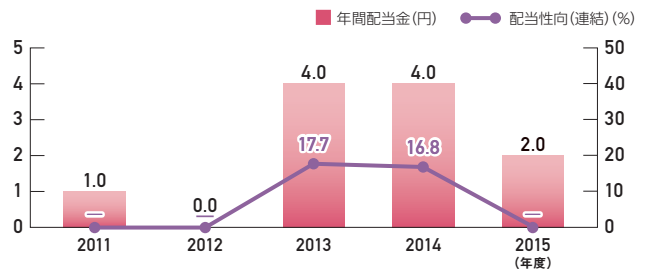
情報開示

株主や投資家の皆様へ長期的かつ安定的に信頼・支援いただくために、説明責任の遂行が極めて重要であると考え、企業情報や財務情報の適時・適切な開示に努めています。

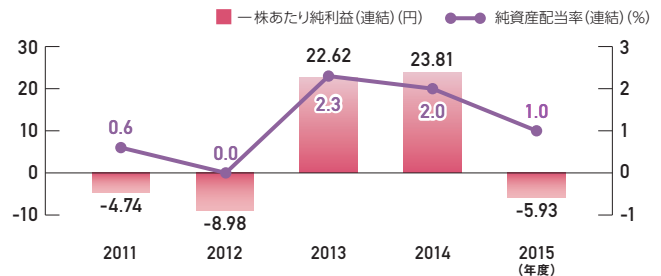
情報開示に関しては、法定開示基準の遵守、証券取引所の定める適時開示に関する規則に則った開示はもちろんのこと、これ以外の情報であっても、投資判断に関わると考えられる開示可能な情報については積極的に、迅速かつ継続的に発信することに努めています。また、海外の株主・投資家の皆様に対し同じ情報が発信できるよう英訳開示にも合わせて取り組んでいます。

こうした取り組みにより神戸製鋼グループの経営状況や

配当金の推移

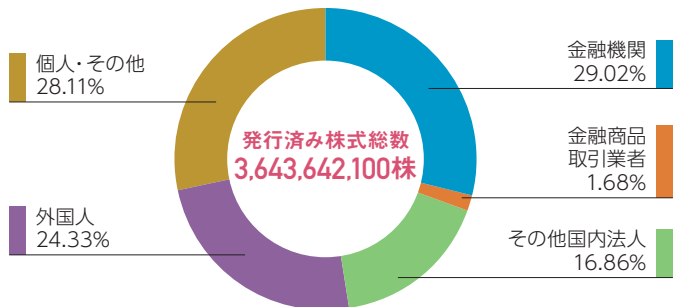


※2011年度、2015年度の配当性向は、連結純損益が損失のため、「-」で表記しています。
※2012年度の配当は見送りいたしました。



株主の状況

所有者別株式分布 (2016年3月31日現在)



事業活動状況を十分にご理解いただき、適正な企業価値評価を得ることを目指しています。



▲ 株主の皆様へ

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主の皆様とのコミュニケーション

株主総会を、株主の皆様と直接コミュニケーションする場としてとらえ、できるだけ多くの方に出席していただくために、招集通知の早期発送、神戸製鋼ホームページへの早期の掲載、海外向けの英文での開示、開催日の集中日回避などの工夫をすると共に、インターネット(携帯電話、議決権行使プラットフォームへの参加含む)を通じて議決権を行使いただける環境を整えています。

また、株主の皆様が多様な事業を営む神戸製鋼グループに対する理解を深めていただく機会として、2007年度より株主の皆様を対象とした見学会を開催しています。これまでに合計17回の開催を数え、4,835名(同伴者様含む)をご招待しました。これまでにご覧いただいた事業所は以下の通りです。

- ▶ 加古川製鉄所(鉄鋼:兵庫県加古川市)
- ▶ 神戸製鉄所(鉄鋼:兵庫県神戸市)
- ▶ 高砂製作所(鉄鋼[鋳鍛鋼・チタン]、機械:兵庫県高砂市)
- ▶ 真岡製造所(アルミ[アルミ板]:栃木県真岡市)
- ▶ 神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)
- ▶ コベルコ建機(株)GEC・五日市工場(広島県広島市)

今後も、さまざまな事業所をご覧いただき、理解を深めていただけるよう、見学会を開催していきます。新たな事業所での開催や、開催機会の増加なども検討していきます。

株主見学会の様子



▲ 加古川製鉄所



▲ 加古川製鉄所



▲ 高砂製作所



▲ 高砂製作所



▲ コベルコ建機(株)GEC・五日市工場



▲ コベルコ建機(株)GEC・五日市工場

機関投資家の皆様とのコミュニケーション

国内の機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、神戸製鋼の経営方針や経営成績および財務状況をご理解いただく機会として、年4回の決算説明会を開催しています。

また、国内外の機関投資家や証券アナリストの皆様との個別面談を行い、継続的なコミュニケーションに努めています。

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

個人投資家の皆様には、神戸製鋼ホームページ(<http://www.kobelco.co.jp>)を通じて、半年に1度株主の皆様へ送付する「株主の皆様へ」などの発行物の他、アニュアルレポートや有価証券報告書、この環境・社会報告書など幅広い情報を提供し、会社説明会も実施しています。

2015年度に更新したホームページでは、新着ニュースの掲載や、冊子の閲覧だけでなく、神戸製鋼グループの製品・技術をわかりやすく検索いただけるようにレイアウトを構成し、映像による製造現場のご紹介や需要分野から当社グループの製品・技術を見ていただけるページを設けるなど、より深くご理解いただけるような工夫を凝らしています。

また、この他にも、海外の投資家の皆様にも神戸製鋼グループを知っていただけるよう、英語版や中国語版のホームページを開設しています。

神戸製鋼グループは、株主・投資家の皆様から末永く信頼いただけるよう、そして、中長期的な企業価値向上に向けて、今後も情報開示およびコミュニケーションの質的向上に努めていきます。



▲ 神戸製鋼ホームページ

社会との共生

神戸製鋼グループでは、一つひとつの事業所が、地域の一員としてさまざまな社会貢献活動を行っています。次世代の育成支援や地域の方々との交流、清掃活動、地域と協調した環境保全活動など、地域社会に貢献する、神戸製鋼グループの活動を報告します。

次世代の育成支援

未来を担う子どもたちの成長をサポートする活動に、2006年度より継続して取り組んでいます。

コベルコ地域社会貢献基金

● 10周年を迎えた、地域の子どもたちへの支援活動

神戸製鋼は、創立100周年を機に、2006年度に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立しました。2015年度で支援活動開始から10年目を迎え、未来を担う子どもたちを対象に、18の

事業所(グループ会社含む)が、地元の施設や団体を通じて子どもたちに遊具や教材を寄贈しました。



▲ 西条工場「警護ボランティア団体へ飛び出し注意の看板や誘導棒など」



▲ 真岡製造所「小学校へ学習用の実物投影機」



▲ 高砂製作所「子育て支援センターへバルーンなど」



▲ 神鋼造機「保育園へ大型遊具」

● 2015年度コベルコ地域社会貢献基金による支援実績

事業所名	支援先	支援内容
神戸本社(兵庫県神戸市)	児童養護施設	知育玩具、絵本などの購入費
	母子生活支援施設	地球儀、図鑑、辞典などの書籍、子ども用調理器具セットの購入費
	児童館	工作材料、スタンプラリーの景品などの購入費
神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)	青少年育成協議会	青少年フェスティバルの運営費
神戸製鉄所(兵庫県神戸市)	障がい児の支援団体	雪遊びで使う防寒用具やゼッケンなどの備品購入費
	ボランティア団体	餅つき大会で使うもち米、イベント用備品などの購入費
加古川製鉄所(兵庫県加古川市)	子育てサークル	野外活動費、備品の購入費
	ボランティア団体	清掃活動用備品の購入費
	ソフトボール協会	ソフトボール大会の運営費
高砂製作所(兵庫県高砂市)	母子生活支援施設	絵本、ブロックなど遊具の購入費
	子育て支援センター	絵本、ブロックなど遊具の購入費
	病児保育室	絵本、ブロックなど遊具の購入費
播磨工場(兵庫県加古郡播磨町)	障がい児の社会交流を支援する団体	健常者との交流イベントで使う備品の購入費
	ボランティア団体	環境学習用品の購入費
藤沢工場(神奈川県藤沢市)	児童館	知育玩具などの購入費
福知山工場(京都府福知山市)	子育て支援拠点	ソフトマットなどの購入費
茨木工場(大阪府茨木市)	児童の警護ボランティア団体	巡視用のウインドブレーカー、ベストなどの購入費
	市役所のキッズコーナー	ブックスタンドの購入費
西条工場(広島県東広島市)	児童の警護ボランティア団体	飛び出し注意の看板や誘導棒などの購入費
真岡製造所(栃木県真岡市)	小学校	学習用の実物投影機の購入費
大安工場(三重県いなべ市)	子育て支援センター	防災用具、遊具の購入費
	保育園	遊具や絵本などの購入費
長府製造所(山口県下関市)	発達支援センター	屋外遊具収納用物置の購入費
	神鋼造機(株)(岐阜県大垣市)	幼稚園
神鋼建材工業(株)(兵庫県尼崎市)	保育園	木製玩具の購入費
コベルコクレーン(株)(兵庫県明石市)	小学校・中学校	運動会などの行事で使うテントの購入費
神鋼機器工業(株)(鳥取県倉吉市)	保育園	防災教育用紙芝居などの購入費
ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)(福岡県北九州市)	図書館	理科実験に関する書籍の購入費

地域交流

各地の事業所では、地域社会の一員として、さまざまな地域交流イベントや社会貢献活動を実施しています。多くのイベントが地域の恒例行事として定着し、毎年大勢のお客様が訪れています。

加古川製鉄所 兵庫県

● 約8万人が参加した「第25回神鋼かこがわフェスティバル」
地域の恒例行事となった「神鋼かこがわフェスティバル」を、「みんなが集る みんながつながる 笑顔あふれるフェスティバル」をテーマに、2015年10月25日に開催しました。

加古川製鉄所構内や、隣接するグラウンド・野球場・体育館などを会場に、日ごろ見ることのできない熱延工場、厚板工場の見学会、囲碁大会や鉄づくりに体験、ゲームセンターや戦隊ショー、ラグビー教室、ソフトボール教室などの多くのイベントが開催され、充実した交流の場となりました。



▲ 厚板工場の見学会へ

藤沢事業所 神奈川県

● 43年連続開催の地域の恒例行事「神鋼祭」
「神鋼祭」は1973年に従業員同士の親睦と、町内会への御礼を目的とする盆踊り大会として始まり、いまでは地域社会にすっかり溶け込んでいます。第43回は、2015年8月5日に開催し、地域住民や取引先、従業員とその家族など約1,500名が参加しました。

当日は、歌やものまね、大道芸などのステージショーや抽選会、花苗の配布などを実施し、中でも大道芸は、子どもたちから好評を博しました。



▲ ステージショーの様子

長府製造所 山口県

● 16年目も大盛況の「長府フェスタ2015」
2015年10月18日、秋晴れの空のもと、「長府フェスタ」を開催しました。今回は神戸製鋼の川崎社長夫妻も参加し、2014年より1,000人ほど多い約5,300名が来場しました。

毎年恒例のお楽しみ抽選会、長府漁協の協力によるマグロの解体ショーに加え、戦隊ショーを催したこともあり、子どもたちを中心に盛り上がりを見せました。



▲ 子ども向けの戦隊ショー

高砂製作所 兵庫県

● 恒例の「高砂ファミリーホリデー」を開催
2015年11月7日、「高砂ファミリーホリデー」を開催し、従業員とその家族、地域住民など約3,000名が来場しました。従業員による和太鼓演奏、バンド演奏やフラダンス、近隣の荒井中学校による吹奏楽、その他変身ヒーローショー、そして毎年恒例の大抽選会など、さまざまなイベントで盛り上がりました。



▲ 従業員によるバンド演奏

コベルコ建機(株) 広島県

● 地域住民を招いたイベント「第4回コベルコ建機感謝祭」
2015年9月6日、五日市工場で「コベルコ建機感謝祭」を開催し、従業員とその家族、地域住民など約1,200名が参加しました。この催しは、2012年5月に従業員とその家族の労をねぎらう目的で始めたものですが、2014年より地域の方々を招いたイベントとして、内容の充実を図っています。

今回は、五日市工場近隣の「広島なぎさ中学・高等学校オーケストラ」の演奏や、神楽(かぐら)演舞、キッズコーナーでのショベル試乗などが好評を得ました。



▲ 従業員によるコベルコバンドのフィナーレの様子

神戸ウイングスタジアム(株) 兵庫県

● 春は「落語鑑賞会」、秋は「歌謡ショー」でスタジアムを開放
地域の賑わい創出を目的に、2009年からさまざまなイベントを開催しています。

2015年5月23日には、メインスタンドで「ウイング寄席」を開催し、約1,500名の参加者に笑顔が広がりました。

また、2015年10月17日には、同じくメインスタンドで約6,000名が「ウイング歌謡ショー」を楽しみました。演歌や昔懐かしいフォークソングなどで各世代の皆様に喜ばれました。



▲ 落語を楽しむ地域の皆さん



▲ 盛り上がりみせる歌謡ショー

近隣の清掃活動

各事業所が地域社会に貢献するための身近な取り組みとして、近隣の清掃活動を行っています。

神戸本社 兵庫県

● 通勤路の清掃活動を実施

神戸本社地区のグループ従業員および、近隣企業の有志が、2013年7月から週1回、最寄りの岩屋駅、灘駅から本社に至る通勤路を中心に清掃活動を行っています。



▲ 通勤路をいつもきれいに

茨木工場 大阪府

● 工場外周ならびに近隣の清掃活動を実施

茨木工場は、地域社会の一員として、毎月1回、従業員による工場外周の清掃活動を実施しています。

また、大阪府土木事務所主催の中央環状線の清掃活動にも参加しています。

これらの活動は、2008年の開始以来、息の長いものとなっています。



▲ 大阪中央環状線の一斉清掃活動に参加

神鋼建材工業(株) 兵庫県

● 工場周辺のゴミの不法投棄に対応した清掃活動を実施

神鋼建材工業は、2014年より年2回、EA21(エコアクション21)活動の中で清掃活動を行っています。これは工場周辺の植え込みや側溝にゴミの不法投棄が多く、定期的な取り組みが必要だと判断したものです。各職場が協力して、毎回20名程度の従業員が清掃活動を行っています。



▲ 工場南側歩道の清掃作業

日本エアロフォージ(株) 岡山県

● 会社周辺道路の清掃活動を実施

日本エアロフォージは、2013年より、年に1~2回、従業員有志による会社周辺道路の清掃を実施しています。2015年度は、従業員の約半数にあたる29名が参加しました。

また、倉敷玉島商工会議所が主催する溜川河畔や、水島臨海工業地帯E地区総務会が主催する玉島ハーバーアイランド道路の清掃活動にも、年に数回定期的に参画しています。



▲ 休日に有志が草刈り

子どもの体験学習

自然教室やものづくり教室の開催を通じて、子どもたちの成長をサポートしています。

灘浜サイエンススクエア 兵庫県

● 地域交流施設でのさまざまな体験学習

灘浜サイエンススクエアでは、ビオトープ観察会、ネイチャークラフト教室、植物や昆虫の標本鑑定会などの自然教室を開催しています。夏休みには工作教室や実験教室なども多数開催しており、理科系の自由研究対策として多くの方に喜ばれています。また、小中学校の校外学習として工場見学の受け入れをしており、地元の神戸市のみならず全国より多数の学校にご利用いただいています。



▲ 自然教室の作品



▲ 工場見学の事前説明

関西熱化学(株) 兵庫県

● 10年以上続く、近隣の小学校での「ものづくり教室」

関西熱化学では、2005年より従業員が講師となって、近隣の小学校で「ものづくり教室」を開催しています。日本の未来を担っていく子どもたちに、ものづくりの楽しさと素晴らしさを体感してもらうことを目的に始めたものです。

2015年7月には尼崎市の明城小学校、2016年3月には加古川市の別府西小学校で開催しました。いずれもピンホールカメラ(レンズを使わない簡易的カメラ)制作をテーマにした

もので、体験した小学校の先生からは、「子どもたちは毎年開催されるものづくり教室を楽しみにしています。学校としても、ものづくりの面白さを伝える有意義な場だと考えています。」との感想が寄せられています。



▲ 作り終えてカメラを覗き込む子どもたち

海外での社会貢献活動

グローバルに展開する神戸製鋼グループは、海外の事業所でも、現地の文化や慣習を尊重しながら、その国・地域の一員として地域社会に貢献しています。

Midrex Technologies, Inc. アメリカ

● フットボールチームの支援を通じて地域の治安維持に貢献

Midrex Technologies, Inc.が立地するノースカロライナ州シャーロット市の治安の維持に貢献するため、地元の警察官が母体となったフットボールチーム「コブラズ」のスポンサーを務め、彼らの活動をサポートしています。



▲ Midrex社 CEO(一番左)と、「コブラズ」の選手たち

● 孤児院で暮らす子どもたちを支援

ノースカロライナ州の孤児院で暮らす子どもたちへの支援の一環として施設への寄付の他、野球の試合への招待やクリスマスプレゼントの贈呈などの活動を行っています。

● 難病をかかえる子どもたちの夢をかなえる活動に参画

ボランティア団体「メイク・ア・ウィッシュ」の支援を通じ、難病をかかえる子どもたちの夢をかなえる活動に参画しています。2015年は、260名を超える子どもたちの夢をかなえることができました。

Kobe CH Wire(Thailand)Co., Ltd. タイ

● サポートを必要とする学校と子どもたちを応援

Kobe CH Wire(Thailand)Co., Ltd.(以下、KCH)では、社内の福利厚生委員会を中心とした従業員有志が、年に一度社内外からスポーツ用品や文房具、寄付金などを募り、郊外の学校に寄贈しています。本活動は、2009年の会社設立10年を契機に、従業員が自発的に始めたものです。

KCHのボランティア活動は、国内の恵まれない子どもたちの健全な育成を手助けしようとするもので、寄贈した学校は、インターネットなどの情報をもとに、実際に現地を訪問した上で選定しました。また、寄贈にあたっては、従業員が現地を訪問し、学校関係者や保護者の皆様とも交流を図っています。



▲ プレゼントを受け取る子どもたち

Kobelco & Materials Copper Tube(Thailand)Co., Ltd. タイ

● より広い地域の子どもたちを支援

Kobelco & Materials Copper Tube(Thailand)Co., Ltd.は、より広範囲の子どもたちを対象に、工場から少し離れた地域でも支援活動を実施しています。約20名の従業員が学校を訪れて、近隣住民も交えてゲームや楽器演奏に興じ、お礼に子どもたちからダンスを披露してもらいました。お菓子や文具を進呈し、近隣住民も参加した炊出しの食事と一緒に楽しくいただきました。



▲ はじめて訪問する学校の子どもたち

Kobe Precision Technology Sdn. Bhd. マレーシア

● 子どもたちを元気づける活動

Kobe Precision Technology Sdn. Bhd.が立地するペナン州にある総合病院の小児科に入院する子どもたちに、玩具類を寄贈しました。これは、病院内でイスラムの断食後にあるハリヤのお祝いの時期にあわせて実施したものです。

15名の従業員がボランティアで参加したこの活動により、入院中の子どもたちのみならず、保護者の皆様も元気づけました。

また、同じくペナン州にあるバヤンラパスの孤児院には、5名の従業員がボランティアで訪問し、炊飯器や冷蔵庫を寄贈しました。



▲ 孤児院訪問時に子どもたちと

KOBELCO GREEN PROJECT (環境活動を通じた社会貢献)

神戸製鋼グループでは、環境の側面からも社会との共生・協調を目指しています。2013年度からは、「KOBELCO GREEN PROJECT」として、さまざまな環境貢献活動をグループ全体で推進。子どもたちの環境への思いを育む「KOBELCO森の童話大賞」、グループ従業員による「森林整備活動」や「児童館出前エコ教室」などを行っています。

第3回KOBELCO森の童話大賞

さまざまな自然の恵みをもたらす森を大切にする気持ちを育んでもらうことを目的とし、全国の小中高校生から「森」をテーマにしたおはなしを募集しています。絵本作家の永田萌さん、Rokoさんの挿絵で金賞作品を絵本化しています。

2015年度の第3回は574件の応募をいただき、崎戸美水さんの「森のまほうの洋服」(小学生の部)と、藤原瑛人さんの

「森野銀行小山支店」(中高生の部)が金賞を受賞しました。

できあがった絵本は、兵庫県、神戸市教育委員会や兵庫県立図書館への贈呈式を経て、後援自治体所管の小学校・中学校・高校・特別支援学校・公立図書館などに、約1,800セットを寄贈しました。



▲ 絵本贈呈式
(兵庫県立図書館 善部館長・写真左)



▲ 第3回表彰式

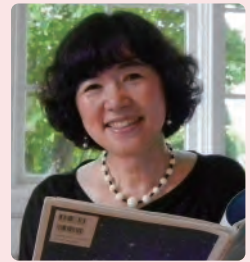


▲ 第3回金賞作品絵本

審査員長のコメント

挿絵を描くにあたって、もともと「子どもたちに森のことを学んでもらう」という側面ははっきりしていましたので、たとえば、植物の勉強もできる、そんな絵本を意識しました。服部保先生(兵庫県立大学名誉教授)という森林に関する世界的な権威の方に審査の過程から絵本完成まで見ていただけたところが、他の絵本作りとはちょっと違うおもしろさや、学びの機会につながっていると思います。「いつまでも待っていてくれるコンテスト」という形で、長く続けていただきたいと思います。

審査員長 永田 萌さん



金賞受賞者の声

小学生の部

「森のまほうの洋服」
崎戸 美水さん
(小学3年生 兵庫県神戸市)

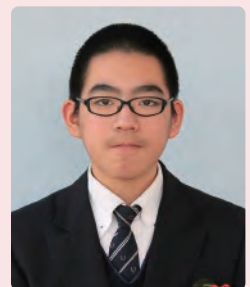
「まさか絵本になるとは思いませんでした。主人公や登場人物をとてかわいく描いていただいて、とてもうれしいです。」



中高生の部

「森野銀行小山支店」
藤原 瑛人さん
(中学1年生 兵庫県神崎郡)

「家の周りには、森や自然が豊富にあって、その風景を童話の舞台にしました。絵本に描かれていた絵が、自分が想像していたものよりも、きれいでとても驚きました。」



第2回絵本「森のバースデー」の読み聞かせ

2015年10月に兵庫県佐用郡のひょうご環境体験館にて開催された「兵庫県緑の少年団の活動成果報告会」の場で、第2回の小学生の部の金賞受賞作品である「森のバースデー」の読み聞かせが行われました。参加した団員とその保護者約50名は、真剣におはなしに耳を傾けていました。

絵本というツールを通じて、森や自然を大切に思う気持ちを育んでいくことは非常に意義深いことだと思いますし、子どもたちの心に響くと考えています。これからも、このような絵本作りを続けてほしいと思います。

ひょうご森のインストラクター **古川 由美さん**



▲ 読み聞かせの風景

森林整備活動

神戸製鋼グループは、2011年秋から、従業員のボランティアによる「森林整備活動」を実施しています。兵庫県内では、KOBELCOの森（三木市：約4.7ha）、ECOWAYの森（神戸市灘区：約0.6ha）の2カ所まで活動を行っています。また、茨木工場では、2014年度より、大阪府茨木市銭原地区の里山・農地（約1.6ha）の保全を行っています。

これまでの活動で2,000名を超える従業員が参加し、森林エリアの除間伐、下草刈りなどの作業を続けてきた結果、太陽光が森の中に差し込み始め、少しずつ元気な森を取り戻しつつあります。



▲ KOBELCOの森 活動の様子

児童館出前エコ教室

神戸製鋼は、神戸市が主催する「神戸こどもエコチャレンジ21倶楽部」の会員になっています。この倶楽部は、児童の学習・生活支援の場所となる児童館の環境学習をサポートしており、児童が環境に対する興味を持ち、環境に配慮した活動を継続して実践していけるように、「児童館出前エコ教室」を展開しています。

神戸製鋼は、鉄と電気をテーマにし、サイエンスショーやクイズ大会、エコカルタなどの遊びを通じて、環境や電気の大切さ、鉄の便利さを学ぶプログラムを提供しています。2015年度は、池田児童館（長田区）、花山学童保育コーナー（北区）、たかとり児童館（須磨区）の3カ所で開催し、約100名の子どもたちが参加しました。今後も、児童館出前エコ教室の開催を通じ、子どもたちの環境学習に貢献していきます。



▲ 出前エコ教室の様子(たかとり児童館)

社員が働きやすい職場環境

神戸製鋼は、社員の人格・個性を尊重し、活力あふれた魅力ある職場環境を実現していくために、仕事と生活の両立支援や女性の活躍推進などを図る各種の人事制度や、人材育成制度を展開しています。また、社員一人ひとりを活かし、グループの輪を尊ぶという神戸製鋼グループの企業理念を実現するために、グループ各社とさまざまな形で連携を強めています。

人権尊重の取り組み

神戸製鋼は、差別のない健全な職場環境の確保に取り組んでいます。

管理職や新入社員を対象とする全社階層別研修では、当社の「企業倫理綱領」に定めた人権に関する倫理規範や行動基準を周知すると共に、企業活動において人権を尊重し、差別のない健全な職場環境をつくっていくことの重要性について教育を行っています。

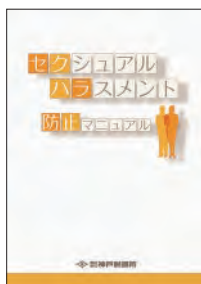
また「社員のための行動手引き」を全従業員に配布し、一人ひとりに人権を尊重して行動することをうながすと共に、各事業所での研修を通じて人権意識の向上を図り、人権問題の未然防止に努めています。

ハラスメント防止の取り組み

神戸製鋼は、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなどの職場におけるハラスメント行為を容認しません。問題発生時には、迅速かつ断固たる処置をとります。

当社は、「企業倫理綱領」にハラスメントに関する方針や行動基準を定めると共に、管理監督職に対して、ハラスメント防止をテーマとするe-ラーニングや教育研修を実施し、ハラスメントの起きにくい職場環境づくりに取り組んでいます。

また、職場の一人ひとりがハラスメントについて正しく理解し、問題を見逃すことのないよう、「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」などのコンプライアンスマニュアルにより、この問題に関する意識啓発を行っています。また、セクハラ相談のための窓口を全事業所に設置し、窓口担当者には適切に相談に応じるための研修を行うなど、ハラスメントの未然防止や、発生時の早期解決に向けた取り組みを幅広く進めています。



▲「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」

企業倫理綱領 企業行動基準

第2.3 人権の尊重とあらゆる差別的取扱いの禁止に関すること
当社は、人種、信条、肌の色、性別、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、出身地等の理由で嫌がらせや差別を受けない健全な職場環境を確保します。特に、社会問題化している性的嫌がらせ(セクシャルハラスメント)やパワーハラスメントなどの職場におけるハラスメント行為について会社として容認しません。問題発生時には、迅速に調査し、被害者の救済と再発防止に向けた断固たる処置をとっていきます。

ダイバーシティ推進

神戸製鋼は、取り巻く事業環境や社会の変化に柔軟に対応し、継続的な発展と成長を目指すためには、事業運営において多様性(ダイバーシティ)の観点が不可欠であり、ダイバーシティ推進は重要な経営課題の一つであると認識しています。

2014年10月に、ダイバーシティ推進室を新設。社員一人ひとりが持つ多様性を尊重し、それぞれが最大限の能力を発揮し、いきいきと働く職場・会社づくりを目指して取り組んでいます。

特に女性の活躍推進においては、採用における女性比率に関する数値目標などを設け、より積極的な採用活動を展開しています。若手総合職の女性には将来にわたる活躍を後押しするような、独自のキャリアアッププランを実施するなど、女性活躍のためのさまざまな取り組みを行っています。

●初の「なでしこ銘柄」に選定(2016年3月)

神戸製鋼は、「なでしこ銘柄」に選定されました。「なでしこ銘柄」は、経済産業省と東京証券取引所が2012年より発表しているもので、女性が働き続けるための環境整備を含め、女性の活躍推進を積極的に進めている企業を選定するものです。

今回、全国から45社が選定されましたが、当社がその1社として選ばれました。



▲ なでしこ銘柄発表会の様子

●女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行

ダイバーシティ推進や女性の活躍推進には、男性を含めた会社全体で働き方の見直しが必要とされており、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得率向上や生産性向上などの取り組みを通じ、全従業員にとって「働きやすい職場環境づくり」にも取り組んでいます。

主なダイバーシティ推進・女性活躍推進の制度と取り組み

キャリア継続休職制度(配偶者の転勤などに伴う休職制度)
再雇用エントリー制度(結婚・育児・介護などを理由とした退職者の再雇用制度)

育休からの早期復帰支援制度(最大60万円)

ダイバーシティサポートネットの開設

早期の能力引出し支援策(若手女性社員のキャリアアッププラン)

メンター制度/総実労働時間削減・年休取得向上の取り組み

女性社員交流会の開催/上位職向けダイバーシティ研修の実施

●従業員の状況

(2016年3月31日現在)

	男性	女性	総計
従業員数	10,090	743	10,833
管理職	1,718	26	1,744
総合職	1,839	119	1,958
基幹職	6,234	549	6,783
医務職	0	15	15
嘱託・受入出向	299	34	333
採用者数	597	47	644
新卒	363	26	389
中途	234	21	255
勤続年数	17.3年	16.9年	17.3年

※採用者数は2015年度の実績

仕事と生活の両立支援

神戸製鋼は、仕事と生活の両立を図るための環境整備に積極的に取り組んでいます。これまでの取り組みが評価され、子育てを積極的にサポートする企業に与えられる次世代認定マーク(愛称「くるみん」)を2度(2012年、2015年)取得しました。



▲くるみんマーク

- 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行
- 育児・介護に関し法定を上回る制度の整備と拡充

女性社員のみならず男性社員も子育てに積極的に参加し、ワーク・ライフ・バランスの充実が図れるよう、社内制度の周知や定着活動も並行して進めています。



▲仕事と育児の両立支援ハンドブック

<主な子育て・介護支援制度と取り組み>

- 育児休業期間の延長(子が満3才に達するまで)
- 育児のための就業時間等配慮期間の拡大(子が小学生まで)
- 在宅勤務日制度(4日/月、妊婦・介護・子が小学生まで拡大)
- 介護休業期間の延長(最大3年間まで)
- 子の看護・家族の介護休暇の有給化
- 仕事と育児の両立支援ハンドブックの配布
- 育児・介護支援提携サービスの提供
- 福利厚生制度における育児メニューのポイント優遇

●育児休業取得の状況

	2013年度	2014年度	2015年度
育児休業取得者(内、男性取得者)	24(0)	21(1)	20(5)

※育児休業は、上記期間中に出産した女性社員全員が取得しています。また育児休業からの復職率は、復職見込みを含めると男女ともに100%です。(2016年5月現在)

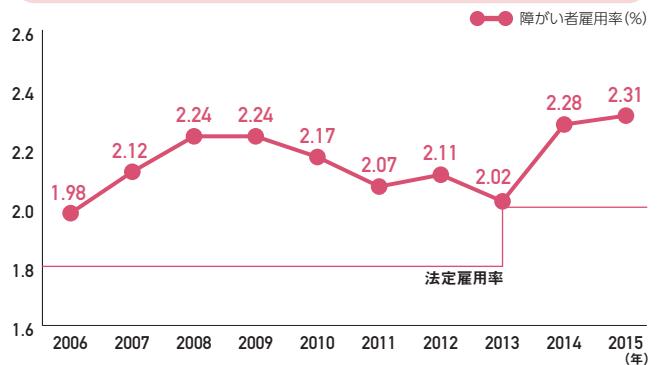
障がい者雇用への取り組み

神戸製鋼グループは、障がい者雇用を積極的に推進するとともに、個々人が持てる能力を十分に発揮でき、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

神戸製鋼では、通年採用を実施し、地元のハローワークや障がい者職業能力開発校との連携、合同就職面接会への参加、近隣の学校訪問など障がい者雇用の拡大に取り組んでいます。

2015年6月1日時点の神戸製鋼の障がい者雇用率は2.31%と法定雇用率(2.0%)を上回っていますが、引き続き雇用率アップに向けた取り組みを継続していきます。

障がい者雇用率推移(神戸製鋼)



高齢者雇用への取り組み

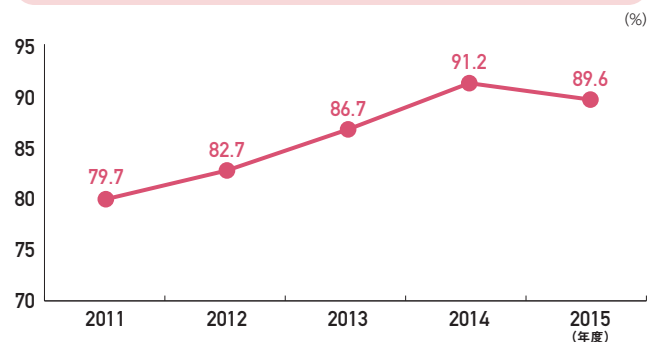
神戸製鋼は、停年退職後の再雇用制度として「熟練社員再雇用制度」を導入しています。グループ会社などでの再雇用者を含め、ベテラン層の有する技術・技能を引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や本人の働き甲斐の実感を通じて、職場活力の維持・向上を図っています。

現在では、停年退職者に占める再雇用者の割合も約90%に達しており、ほとんどの従業員が60歳の停年退職後も業務に従事している状況にあります。

労務構成の若返りも進む中、こうしたベテラン従業員の技能・技術力の発揮が当社の「ものづくり」を支えていると共に、それを後進に伝承していくことにより、明日の当社の「ものづくり力の礎」となっています。

また、グループ会社においても、同様の取り組みを進めています。

停年退職者に占める再雇用者の割合推移(神戸製鋼)



安全衛生管理

安全衛生管理方針

「安全・衛生・健康は事業経営の基盤であり、すべての事業活動に優先する」という基本理念のもと、安全で安心して働くことのできる、活気溢れた職場の実現に向け、さまざまな安全衛生活動を行っています。

安全衛生管理計画で目指す姿

法令・社内ルールを正しく理解し、それを確実に遵守できる組織・体質をつくり上げる。

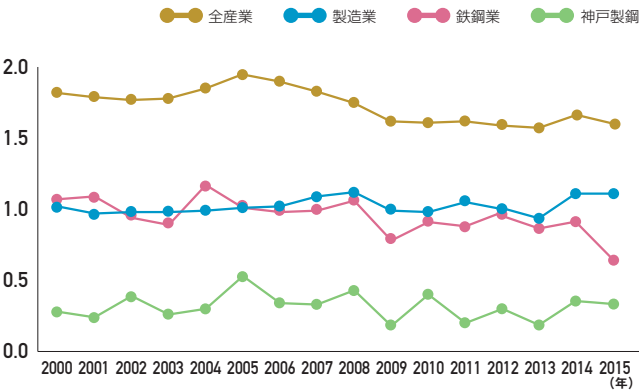
生産・品質・人・組織・環境などに応じた“変化”を見逃すことなく速やかに対応する。

自らはもとより、職場の仲間の安全を守り、健康を気遣う風土をつくる。

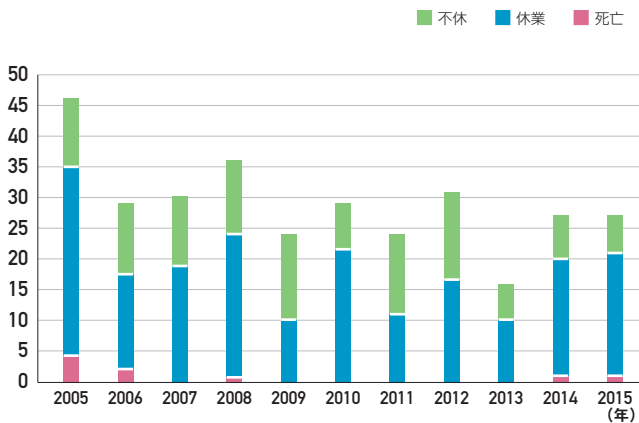
安全管理

神戸製鋼は、中長期的な視点で継続して労働災害防止に取り組んできた結果、労働災害は減少し、度数率も低位で推移してきましたが、2014年度に2008年以来となる死亡災害が発生しました。2016年度も2015年度に引き続き、従業員の生命と健康を守ることが企業の社会的責任を果たす上で大前提となるという認識のもと、神鋼グループ・協力会社一体となって人・設備・管理の観点からさらなる安全レベル向上を図っていきます。

休業災害度数率推移



死傷者数の推移



衛生管理

●「健康経営銘柄」に2年連続で選定

2015年度から始まった「健康経営銘柄」は、従業員への健康保持・増進活動を推進する企業を、経済産業省と東京証券取引所が共同で認定するものです。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業が従業員の健康管理を気遣い、健康経営を実践することは、生産性の向上をもたらしながら「投資」であるという考えです。

2016年2月に、第2回健康経営銘柄として25社が選定され、神戸製鋼は第1回(2015年度)に続き、2年連続で選定されました。



● 疾病予防への活動強化

神戸製鋼では、基本理念に基づき、健康管理を進めていく上で、「疾病の早期発見・早期対応」「生活習慣の改善(予防)」が重要との認識にたち、『こころ』と『からだ』の両面の管理体制を充実し、予防への活動展開を一層強化して取り組んでいます。

(1) 作業関連疾病予防対策の徹底

(15年度:新規職業性発症者数:ゼロ)

(2) 疾病の早期発見・早期対応

① 全額会社負担による1日人間ドックの受診

(コベルコメディカルチェック50)

- ・50歳を一つの区切りとして自身の健康状態を把握し、健康管理の意識づけを高めるための取り組みとして、50歳に到達した全従業員を対象にした1日人間ドックの実施

- ・50歳時に夫婦で健康意識を高めてもらう取り組みとして、「夫婦健康チェック50」と名付けた人間ドックのオプション項目(腫瘍マーカー、脳血管疾患など)への費用補助

② ハイリスク肥満(メタボリックシンドローム)への早期対応(「脳・心臓疾患」、「新生物」等の発症との因果関係が高いといわれるハイリスク肥満の早期対応)

- ・35歳から法的に義務付けられる健康診断の血液検査を20歳、25歳、30歳という節目年齢にも実施し、若年時よりの発見と対応に留意
- ・有所見の従業員への産業医、保健師による保健指導の充実強化

③ がん検診の充実(全額健保負担)

- ・35歳以上を対象に内視鏡を用いた「胃がん検診」「大腸がん検診」の実施
- ・全女性従業員を対象に「子宮がん検診」や「乳がん検診」の実施

④ カウンセリング受診の充実(精神疾患の予防措置)

- ・全事業所にカウンセラーを配置し、社内での異動や昇進昇格時といった業務上の変化に対応したカウンセリング受診、不調者のケア、階層別教育を積極的に実施

(3) 生活習慣改善に向けた取り組み(予防対策・健康意識の高揚)

- ・ハイリスク肥満(メタボリックシンドローム)の原因となる食生活、飲酒、運動などの生活習慣が一人ひとりで異なり、本人単独では生活習慣の改善・維持が難しいと考えられるため、以下の支援策の実施
- ・「運動」「禁煙」「減量」などに一定期間取り組む「健康チャレンジ活動」を展開し、目標達成者への褒賞を実施

神戸製鋼は、安全で安心して働くことのできる、活気溢れた職場環境の実現に向け、安全衛生活動に取り組んでいきます。

人材育成

ものづくり力を支える人材育成・技能継承活動、QCサークル活動

人材育成方針

神戸製鋼は、社員が仕事への誇りと働き甲斐を持つことを人材育成の目標としています。そのためには、社員一人ひとりが、具体的目標を持ち、日々成長していくことが重要です。社員自らのたゆみなき研鑽による成長を会社は全面的に支援します。

また、社員一人ひとりが多種多様な価値観を共有し、誇りと意欲を持って日々の仕事をやり遂げることを目指し、「神戸製鋼のあるべき人材像」を以下のとおり定めています。

『私たちは、グローバルに展開するKOBELCOの信頼に貢献する人材でありたいと日々努力します。』

- 【誠実】** 事実を真摯に受け止め、誠意を持って行動する人材
- 【協働】** 自分の考えを発信し、相手の意見を受信し、切磋琢磨しながら取り組む人材
- 【変革】** 現状に満足せず、常に挑戦し変革を目指す人材

● 製造現場のものづくり力を支える人材育成

神戸製鋼の技能系社員には、入社後5年間必修の技能教育に加え、技能検定等の資格取得支援や、産業技術短期大学への派遣などを通じ、若手技能者の育成を積極的に進めています。

また、現場監督者層の「マネジメント能力」向上のための監督職任命教育も本社および各事業所において実施しています。その他、品質、生産の管理教育はもちろん、その根底となる安全、環境、コンプライアンス、人権など、管理監督者の職責としての知識に関する教育も充実させています。

● 基幹職技能系教育体系図

資格・役職	階層別教育	産短大派遣
係長	<ul style="list-style-type: none"> 新任係長フォロー教育 係長任命教育 	産業技術短期大学への派遣
職長	<ul style="list-style-type: none"> 新任職長フォロー教育 職長任命教育 	
班長	<ul style="list-style-type: none"> 新任班長教育 	
リーダー	<ul style="list-style-type: none"> リーダー育成教育 	
基幹	<ul style="list-style-type: none"> 基幹社員教育 	
入社	<ul style="list-style-type: none"> 職種別技能教育 (オペレータ職・保全整備職・加工職 組立職・溶接職・検査分析職) 	
	<ul style="list-style-type: none"> 共通技能教育 	

● 「技能継承」活動

グループ各工場では、実務を通じた教育訓練(OJT)に加え、「技能道場」と呼ぶ教育訓練場などを活用した教育訓練(OFF-JT)を通して若手のレベルアップを図ると共に、誰がどのような技能をどのレベルで保有しているかを示す技能マップを用いて計画的な技能継承を進めています。こうした各工

場における技能継承活動と、全社教育によって若手技能系社員の技術、技能力向上を図っています。

● QCサークル活動

神戸製鋼グループでは、ものづくり力がグローバルな競争力の源泉になるという考えの下、現場の改善活動(QCサークル活動)を積極的に推進しています。

特に、年に1回、「KOBELCO QCサークル大会」を開催し、神戸製鋼グループ全体に横串をとおした情報共有や啓発を図り、活動レベルの底上げを目指しています。



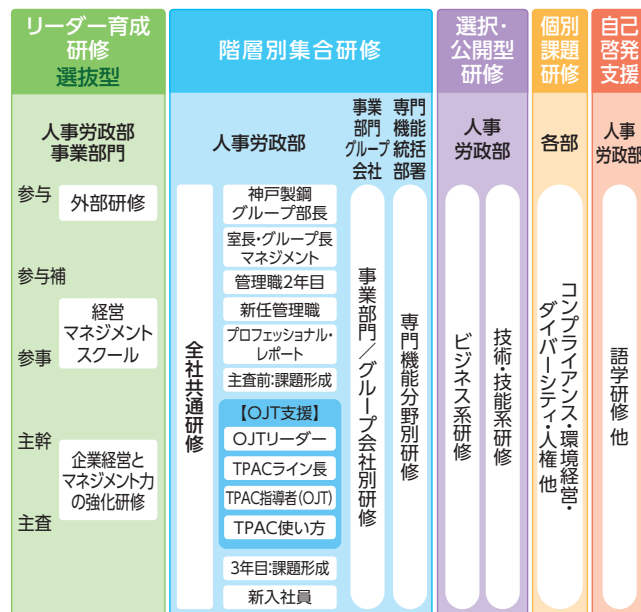
▲ KOBELCO QCサークル大会

キャリア開発・能力開発支援

社員のキャリア形成のため、上司と部下の間で業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を、男女問わず管理職、総合職、基幹職全員に設けています。これをもとに、本人の希望と事業上の必要性を勘案しつつ、育成的見地からのジョブ・ローテーションを実施しています。また、自律的なキャリア形成を促進するための人材公募制度も導入しています。

社員の能力開発支援として、OJT教育を補完するためのオフライン研修の充実にも重点を置いています。最近では、選択型研修の拡充や若手社員の基礎教育の強化、中堅社員の課題解決力、専門性や語学力の向上、管理職層を対象としたリーダー育成などの取り組みに力を入れています。

● 研修体系図



社員の自己啓発を支援するしくみでは、語学習得のための通信教育の受講料を会社が支援する制度があります。また、カフェテリアプラン(選択型福利厚生制度)では、資格取得費用や書籍購入費、外部の教育機関への通学費用を会社が補助するメニューがあります。

防災の取り組み

神戸製鋼グループは、グループを挙げて法令の遵守や設備事故対策、自然災害への備えに努めています。災害時における防災体制の整備、防災訓練などを継続的に実施し、事故の未然防止や災害時の被害の最小化に積極的に取り組んでいます。今後とも従業員一人ひとりの防災意識を高め、グループ全体で防災活動を進めていきます。

2015年度 全社防災管理方針

1 設備事故の防止

2 自然災害への備え強化

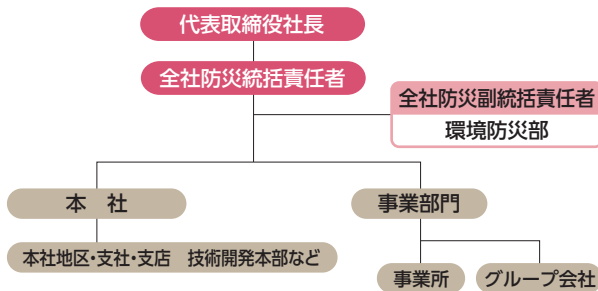
3 法令の遵守

「人命の尊重、企業活動の継続、地域の安心の実現」

全社防災管理体制

神戸製鋼グループは、社長、全社防災統括責任者のもと、本社、事業部門、事業所、グループ会社それぞれにおいて、防災管理活動を推進しています。

全社防災管理体制



神戸製鋼グループ防災会議

神戸製鋼グループは、防災情報の共有化、災害防止の取り組み強化を目的に、毎年「神戸製鋼グループ防災会議」を開催しています。2015年度は、グループ会社38社を含め、104名が参加しました。災害時の通報連絡基準、衛星電話、緊急地震速報、津波・土砂災害への備えなどの自然災害対策に加え、社内外の事故事例報告を行いました。



▲ 神戸製鋼グループ防災会議

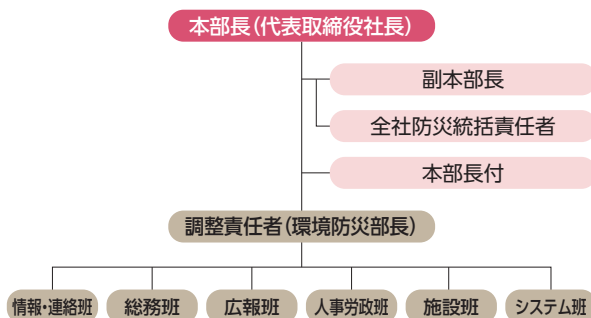
災害時の対応体制

大規模な地震などの緊急時には、東京本社または神戸本社に災害総合対策本部を設置し、救援や復旧などにあたります。

2016年3月10日には、南海トラフ巨大地震を想定した対策本部設置訓練を実施しました。今回の訓練では、地震発生直後

の初動対応および24時間経過後の支援対応に重点を置きました。今後も、よりスムーズな対応ができるよう、教育・訓練を継続して行います。

災害総合対策本部組織図



▲ 災害総合対策本部設置訓練

事業所の防災対策 (設備事故対策)

神戸製鋼グループは、火災などの事故の未然防止に努めてきましたが、2015年度は神戸製鋼の事業所で5件、グループ会社で7件と、設備事故の発生をなくすことはできませんでした。それぞれについて原因究明を行い、対策を講じています。

今後も、類似事故を含めた再発防止の徹底、社内外の事故情報の共有化、業界団体の自主行動計画と連携した特別活動など、グループ全体で事故防止に努めていきます。

2015年度 神戸製鋼事業所での設備事故例

日時・場所	内容
2015年4月 加古川製鉄所	熱延工場加熱炉燃料ガスブスターファンのケースにできた隙間から漏れた燃料ガスに着火して火災
2015年6月 加古川製鉄所	冷延工場焼鈍炉バーナー空気配管の不具合で発生した未燃ガスに着火して火災
2015年6月 加古川製鉄所	石灰工場焼成炉の油圧ホースから漏れた油に着火
2015年11月 大安工場	鑄造機の鑄型上部より、マグネシウムの溶湯が漏れ出し、ホースなどを焼損
2016年2月 神戸製鉄所	製鋼スラグ処理場での水蒸気破裂に伴い飛散したスラグにより近くの重機を焼損

事業所における防災活動

定期的な防災訓練の実施

神戸製鋼グループは、各事業所において定期的な防災訓練を実施しています。

茨木工場では、大規模地震および火災発生を想定した工場総合防災訓練(昼間、夜間)を実施し、緊急地震速報発報時の対応、避難行動の確認などを行いました。

また、神戸製鋼では災害時の緊急通信手段として、社内全拠点へ衛星電話を配備しています。

従業員の命を守ると共に、周りへの被害を最小限に抑えるため、今後もさまざまな対策を強化していきます。



▲ 防災訓練(茨木工場)

大規模災害を想定した帰宅訓練

地震など大規模災害の発生で交通機関が不通になったことを想定し、社内の5つの事業所で、帰宅訓練を実施しています。

大阪支社では、19名が参加し、約6km離れた目的地までの途中にある危険箇所やコンビニなど役立つポイントを確認しました。実際に帰宅ルートを体験することの大切さを改めて実感しました。



▲ 帰宅訓練(大阪支社)

現地防災確認調査

防災関係法令の遵守状況の確認や設備事故につながるリスク低減を目的に、神戸製鋼の本社部門による事業所の現地防災確認調査を実施しています。

2015年度の社内事業所・グループ会社の防災確認調査では、重大な法令違反はありませんでした。

今後も神戸製鋼グループ全体の防災管理体制の強化を図っていきます。



▲ 防災確認調査(神鋼ノース(株))

地域・社会の皆様から信頼・安心される企業グループを目指し、 防災活動に取り組んでいきます。

全社防災統括責任者(常務執行役員) **山本 浩司**

熊本地震で被災された皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

神戸製鋼グループでは、「設備事故の防止」、「自然災害の備え強化」、「防災関連法令の遵守」を3つの基本方針として、防災管理活動を実践しています。

事故の防止については、社内外の災害事例を参考に、事故につながるリスクを低減する取り組みを行ってきました。

自然災害への備えについては、地震や津波、土砂災害などの災害につながるリスクを把握し、備えを強化し、教育・訓練を実施するなど、防災・減災の取り組みを行ってきました。

今後も、一つひとつの活動を地道かつ着実にやり、地域社会やお客様から信頼・安心される災害に強い企業グループを目指してまいります。



各事業所の 環境保全への取り組み

神戸製鋼の全事業所および主なグループ会社の事業所における環境保全の取り組みについて、各事業所の責任者よりご報告します。一つひとつの現場が常にチャレンジし、新たな努力を積み重ねることで、神戸製鋼グループの環境保全活動は進歩していきます。

1 事業所名・グループ会社名

所在地

T E L

主要製品

F A X

事業所長・環境責任者からのコメント



氏名

神戸製鋼の事業所

グループ会社

鉄鋼事業部門

- 1 加古川製鉄所
- 2 神戸製鉄所
- 3 神鋼建材工業株式会社 本社・工場
- 4 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所
- 5 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所
- 6 コベルコ鋼管株式会社 本社・下関事業所
- 7 神鋼ボルト株式会社 本社・工場
- 8 株式会社セラテクノ 本社・明石工場
- 9 株式会社セラテクノ 備前工場
- 10 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所
- 11 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所
- 12 関西熱化学株式会社 加古川工場
- 13 日本エアロフォーシジ株式会社 本社工場

溶接事業部門

- 14 藤沢事業所
- 15 茨木工場
- 16 西条工場
- 17 福知山工場
- 18 神鋼アクテック株式会社 日高工場
- 19 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

アルミ・銅事業部門

- 20 真岡製造所
- 21 長府製造所
- 22 大安工場
- 23 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社・工場
- 24 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場
- 25 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場
- 26 神鋼リードミック株式会社 本社・工場
- 27 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

機械事業部門

- 28 播磨工場
- 29 神鋼造機株式会社 本社

エンジニアリング事業部門

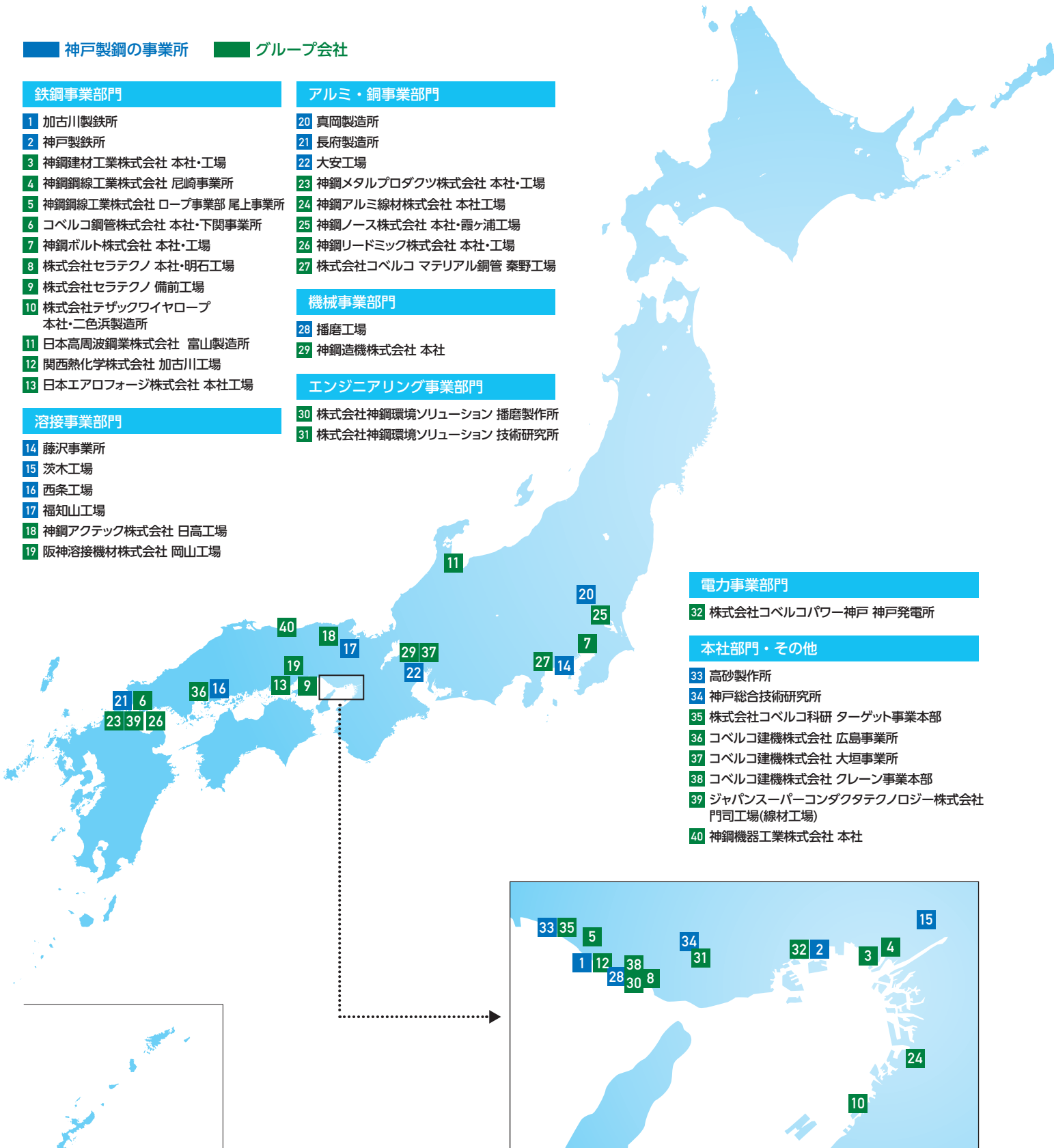
- 30 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所
- 31 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

電力事業部門

- 32 株式会社コベルコパワー神戸 神戸発電所

本社部門・その他

- 33 高砂製作所
- 34 神戸総合技術研究所
- 35 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部
- 36 コベルコ建機株式会社 広島事業所
- 37 コベルコ建機株式会社 大垣事業所
- 38 コベルコ建機株式会社 クレーン事業本部
- 39 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)
- 40 神鋼機器工業株式会社 本社



1 加古川製鉄所

所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町1
TEL 079-436-1111 FAX 079-436-1400
主要製品 厚板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板、線材

「安全・環境・防災」を最優先し、法・協定の遵守は当然のこととして、降下ばいじんの低減、省エネルギー・リサイクルの推進、環境配慮型の製品開発など、環境負荷の低減を通じて社会に貢献するよう取り組んでいます。環境に対する意識の一層の向上のため、教育・訓練を継続的に実施すると共に、各種コミュニケーションを通じて地域の皆様との共生を図ってまいります。



所長
柴田 耕一郎

2 神戸製鉄所

所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2
TEL 078-882-8030 FAX 078-882-8290
主要製品 線材、棒鋼

神戸に生まれ育った製鉄所として、常に地域との共生を意識して環境保全活動に取り組んでいます。2017年度の上工程集約に伴う新生産体制の確立に向けて、きめ細かな環境管理を拡大・発展させ、安全で安心していただける製鉄所を実現していきます。



所長
宮崎 庄司

3 神鋼建材工業株式会社 本社・工場

所在地 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地
TEL 06-6418-2621 FAX 06-6418-6701
主要製品 ガードフェンス、高欄、グレーチング、アンチスリップ鋼板、アルミ道路資材

環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を取得して8年が経過しました。継続的に生産工程の効率化やムリ・ムラ・ムダの排除に取り組んでおり、省エネルギー・省資源・廃棄物の削減などの環境負荷低減に努めてまいります。



製造副本部長
梶原 政徳

4 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

所在地 〒660-0091 兵庫県尼崎市中浜町10番地1
TEL 06-6411-1071 FAX 06-6411-9644
主要製品 PC鋼材、PC鋼材加工品、めっき鋼線、ばね用鋼線

当尼崎事業所には本社・開発・各地営業支店も加え、「エコアクション21」ガイドラインに則り、省エネルギー活動を展開しています。さらに、今期は省エネルギーコンサルタントの支援も受けながら、網羅的な改善活動を推進中です。また、今後数年間は工場設備の老朽化更新計画が目白押しとなっており、高効率や省エネルギータイプへの更新を考慮して対応予定です。



所長
橋本 力男

5 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所

所在地 〒675-0027 兵庫県加古川市尾上町今福128番地
TEL 079-424-2681 FAX 079-424-2686
主要製品 一般ワイヤーロープ、特殊ワイヤーロープ、ロープ加工品、その他線材二次製品

省エネルギー・省資源を柱とした環境改善活動の中で、2015年度は歩留り・品質向上活動、および「エコアクション21」活動を推進し、環境負荷低減に取り組んでまいりました。2016年度は、新設伸線機の活用を推し進め、環境保全に貢献する事業所を目指します。



所長
谷川 文男

6 コベルコ鋼管株式会社 本社・下関事業所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町13-1
TEL 083-246-3781 FAX 083-245-1092
主要製品 継目無ステンレス鋼管、精密細管、特殊管、チタン管

当社は持続可能な発展を目的として、資源の効率的な使用・省エネルギーの推進を環境目標に掲げ、成果を上げています。また、内部監査やパトロール強化により不適合発生件数が減少しています。今後も継続的な改善活動を推進していきます。



常務取締役
下関事業所長
廣田 晃一

7 神鋼ボルト株式会社 本社・工場

所在地 〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17番地
TEL 047-328-6551 FAX 047-328-6558
主要製品 高力ボルト(トルコン、ハイテン)

2007年の「エコアクション21」認証取得を契機に全社一丸となって活動を展開しております。特に2015年度は、主原料の線材加工を担当する係の発案にて専用の潤滑油を低減する活動を3年にわたり粘り強く取り組んだ成果がでて、潤滑油の使用量を従来の25%減にすることを達成しました。職場環境、産業廃棄物減に大きく貢献することができましたので、線材加工係には社長から特別表彰を実施し、他の部署にも奮起をうながしています。



取締役
製造部長兼技術部長
三谷 芳弘

8 株式会社セラテクノ 本社・明石工場

所在地 〒673-0037 兵庫県明石市貴崎5丁目11番70号
TEL 078-923-8678 FAX 078-923-8397
主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物

省エネルギー、廃棄物削減、有害物質の使用低減を中心に各職場で「エコアクション21」活動を実施しています。特に省電力、ピーク電力低減に積極的に取り組んでいます。今後も環境負荷低減、地域社会の環境保全を目的に継続的な改善に努めてまいります。



工場長
多田 秀徳

9 株式会社セラテクノ 備前工場

所在地 〒705-0033 岡山県備前市穂浪2835番地の7
TEL 0869-67-0011 FAX 0869-67-1346
主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物

地域社会の生活環境保全のために、環境関連法規制を遵守すると共に、工場全体で「エコアクション21」活動を通じて、省エネルギー・節水・産業廃棄物の発生抑制並びにリサイクルなどに積極的に取り組み、環境負荷のさらなる低減を図ってまいります。



工場長
有馬 慎弥

10 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所

所在地 〒597-8501 大阪府貝塚市二色中町11番1
TEL 072-432-9251 FAX 072-432-2339
主要製品 鋼索、鋼線

当製造所は海が隣接しており、工場排水に最大の注意を払って管理しております。2015年度は、クーリングタワーのポンプをインバータ化するなどで電力使用量を削減しました。今後も環境活動を活性化させ、地域に貢献できる製造所を目指します。



取締役
二色浜製造所長
森野 徹

11 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

所在地 〒934-8502 富山県射水市八幡町3丁目10番15号
TEL 0766-84-3181 FAX 0766-84-3468
主要製品 特殊鋼鍛鋼品(ダイス鋼・プラスチック金型用鋼・その他精密鍛造材)、特殊鋼圧延鋼材

2016年度以降の中長期計画課題として、当社グループ会社の環境監査実施、都市ガスへの燃料転換によるCO₂排出量の削減、鉄鋼副産物の最終処分量削減などを取り上げており、「安全環境最優先」のスローガンの元、従業員一丸となって取り組んでいきます。



代表取締役専務
富山製造所長
林田 敬一

12 関西熱化学株式会社 加古川工場

所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町7番地
TEL 079-436-1500 FAX 079-435-1626
主要製品 コークス、コークス炉ガス、化成品

地域社会から信頼される企業を目指し、加古川工場では、大気汚染・水質汚濁などの防止はもとより、省エネルギー活動や廃棄物の再生利用など、加古川製鉄所と一体となって、環境保全活動を推進しています。



工場長
岡井 務

13 日本エアロフォーシ株式会社 本社工場

所在地 〒713-8013 岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8264番7
TEL 086-523-0135 FAX 086-523-0137
主要製品 航空・発電用チタン合金・ニッケル合金大型鍛造品

世界最大級の5万トン油圧プレス機により、航空機・発電用大型部品を鍛造する事業所です。2013年の稼働以降、順調に量産品目を拡大し、2016年度は残るエンジン部品の認証を得て量産に入ります。ロット拡大や連続操業にてエネルギー使用効率を向上していきます。



代表取締役社長
岡野 正之

14 藤沢事業所

所在地 〒251-8551 神奈川県藤沢市宮前100-1
TEL 0466-20-3111 FAX 0466-20-3115
主要製品 フラックス入りワイヤ、溶接ロボットシステム

工場長
長谷川 章

化学物質の適正管理や排水処理設備の水質管理などの法制順守、廃棄物の発生量抑制や省エネルギー活動などの環境負荷低減に、事業所一帯で取り組んでおります。また事業所周辺清掃を通じて、地域社会との共生・協調にも引き続き努力をしております。

15 茨木工場

所在地 〒567-0879 大阪府茨木市東宇野辺町2-19
TEL 072-621-2111 FAX 072-621-2015
主要製品 被覆アーク溶接棒、フラックス入りワイヤ、配合溶剤

工場長
河野 知志

住宅地に隣接する都市型工場として、地域との共生を大切にしながら工場を操業しています。2015年度は環境関連設備の管理レベルの向上に努めました。また豊かな茨木の自然保護を目的とした里山保全活動に力を入れています。2016年度もこの活動を引き続き推進します。

16 西条工場

所在地 〒739-0024 広島県東広島市西条町御園宇6400-1
TEL 082-423-3311 FAX 082-420-0038
主要製品 被覆アーク溶接棒

工場長
藤本 直樹

2015年度のトピックスは、環境負荷低減の一例として、有機溶剤などの使用抑制を目的に、溶接棒の識別色塗料の切り替えを行ったことです。2016年度は環境マネジメントシステムの「エコアクション21」を活用して、過去のトラブルの再発防止策の有効性を再検証し、公害防止に万全を期します。

17 福知山工場

所在地 〒620-0853 京都府福知山市長田野町3-36
TEL 0773-27-2131 FAX 0773-27-6358
主要製品 ソリッドワイヤ

工場長
迫 勝幸

2015年度は老朽化した設備やインフラからの化学物質漏洩などの対策のため、重要設備の更新や保全により環境負荷低減に取り組んできました。今後も、継続して重要設備やインフラの更新・保全に取り組むと共に、教育・訓練を通じて従業員の環境に対する意識向上を図り、従業員一丸となって環境負荷低減に取り組んでいきます。

18 神鋼アクトテック株式会社 日高工場

所在地 〒669-5302 兵庫県豊岡市日高町岩中682
TEL 0796-42-1212 FAX 0796-42-1218
主要製品 溶接用裏当て材・高機能材脱臭フィルター

工場長
村田 忠博

「エコアクション21」の下、本社・営業所・工場の全体的活動を継続中です。特にコウノトリの野生復帰を推進する豊岡市の日高工場では、一人ひとりがさらに環境意識を高め「環境に配慮した生産活動」を実践していきます。

19 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

所在地 〒709-2105 岡山県岡山市北区御津伊田1028-12
TEL 086-724-4181 FAX 086-724-4340
主要製品 サブマージアーク溶接フラックス

代表取締役社長
樋田 幸雄

「エコアクション21」の認証を取得し9年が経過しました。継続的な活動により少しずつではありますが環境管理レベルの向上を感じています。もうすぐ節目の10年、さらなる向上を目指し一丸となって取り組んでいきます。

20 真岡製造所

所在地 〒321-4367 栃木県真岡市鬼ヶ丘15(第2工業団地)
TEL 0285-82-4111 FAX 0285-84-0231
主要製品 アルミ板・条

所長
谷川 正樹

省エネルギーとCO₂排出量削減を目的に重油から都市ガスへの転換を継続しており、2015年度も溶解炉1基の燃料転換を行いました。これにより製造所でのC重油の使用はなくなり災害リスク低減にも貢献できました。今後も環境に配慮したものづくりと地域の皆様との共生に努めていきます。

21 長府製造所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町14-1
TEL 083-246-1211 FAX 083-246-1271
主要製品 アルミ押出材、アルミ加工品、伸銅板・条

所長
岡野 康司

操業方法の見直しやエネルギー使用量の見える化などソフト面の改善に取り組み、エネルギー原単位を約10%低減することに成功した活動で、2015年度の省エネ大賞を受賞しました。これからも、地域との協調・共生を大切に、環境負荷の低減、廃棄物削減に努めていきます。

22 大安工場

所在地 〒511-0284 三重県いなべ市大安町梅戸1100
TEL 0594-77-0330 FAX 0594-77-2249
主要製品 アルミ・マグネシウム鋳造品、アルミ・マグネシウム鍛造品

工場長
沼部 裕次

2015年度は省エネルギー活動として燃焼炉の断熱化工事や燃費改善活動を実施しました。製品では、航空機部品用のマグネ・アルミ鋳鍛材や自動車のアルミサスペンション部品の軽量化によるCO₂削減に貢献しています。また、海外生産拠点のマザープラントとして、環境防災に関する情報を共有し、その国の法令遵守、環境に配慮した生産活動を積極的に支援し、3極生産体制確立を推進していきます。

23 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社・工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
TEL 093-381-1331 FAX 093-381-3833
主要製品 銅合金管、モールド、複合材、熱加工品

代表取締役社長
原口 一彦

2015年度は、懸案が残っていた複合製品・熱加工品の洗浄で使用するジクロロメタンの全廃に取り組み、これを達成することができ作業環境の改善が図れました。2016年度も「エコアクション21」に基づく活動を展開し、全社一丸となって環境保全に努めてまいります。

24 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場

所在地 〒593-8315 大阪府堺市西区菱木2丁目2153番地の1
TEL 072-271-1481 FAX 072-271-1486
主要製品 アルミ合金線・棒、アルミ線棒加工品

取締役社長
杉下 幸男

2015年度は、顧客と苛性アルカリ洗浄の省路化を進め、ほぼゼロにすることができ、当社の大きな環境リスクであるPH変動要素を排除しました。2016年度は、昨年来進めている製造可能サイズのブレードスルーを完遂し、2017年度以降の省エネルギーに準備します。

25 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場

所在地 〒315-8523 茨城県かすみがうら市上稻吉1758-1
TEL 0299-59-4111 FAX 0299-59-4597
主要製品 建設仮設材・自動車部材などアルミ加工品

代表取締役社長
遠山 茂幸

当社は継続して環境負荷低減活動「①省エネルギー②省資源③活人化④品質歩留⑤棚卸削減」を推進中です。2015年度は工場内動力・電灯のトランス継続更新やエアコンを高効率・省エネルギータイプに順次更新するなど消費電力削減を図りました。2016年度は全従業員による3R活動を推進すると共に地域社会との共生にも邁進します。

26 神鋼リードミック株式会社 本社・工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
TEL 093-381-1337 FAX 093-381-3352
主要製品 電子部品・半導体・集積回路部品

代表取締役社長
員賀 史幸

当社の基本理念に掲げています、「地球にやさしい会社」を継続して目指し、全員参加の環境保全活動を積極的に進めていきます。新中期環境管理計画の初年度である2016年度は、設備の管理の継続および緊急事態対応能力の強化を行い、環境リスクの管理強化を図ります。

27 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

所在地 〒257-0015 神奈川県秦野市平沢65番地
TEL 0463-82-3111 FAX 0463-83-1920
主要製品 空調用、給水・給湯用銅管および銅合金管

工場長
土屋 昭則

当工場は緑と名水で知られる秦野に立地する銅管トップメーカーとして、高い生産歩留の維持と省エネルギー活動によりエネルギー原単位のさらなる向上を目指しながら、たゆまぬ技術開発を通じて、環境保全に貢献してまいります。

機械事業部門

28 播磨工場

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島41
TEL 079-436-2101 FAX 079-436-2199
主要製品 空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連商品



工場長
中南 政彦

[地球温暖化対策]や[循環型社会の構築]などが人類共通の重要課題と認識し、① 環境に配慮した生産活動、② 製品・技術・サービスでの環境への貢献、③ 社会との共生・調和の実践により、社会的責任を果たし企業価値を向上してまいります。

29 神鋼造機株式会社 本社

所在地 〒503-8505 岐阜県大垣市本今町1682番地の2
TEL 0584-89-3121 FAX 0584-87-0020
主要製品 試験機、動力伝達装置、発電装置



代表取締役社長
米谷 剛人

総合機械メーカーとして、世界に通じる第一級のQCD工場を目指し、環境に配慮した生産活動と製品・技術・サービスの提供に取り組むと共に、法令順守、各環境管理活動を通じて、社会に貢献してまいります。

エンジニアリング事業部門

30 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19番地
TEL 079-436-2500 FAX 079-436-2506
主要製品 化学・医薬品製造用機器



所長
今中 照雄

環境関連企業として、環境コンプライアンスを最重点課題として取り組むと同時に、2016年度から始まる次期中期計画では、特高受電設備更新の他、効率化と省エネルギーを主眼とした生産設備更新を積極的に進めていきます。

31 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

所在地 〒651-2241 兵庫県神戸市西区室谷1丁目1番4号
TEL 078-992-6500 FAX 078-997-0550
主要製品 ー



センター長
田頭 成能

技術研究所では、地域環境に配慮した運営に努めています。排水については、場内に処理設備を設けて管理すると共に、緊急事態対応訓練を所員全員参加で行うなど万が一にも備えています。また、廃棄物の減量と再資源化の推進にも取り組んでいます。

電力事業部門

32 株式会社コベルコパワー神戸 神戸発電所

所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2番地
TEL 078-882-8036 FAX 078-882-8037
主要製品 発電事業



代表取締役社長
三木 尚司

美しい神戸の山並と港に囲まれた、地域に愛される都市型発電所として、従業員全員で環境保全活動に取り組んでいます。発電所の適切な操業管理、保全管理により、エネルギーの安定供給を図り、皆様から信頼される発電事業を営んでまいります。

本社部門・その他

33 高砂製作所

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2-3-1
TEL 079-445-7111 FAX 079-445-7231
主要製品 鍛造鋼製品、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー・原子力機器



所長
滋野 敦士

高砂製作所は、鍛造鋼、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー関連機器など、特色ある製品の提供を通じて社会に貢献していきます。生産活動におきましても、省エネルギーや廃棄物の削減など環境負荷低減活動を継続的に進め、環境保護に取り組んでいます。

34 神戸総合技術研究所

所在地 〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台1丁目5-5
TEL 078-992-5600 FAX 078-992-5532
主要製品 ー



開発業務部 部長
佐伯 公三

神戸総合技術研究所は省エネルギー・省資源など、環境に配慮した新製品・新技術の研究開発を通じて、社会に貢献してまいります。また、「エコアクション21」に則った環境経営にも全員参加で取り組み、一人ひとりが活動の意義を理解して自ら環境保全活動を推進する、環境意識の高い風土作りに努めます。

35 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号
TEL 079-445-9020 FAX 079-445-9025
主要製品 スパッタリングターゲット材



ターゲット事業本部長
楠本 栄典

フラットパネルディスプレイ用配線材料や酸化物半導体材料の製造を行う中で、資源循環対応として廃棄物の発生抑制や分別回収により再利用・再資源化を進めております。また、我々の製品を組み込んだ携帯端末(スマホ)や省エネルギー型高機能TVを通じ社会の環境改善へ貢献してまいります。

36 コベルコ建機株式会社 広島事業所

所在地 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号
TEL 082-943-5321 FAX 082-943-5322
主要製品 建設機械



事務所長
瀧川 誉

五日市工場は工程排水処理設備が完成し、沼田工場はメニュー再編に伴う環境対策を推進中です。製品ではハイブリッド機を含むさらなる燃費の向上と排ガス規制対応を実現する新機種量産化の完遂、引き続き水性塗料導入による有機溶剤の削減と省エネルギー設備の導入、油漏れ防止の三段階防止策(手元防止、拡大防止、最終防止)の展開に取り組んでいきます。

37 コベルコ建機株式会社 大垣事業所

所在地 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番7号
TEL 0584-89-3104 FAX 0584-87-0014
主要製品 建設機械



事業所長
秋山 健

当事業所では5.5トン以下のミニショベルを生産しています。少量生産機種も含め、モデルチェンジを完了し、全機種が低燃費、低騒音の環境にやさしいミニショベルとなりました。工場内の照明もLED化を完了し、省エネルギーにも努めております。2016年度も生産性の向上やゴミ削減活動を通して環境負荷の低減に努めていきます。

38 コベルコ建機株式会社 クレーン事業本部

所在地 〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740
TEL 078-936-1331 FAX 078-936-1390
主要製品 クレーンなど土木建設機械、その他諸機械



クレーン事業本部長
小村 和也

当事業所では低燃費・低騒音・軽量化を目指した製品開発に取り組んでいます。2015年度は省エネルギー対策を実施した結果、2年連続で前年の年間電力使用量を下回りました。2016年度も引き続き省エネルギー対策を実施すると共に、廃棄物発生量の削減活動や構外清掃活動を通じて地域社会の環境保護に取り組んでいきます。

39 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2-2-1
TEL 093-391-2835 FAX 093-391-2847
主要製品 超電導線材



工場長
倉橋 秀文

当社は電気抵抗ゼロの超電導線の供給を通じて省エネルギー技術に貢献しています。2007年度に認証取得した「エコアクション21」の環境目標達成に向けて継続的改善に取り組んでいます。今後も地域社会の一員として環境対策に取り組んでまいります。

40 神鋼機器工業株式会社 本社

所在地 〒682-0014 鳥取県倉吉市海田東町112番地
TEL 0858-26-8111 FAX 0858-48-1077
主要製品 高圧ガス容器などのプレス加工品・製品



生産本部長
泉谷 雅人

当社は自然豊かな倉吉の地域の皆様との共生を図るため、環境に配慮した操業を心がけております。2015年度はCO₂排出量削減のため重油ボイラーの燃料転換、コンプレッサのインバータ化を実施しました。2016年度は焼純炉の改造などに取り組み、さらなる環境負荷の軽減に努めてまいります。

読者の皆様からの評価

神戸製鋼グループでは、ステークホルダーとのコミュニケーションの一環として、環境・社会報告書の発行にあたり、毎年、読者の皆様にアンケートを実施しています。2015年度版に関して、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。今後も、読者の皆様の「声」を誌面に活かし、より良い環境・社会報告書づくりを進めていきます。

トップメッセージについてのご意見

評価できる

- 多様な事業分野がある中、「たとえば」の事業戦略がわかりやすく語られていてイメージしやすい。
- 神戸製鋼グループからの「ごあいさつ」のページという感じで好印象。
- 文章量がコンパクトで読みやすい。
- 本文の前にリード文がついていて、何を語るかが示されているのがよい。
- グループ概要や売上高などについての図表、企業理念が別途説明されており、全体感がある。
- 報告書の冒頭に見開きでメッセージ、という構成が印象的だ。
- 社長の写真が自然だ。

評価できない

- 一つ一つの段落が細切れな感じがした。
- 経営の数値目標が示されていない。
- 会社概要と理念、メッセージが見開きに入られているので、ゴチャゴチャした印象を受ける。
- 社長の価値観などパーソナルなものが感じられない。
- 社会情勢や事業を取り巻く環境について言及されていない。

環境・社会貢献活動についてのご意見

- CO₂排出量削減を特集で取り上げ紹介してほしい。
- 事業を通じたCO₂排出量を一層削減してほしい。さまざまな技術検討はもちろん、森林保全・生物多様性保全など、幅広い側面から環境負荷を低下させてほしい。
- 企業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりだが、本報告書を読むかぎり、神戸製鋼グループは発展し続けるのだろう。

一般記事についてのご意見

評価できる

- 水素社会への取り組みに未来を感じる。
- 「水素社会に貢献するKOBELCO」が、図解などを用いて内容がわかりやすく、今後の環境・社会への貢献が大きき期待される。
- 冒頭で、編集方針がイラストを使ってわかりやすく示されている。
- 環境中長期目標とその取り組みのブロックで、目標と実績がほどよいボリュームで一覧できるのがよい。
- 環境中長期目標について、目標と実績が具体的に示されている。
- 文字が大きくて読みやすい。
- 社会性ブロックの活動報告が、ステークホルダー別にわかりやすく整理されている。
- 活動ハイライトがわかりやすい。
- 特集「阪神・淡路大震災から20年」がコベルコらしくてよい。
- 読者の皆様からの評価が新鮮。
- 健康経営銘柄について初めて知った。
- ページ横にINDEXがついて内容を分類しているので、いまだこを見ているのかすぐわかる。

評価できない

- 文字や写真が大きすぎる。
- 文字量が多い。
- それぞれの活動の重要度がわからない。
- 環境中長期目標に数値目標を示してほしい。
- 環境報告と社会性報告の区別があいまいだ。
- 企業理念と環境の結びつきがはっきりしない。

貴重なご意見、ありがとうございました。より良い環境・社会報告書づくりに活かしてまいります。



(株)神戸製鋼所
CSR委員会

「環境・社会報告書2016」の発行にあたっては、製造業ならではの「ものづくり」を通じた環境と社会への貢献活動について、幅広いステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えすることを意識しました。巻頭特集では川崎会長兼社長による今年4月に発表した2016年度から2020年度までの「グループ中期経営計画」の解説とステークホルダーの皆様へのメッセージを掲載しています。第2特集として当社グループ独自のラグビーを始めとするスポーツを通じた社会

貢献活動についても紹介しました。また、CSV(共通価値の創造)の取り組み事例として、水素社会の実現に貢献する水素ステーション総合テストセンターなどについても報告しています。写真やグラフを積極的に掲載し、当社グループの取り組みをご理解いただけるよう努めました。今後も読者の皆様から忌憚のないご意見を賜り、内容の充実に努めてまいります。

COMMENT

[第三者コメント]



神戸製鋼グループ 「環境・社会報告書2016」を読んで

京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長・教授

酒井 伸一

PROFILE

酒井 伸一(さかい・しんいち)

1984年京都大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。同大学助手、助教授を経て2001年より国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長。2005年より京都大学教授、2010年環境保全センター長、2011年学内改組により現職。廃棄物資源循環学会元会長。現在、中央環境審議会委員、同審議会の循環型社会部会長を務める。著書に『ゴミと化学物質』(岩波新書)など。

神戸製鋼グループ環境・社会報告書2016における読み応えのある強いメッセージは、「川崎博也会長兼社長が語る、2020年への挑戦」でした。グループの成長分野の一つとされている「輸送機の軽量化」では、超ハイテンやアルミ製品といった例を取り上げて軽量化と強度の両立、異種素材間をつなぐ高度な接合技術を紹介しておられます。こうした側面で神戸製鋼グループが優位性を有しておられることは周知の事実でしょうし、その技術を日々進化される努力に努めておられることと拝察します。ちょうど2016年5月に日本で開催されたG7サミットでは、富山物質循環フレームワークに合意されました。より資源効率に優れた社会をめざさねば持続可能な世界はないとのメッセージともいえ、「輸送機の軽量化」は多くの側面で望ましいベクトル上にあるとみていいでしょう。

一方、対応すべき3つの社会ニーズを前提に中期経営計画を立案されたことが紹介されています。その社会ニーズの中の「世界的な環境規制」と「電源構成の多様化」という2つの動きをどうみるかについては、不断の検証と柔軟な対応が求められるように思います。関連の深い事業展開、とくにエネルギー・インフラ分野の電力事業についてです。現在の事業展開は多様性に応じているか、世界や社会のトレンドに応じてい

るか、経営に跳ね返る多様なリスクにどう応えているか、といった視点からのPDCAサイクルは結構短い時間サイクルで必要かも分かりません。キーワードは、パリ協定、再生可能性、資源効率といったところでしょうか。こうした方向への対応として、「製品・技術を通じたCO₂排出量削減」が5210万トンと紹介されていますが、こうしたインパクトの勘定方法やその根拠を公表していくことが第一歩になるものと思います。

神戸製鋼グループは、2010年以降、ものづくりを通じた社会貢献、CSR経営の明確化という方向に舵を切り、「共通価値の創造(CSV: Creating Shared Value)」への取組みを宣言した経営を標榜されています。今後、持続可能性という趣旨では、2015年9月に国連で定められた持続可能な開発目標(SDGs)が、世界的に重要なCSRターゲットになることは間違いなさそうです。つまり、環境、貧困、健康などの17のゴールと169のターゲットから構成され、世界各国が支持し、2030年を達成年として想定したSDGsです。ゴールはたんに目標ではなく、Aspiration、志と見なければならぬという解釈もあります。共通価値の創造という文脈の下で、具体化すべき対象が明確にされたという意味で、気候変動対策へのパリ協定とともに、有効に活用していけることを願っています。



KOBELCO

株式会社神戸製鋼所

神戸本社 〒651-8585 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4
東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12

発行:(株)神戸製鋼所 CSR委員会

ホームページでもご覧になれます
http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/